

# 地名研究会報

第69号

平成12年12月3日

鹿児島地名研究会

I. 第69回例会 平成12年6月4日(日) 於教職員互助組合会館和室

(出會者) 青柳俊二・上野堯史・小山田稔・川野雄一・小園公雄・坂本誠・相良さん・田代さん・築地成郎・永坂芳彦・西田春人・繁昌正幸・肱岡修一郎・平田信芳・松田 誠・三善喜一郎・米原正晃(計17名)  
(相良さん・田代さんは初参加だったが、住所とお名前を聞きもらす)

II. 大日本地名辞書読会 P.1751~P.1753

〔問題となった地名および事項〕 関ヶ原の戦と日向国の動き、大隅隼人征討の経路

大隅・薩摩の官道、中世・近世の道、稻積城、種子島との連絡路、稻積郷  
関ヶ原の戦と日向国の動き 小園 そうですね。

平田 今日読んだ新名郷・江田郷は現在 平田 鹿児島県以上に検討が進んでいない  
の宮崎市になります。説明はいらないと思 じやないかな。  
うのですが、宮崎は神武天皇に結び付いて 小園 例えば720年の隼人討伐時のルート。  
います。神武天皇の説明はこれ以上言わな 肥後国佐敷からえびのを通って横川の方へ來た  
くともいいようなことが書いてあります。  
とかいうのと日向をやって來たというルートが

今、NHKの大河ドラマで「葵三代」を あるわけですけど、それも明確でないのです。  
やっていますが、慶長五年、関ヶ原の戦の ただ長門本平家物語には、あれが・・・。  
後、義弘が帰つて来る退路を断つために伊 平田 俊寛が? 小園 船で來たということは知られている。  
東氏が兵を擧げているのは鹿児島ではあま 陸路もあった筈ですがね。古代道路の会(古代  
り知られなかったことです。義弘の軍勢は 交通史研究会)の話では、大宰府から下つて  
命からがら鹿児島に帰り着いたことが考え 行つて豊後国と阿蘇の間を来て、肥後から日向  
られます。

小園 伊東氏は関ヶ原に行かなかつた?  
平田 行かなかつたけど、東軍に付いた 優島県の場合は未確認ですけども、熊本・大分  
のでしょうか。  
小園 その前になりますね、島津氏に おったということです。その後の経路は、日向  
やっつけられたのは。

平田 われわれが知らなかつたことが おったということです。その後の経路は、日向  
多いということですね。何か疑問点・不明 の道路が明確でない。そこをどうするか。俊寛  
なことがありましたら出して下さい。  
大隅隼人征討の経路

平田 日向国の駅路も判らんね。  
平田 俊寛の航路は、長門本以外ははっきり  
しないわけです。長門本に書いてあることは、  
どうしてか歴史家の話題にならないし、公認さ  
れてもいい。あれほど詳しいデーターはない

のだけど、人々は顧みない。長門本記載の俊寛が流されて来た道、あれが最短距離ですよ。

隼人征討の経路も、後の肥後国と日向国、肥後国と薩摩国、肥後国と大隅国、日向国と大隅国との連絡路と関わりがある。そういう経路をきっちり押さえる必要があると思います。

#### 大隅国・薩摩国の官道

小園 国家体制に組み込まれる702年と713年かな、薩摩国と大隅国が出来た時には国府間の通路があったということは推測出来るわけですね。それ以前にもあったのだけれども。

平田 当然ですよ、それは。他の県ではまあ何というかな、墨書土器などはどこでも出て来るのだけれども、大隅・薩摩の場合にはそのルート：官道上に出て来る筈です。遺跡を地図上にドットで落として行けば、遺跡の密度から大体の見当が付く。

大隅国に来るルートは今の九州縦貫道に並行していると考えられる。われわれが調査していた所はそのルートであったとの見直しが必要だと思う。

小園 古代道路の会に行くと、例えば高速道が出来て、そこに旧道が発見されたという形で発掘に取りかかって旧道が見えて来るわけですね。

平田 鹿児島県の場合も。

小園 掘りようがないでしょう。高速道を掘ったのはわれわれだけ、後であればと気が付くわけです。空港の傍では、道路とおぼしき遺構もあった。今から考えれば、あれはそのように見るべきだったと思うのです。空港の傍で完全な

墨書土器が出土しています。その時は、意味は判らなかつたわけです。今日は埋文センターの繁昌君が見えていますが、その辺はどうですか

繁昌 今、平田先生がおっしゃったように、発掘調査自体で道路を推定するような遺構が見つかるのはあまりありません。古道と呼ばれる踏み締められた幅が50cmから1m程度のものはありますけれど、古代官道につながるような大きな道とか駅路・伝路に比定するようなものは見つかっていません。だから、肥後から薩摩そして大隅・日向に抜ける道沿いの所で念入りに調査して見付けるというのが一つ、それから一応古代官道といわれる所を実際に掘ってどういう状況にあるのかを確かめ、そしてそのつながりを探す方法をとれば解明できるのかな、と思います。

小園 蒲生と薩摩国府との間のルートもまだ明確でないわけでしょう。例えば樫野駅がどこにあるのか。

平田 市比野説と市野々説があって、入来の人達は市野々説を唱えているのだけど。鹿児島県すなわち大隅・薩摩の駅路・伝路、とくに駅路については歴史考古学的に歴史地理学的に

こういう押さえ方があるという方法論を確立していかなきやならない。今日の話はそういうところに結び付いて来ます。私がいろいろ試みているのも、そこがねらいなのです。

薩摩国から蒲生に出るには新留峠を通ったとみられます。古い道で新留峠に掘切が残っています。ところが峠の所も竹藪になっています。

人が通らないのです。

小園 最近はバイパスが出来たりして。

平田 うん、皆そっちを通ってしまうから、

新留峠なんか誰も登って行かないよ。

小園 古代道路を造る時は二十五里の間隔で

造るとかいうような駅の設置が延喜式に明記されているわけですが、それに当てはめてみると大体合うのです。川があつたり、大きな山があつたりすると、それを避けて短くしてもいいし、長くしてもいいという記録があるのですがね。

平田 大隅・薩摩の場合、主な道路は国道3号と国道10号でしょう。これは国分（大隅国府）と川内（薩摩国府）を通っています。もう一つ大隅・薩摩では島津氏が鹿児島に守護所を開いてから鹿児島というポイントが出来たので、鹿児島を通る道が出来たわけだけでも、それを除けば国分と川内を通っている道が古くからの道になります。この基本は変わらない。

#### 中世・近世の道

平田 去年まで8年間、歴史の道調査の一員として勉強させてもらったのですけど3号線・10号線は近世の道路の延長です。中世もそれにつながって来ると思う。近世の道路は全部麓と麓を結んでいます。麓を辿って行けば近世の道が見えて来ます。

麓以前は中世の城です。城があった所を地図に落として行けば、中世の道が見えて来ます。鹿児島の場合、3号線と10号線の前が麓と麓を結んだ道になるし、それは中世の道にも重なって来ます。そうしたら古代もそんなに変わっていないということです。

小園 道路というのは、そう簡単に造り替えは出来ませんからね。やはり以前の兎道・獣道から始まって行く。私が国分から都城への長門本平家物語に登場する道を発表しましたが、田網 弘？という人が『古代の道路について』という本の中では、辺

境では幅が1mもなかつただろう、と。ただ馬が通るだけの幅。そうすると奈良から大宰府までが大道であつて、それから肥後までが中道。そういうきまりがあつて、大隅の方は範囲に入つていなかつた、と思います。

平田 大隅国と薩摩国を比べたら、まあ大隅

は一番最後だけど、薩摩・大隅と順序立って造られて來たとは思うけどね。

小園 熊本あたりは既に軍事用道路：軍馬が通るための「車路」というのがあるのです。

平田 立派な道路がある。鞠智城があるからね。

小園 私たちは駅路というのですけどね、熊本の人たちは車路という言葉を使っている。

稻積城 平田 鹿児島県の歴史家が見落としてならぬのは、稻積城をおさえなきやいけないということです。

小園 あゝ。

平田 稲積城は大隅国府の前身だ、と思わない。だから道は稻積城につながって来るはずです。隼人征討の前進基地は稻積城だった。そうでなきや国分を抑えられない。姫城の山に立て籠もったとか、岩城の山（国分山）に立て籠もったと言ふことだけ言っているけれども、じや一官軍側の基地はどこだったのか。恐らく稻積城だと思うのです。稻積城に対する考え方、和氣清麻呂が稻積老の世話をなったというだけのことで、牧園の伝説が出来上がっているわけです。

歴史を振り返って行く時に大事なことは神社と寺を全部洗い直す必要があると思うのです。神社を見直した場合に、稻積神を御祭神にしているのは竹子の神社。だから溝辺が一番くさいということです。私は、そう思う。稻積城は他

県の人から探し出されたら恥だと思います

小園 城の古名はあっても、ルートとの結びつきと一緒に考えていかないと。

平田 そうですよ。

小園 例えれば宇佐八幡宮史料には稲積城とか日向にある児湯郡の三納城とかいうような形で出て来て、薩摩国には拠っていない。稲積城は私なんかは牧園のどこかだと考えているけれども、まだ史料的には設定出来ない。

平田 うん、北九州の人たちは稲積城が北九州にあったと思っている。

青柳 いい機会だから言っておきたいと思います。何年か前に駅路について発表しました。最近思うのは先程言われた国道3号線沿いというのは、再度マークしないといけない。そのように思います。理由の一つは駅路の出来方です。種子島というか多福国府というのが9世紀の中頃まで存在します。すぐ無くなったのかな。

平田 すぐ無くなるよ。(824年)

青柳 9世紀の中頃まではあったから、多福島に向けての駅路・伝路というのが当然ある。そのところを全然目を付けていない。駅路についての議論が停滞している理由の一つだと思います。

平田 それは、いい着想だね。種子島とどこで結んだか、ということだね。

青柳 もう当然のというか。

平田 当然だけどもね。

青柳 それで多福国との連絡路はいらなくなったり、どうしたかと言うのと、もし薩摩半島と結ばれていたら、それなりに例えれば遣唐使の支援とか、遣唐使が廃止されるまではそれなりの役割が駅路には

あった。薩南の駅路があつたらですよ。そういうまあ名前をあげれば高来駅みたいのが残るとか、田後にしても市来あたりにあっても、串木野あたりにあってもおかしくない。串木野辺から3号線より狭いけれども蒲生駅に向かうとかを考えてもよい。今考えてみれば、それがごく当たり前というか、ちゃんとした道筋で鹿児島の駅路を考えるやり方だと思うのです。

平田 基本は、国府と国府を結ぶ道になります。その間に必ずいくつかの郡衙を通るはずですね。鹿児島の場合、郡衙がどこにあったかというのをきちっと押さえなきやいけない。

青柳 それで、櫻野が薩摩郡だということ。いわゆる昔の入来院が薩摩郡だということにしても、よく考えてみたら渋谷氏というのが後々高城郡の地頭という形で継ぐというか、渋谷氏が一手に收めるわけですけれども、渋谷氏がその地頭になったということでも、渋谷氏が伸びるには高城郡の地頭ということで押されていたら、渋谷氏の本拠が入来になっていくというの、やっぱり入来が高城郡だったということじやないかな思つたりもするわけです。

何故、薩摩郡だというふうになって行くのか、それも判らない。

平田 高城郡の範囲については一つの面白い指摘ですね。

小園 種子島と薩摩・大隅というのは連盟を結んだわけでもないし、関係があるわけでもない。種子島の僧侶にしても海を渡って太宰府に直接行っているわけです。帰って来る時も直接帰って来るというような形です。難破したら陸にあがって处置してもらうということもあるでしょうし、まあ種子島とどこの港、坊津などの川山川なのか(笑い)。それが判らない。あるいは川内の

青柳 反って、大隅半島の方が近いのかなと思つたりもしてですね。どうなつているのか、誰か考えて頂ければ有り難いのですけど。

平田 種子島がどことつながるかだね。

小園 種子島の喜志鹿岬に行けば、50km離れていますが目の前に佐多岬が見えるわけですからね。そうすると佐多町の郡でしょう。大隅半島が近いなと思うのですが、太宰府との関係からすると有明海を通ったか、ですね。

平田 豊島からよく種子島に移住しているでしょう。明治になってからだけれどね。太宰府と結ぶのだったら、川内河口の網津駅が大きな意味を持つと思う。網津駅の評価が低いのじゃないかな。

小園 史料がないというところが一つの問題点。

平田 今から出て来るでしょう。他にありませんか。

#### 稻積郷

松田 稲積郷というは何と言われたのですか。以前に聞いたことがあるのですが

平田 稲積老(いなづみのおゆ)のこと?

松田 あゝ、老翁(おきな)。

平田 えゝ、老翁。

松田 稲積老翁。和氣神社と何かのつながりで。

小園 あそこは中津川。犬飼瀧の上。中津川の井手のあたり。

松田 以前話されたような気がしたのだけど。

平田 洪水の時に乙女を人身御供に捧げる風習があったのを、稻積老から相談を受けた和氣清麻呂が止めさせた。惡代官を

退治したような話があって、和氣清麻呂が尊敬されたということじゃないでしょうかね。それから話が拡がって稻積老が和氣清麻呂の身のまわりの世話をしたという言い伝えが残って、稻積老が住んでいたとの伝承が出来上がるのでしょうか。その辺はよく判らないけど。そういうことです。

三善 つい先日、3月3日の鹿児島新報に神武天皇の東征は福山の宮之浦からだ、という記事が大きくページを使って出ておりました。今まで美々津からということになっているようだけれども米原武?さんが宮之浦からだと断言していいだろう、と述べていました。

平田 ああそうですか。宮之浦神社にはそういう伝説があるのです。昔からそう言っているわけで、それをとりあげたのですね。

三善 宮之浦に大きな杉があって、そこに住んでおられた、と。そしてそこから御東征された、と。

平田 それは福山にもあるし、串良に行けば柏原から出発したと言います。

小園 稲積の話で思い出したのですけれども清麻呂が太宰府に流された。道鏡によって流された和氣清麻呂。太宰府天満宮の史料とか宇佐八幡宮の史料とか整理されたのを見ると、和氣一族が太宰府の官人として入っているのです。和氣清麻呂が九州に流された理由も、穏便な所に手配し流された。やっぱり藤原系ですからね、藤原氏に協力したですからね。国司は藤原系の者が大隅にも来ていると思うのです。太宰府の関係で妙見温泉あたりは国府とも近いし、そう言ったこととの関係かなと史料を見ながら考えました。実際に和氣清麻呂は大隅国に流されて来ているわけですから、冷遇したらいかんわけですから、待遇をよくしただろう。

平田 そうね、国府の傍であることは間違いない。

小園 大宰府との関係もありますからね。大宰府の役人の中に和氣一族が勢力を持っているのです。これは面白いことだと思いました。機会があったら、史料を見て

## 大隅・薩摩の臨済寺院

平田 信芳

今日会報67号を配りました。今日で69回の例会になります。本来は68号を配らなければならぬのですが、3ヶ月遅れております。私が二度入院したことが響いています。未だにそれを回復しておりません。昨夜やっと作りあげて読み直しましたら、ミスがありました。訂正しておきます。

3ページの左側6行目「知られています」は「知られています」。こんなのはすぐ判ると思います。4ページ左側の二行目「何故万之瀬川を通称の場としたか」、通称は取引の通商です。こんなのはワープロやパソコンでよく起こる現象です。次はとんでもないミスです。5ページ右側の一番下「小園四・五日はかかったでしょう。そして、そこの家臣たちが出迎えたという」は実は6ページ右側の2行目に入ります。6ページ1行目「史料を見たことがあります。だから」、これも右側の方に移るので、「私は何かでみましたよ」と。鹿児島から高須に出て、鹿屋に出るルートを。何かの史料でみたことがあります。」それから「そこの家臣たちが出迎えたという史料を見たことがあります」という文章になるのですが

パソコンの操作：移動・切り貼りするうちに

下さい。

平田 はい、どうも有り難うございました。今日新しく見て方々は今日の会の終わりに面白いと思われたら、次回連絡する必要がありますのでお名前と住所を私の方にお知らせ下さい。

## 大隅・薩摩の臨済寺院

平田 信芳

に、おかしくなったものです。これは作り直して差し替えます。5・6ページは差し替えるということでご了承下さい。そうしないと意味が通じません。あとは細かいミスです。説明なしでも判るミスです。

この67号でも臨済宗寺院の役割を話しております。お読みになれば、それから話が進んでいるなということが判ると思います。配布したプリントに29とか30とありますが、これは私のノートのページ番号です。大した意味はありません。ノートをそのままコピーしてレジュメとして使っているので、意味のないページ番号になります。

この研究の始まりは何から始まっているかというと実は大隅国府探しから始まっているわけです。国分市府中に大永七年(1527)に消滅する大隅国府がありました。この国府を取り巻くように東北の方に台明寺、西北方に弥勒院(弥勒寺)：鹿児島神宮の別当寺、東南の方に大隅国分寺、こちらにいわゆる隼人塚と称するのがあります。これが正国寺になります。四方に配置されている意味は否定出来ないと思います。

『国分郷土誌』の執筆を頼まれて「宗教編」を取り扱いましたが、その時もこの図を用いました。

台明寺は天台宗です。弥勒院も天台宗です。それよりも古いのは国分寺ですから、これは南都六宗のはずですね。大隅国分寺は衰退してから清水楞嚴寺の末寺になって曹洞宗になっていますが、最初は法相宗か華嚴宗か何かであったと想像されます。正国寺は律宗の寺です。律宗は南都六宗に入ります。国分周辺で古い宗派の寺院を眺めるとこの四つの寺しかないのです。後でもう一つ天台宗の寺が出てきますが、これは16世紀になってからのものです。

大隅国のこの四寺。これは三国名勝図会に書いてありますが、これよりも古い寺は見当たらない。ということは、記録は案外正しいと思わなきやならない。そこでこの中の律宗的をしぼったのです。

これは西大寺派律宗になります。本山は東大寺に対する西大寺です。西大寺という寺は平安末から鎌倉時代にかけて、全国の国分寺を支配下におさめます。その末寺が正国寺という寺です。その正国寺に石造層塔と四天王像があったという記事が三国名勝図会にある。それが隼人塚の正体なんです。ですからあそこにあるのは隼人塚ではないと私は主張しているのです。しかし一応決まったものをひっくり返すというのは大変なことです。

律宗寺院を大隅・薩摩で調べると、大隅国には正国寺が一つあるだけです。日向国にあるのは志布志の宝満寺という寺が一つです。日向国に一つ、大隅国に一つ、薩摩国にはないのです。薩摩国の律宗を調べると、泰平寺という有名な寺があります。島津義久が豊臣秀吉に降伏した場所です。その泰平寺が真言律宗の寺です。それ以外に

律宗関係の寺はないわけです。ですから正国寺・志布志宝満寺・川内泰平寺というのは、鎌倉時代、大きな意味をもった寺だなという見当がつけます。そして西大寺派律宗を保護したのは北条得宗家です。これは北条氏の支配と結び付いているということです。

先程、種子島が話題になりましたが、種子島の寺はその昔、すべて西大寺派律宗だったので。これがまた不思議です。種子島・屋久島は全部律宗の寺ばかりでした。ところが15世紀の中頃。これが法華宗に変わるわけです。種子島は、法華宗の寺ばかりになるのです。今でもそうです。大隅・薩摩では島津義久が種子島時堯の娘を夫人に迎えますから、その夫人が入って来て、やっと本土に入って来ます。法華宗の寺も調べてあるのですが、資料が多いと混乱するのでコピーして来ませんでした。大隅・薩摩ではほとんどない。七寺しかないのです。法華宗の寺はこういう所です(地図を示す)。すべて島津義久夫人が関係している所ばかりです。法華宗は歴史的な意味は大してもたない。逆にこういうことが言えるのです。島津義久の系統は法華宗につながっていたから嫌われて義久の子孫は島津の直系・正統にならなかった、と想像出来ます。宗教の差というのは後々まで響いたなと思います。義久が皆と同じ宗派であれば義久の子孫が必ず後を継いだはずです。島津氏の相続・跡目争いにも響いたのだと思います。義久自身は法華宗にはつながらなかったのですが、夫人がそういうつながりだったから嫌われたのかなと思います。まあそういう要素もあるな、ということです。

そういう作業の過程で、法華宗を調べ、天台宗とか浄土宗とか、三国名勝図会から寺院を拾いあげました。

浄土宗寺院は少ないのです。浄土宗が入ってくるのは島津貴久と義弘の頃です。とくに義弘によって浄土宗が大隅・薩摩に持ち込まれている。というのは義弘は朝鮮での泗川の戦とか閑ヶ原の戦とか、いろんな所で地獄を見ているわけですね。それで南無阿弥陀仏を信じたのでしょうか。義弘の勧請によって浄土宗寺院が出来ます。鹿児島では不断光院になります。現在南日本新聞社の隣にありますが、これは廃仏毀釈後に移って来たものです。浄土宗の寺は加治木とか帖佐にあります。大隅・薩摩の本山は帖佐の寺で、島津義弘のお膝元になります。

そういう流れの中で、種子島は律宗から法華宗に変わった。では奄美大島は?沖縄はどうだろうか、と眺めて行ったのです。その話は今日の主題に外れますので、小園さんが中世史研究会で話せというので琉球のテーマはその時に話をします。

奄美大島は収奪がひどかったのでしょうか、仏寺・神社関係はほとんど形としては残っていません。琉球は島津氏の政策にすなおに従っています。

三国名勝図会を見ると、大隅・薩摩の場合、必ず郷とか邑単位に、郷が主ですけれども、その郷の人々の幸福を祈る祈願所という寺があります。これは必ず真言宗の寺です。それからその郷の人々を葬る菩提所・菩提寺があります。まあ殿様を葬るような所です。これは曹洞宗という組み合わせになっています。だから各郷の郷土史を調べる時には祈願所の寺はどこだ、菩提所はどこだ、ということをきちんと地図の上でおさえる必要がある。そして祈願所は神仏

混淆の時代ですから必ず總廟と表裏です。總社とか總廟というもの。その郷・邑の鎮守・總鎮守ですね。それがどこかを押さえる。

鹿児島で具体的に言いましょう。鹿児島の祈願所は大乗院です。現在の清水中学校。總廟は諏訪神社。今は南方神社と名付けられて、清水町の10号線沿いにあります。菩提所は福昌寺。現在、玉龍高校になっています。これらは江戸時代のものですから、これらを押さえれば江戸時代の中心地の見当が付くと思います。それとさつき話が出た中世の城跡を地図の上に落として行くと、必ず道路が近くを通っています。これは中世も古代もそんなに変わらないと思います。ですから總廟とか祈願所・菩提所、城跡そして近世の麓ですね。こういうのをきちんと地図の上で押さえてから、どこがその郷の中心地になるのかを眺めて、見当をつけた上で現地を歩き分布調査をすれば、そこに必ず土器片の散布が見られるはずです。そのようにして探索に行くのが歴史考古学のオーソドックスなやり方だと思うのです。今まで地名と土器片散布ということだけで眺めていました。こう言った寺院とか神社の配置、それから城の位置。そこまで気を配らなかつたのが、欠けていたのだなと思います。

そのような中で、臨済宗寺院だけはちょっと変わっているわけです。そこで臨済宗寺院を拾いあげてみました。プリントの1ページが薩隅日の主な臨済宗寺院というものです。表を作っていますが、その表の中身が右側に書いてある寺院になります。これを読み上げて行ききます。

〔鹿児島郡〕1.瑞雲山大竜寺。現在の大竜小学校ですね。これは京都東福寺の末寺。坂本村は三国名勝図会記載の村名です。これは慶長16年(1611)文之和尚が開山です。文之和尚というの

は有名な人です。『鉄炮記』を残している人です。2.示現山能学寺、武村にあった、と。〔谿山郡〕3.補陀山慈眼寺。福本村は後の上福元村です。これだけは天台宗→臨済宗→曹洞宗と変化しています。31ページに地図をあげておきました。コピーで薄くなっていますが、地図上の番号は表の番号と合わせてあります。1.大竜寺、2.能学寺3.慈眼寺になります。

1枚目に帰ります。〔給黎郡〕はありません。〔揖宿郡〕4.宝鏡山大円寺。これは山川正竜寺末です。5.海雲山正竜寺。これは伊集院広済寺末。山川正竜寺は明徳元年(1390)恕翁公:7代元久が創建した。元久の時代から島津家は曹洞宗になりますが、それとは関係なく正竜寺は重要な寺になります。6.明雲庵・教主庵・遊世庵・梅月寺・正護寺などは、正竜寺末です。これらは各郷の麓から報告があった内容を三国名勝図会は書いているわけですから、郷によつて記述の濃淡があるわけです。

〔頬娃郡〕菩提山大通寺、これは有名な寺です。〔河辺郡〕8.東海山海印寺。三国名勝図会にほとんど書いてないのです。泊村の菩提所があり、島津忠国が此處で亡くなっているのですが、海印寺のことは坊津郷土誌も三国名勝図会も書いていません。歴史家も注目していません。一条院ばかりに熱をあげています。むしろ海印寺を今後見直すべきだろうと思います。また坊津にも広大寺という広済寺の末寺があります。黒島にも広済寺の末寺がある。

〔阿多郡〕宝光山紹聖寺。これは高橋貝塚の所になります。この傍に持株松遺跡があります。後で結論として申しますが、臨

済宗寺院は海外貿易と関係があるので、高橋貝塚あたりのこの紹聖寺も見直す必要があろうかと思います。〔伊作郷〕伊作は現在の吹上町。仏母山多宝寺。これは広済寺末です。この多宝寺も末寺を沢山持っています。13.青峯山天徳寺、これも伊作郷。14.入来・田尻・今田の寺も多宝寺末。

2枚目に行きます。〔日置郡〕15.泰定山広済寺。これが大物だと思うのですが、正直な話私はまだ実際に見ていません。前回、小園先生が広済寺には首なし地蔵があるという話をされました。この寺は今後注目する必要があろうかと思います。広済寺が出来る経緯は、そこに要約しておきました。貞治二年(1363)伊集院忠国が建てて、古城山圓勝寺というのを広済寺と名前を変えております。古城という地名もあり、伊集院の中心部は寺ともども後に郡(こおり)の方に移っていることが考えられます。その他、善福寺・光善寺など日置郡に大慈寺の末寺があります。また〔薩摩郡〕にも定永寺という大慈寺の末寺があるようです。19.太平山安国寺。

これは一国一寺の寺ですから、安国寺が広済寺の末寺であったことは重要な意味があると思います。〔高城郡〕船間島に臨江寺という広済寺の末寺があります。船間島・京泊は薩摩国府の外港として重要な所です。

〔出水郡〕に入って阿久根にも蓮華寺。阿久根の山下に楞嚴寺。これは野田感應寺の末寺です。波留に大藏庵、山下に長寿寺。重要なのは鎮國山感應寺です。野田にあって、県指定の十一面觀音像が残っています。野田女子高の所にあった極樂寺、永林寺も感應寺末。

〔伊佐郡〕には竹林寺。有名なのでは宮之城の18<sup>世</sup>宗功寺があります。宮之城大道寺、大村天応寺。

これからは大隅国になります。

〔贈吟郡〕31.正興寺。これは隼人町にありました。桜木村・下財部の興禪寺・正寿寺・天香寺・瑞林寺というは、みな財部です。〔始羅郡〕36.太平山安國寺、これは大隅国安國寺です。段土（反土）の椿窓寺。蒲生久徳の法寿寺。〔鹿児島郡〕吉田佐多之浦の興化寺（吉田郷は中世までは大隅国所属、近世以降薩摩国に入る）。

〔菱刈郡〕では谷隱山広徳寺・安養院・長寿寺などがあります。〔大隅郡〕根占に明光寺、高洲（高須）に蓮台寺というのがあります。

3枚目、〔肝属郡〕45.岩弘村。これは高山・串良の方ですね。弘誓寺・極楽寺・昌林寺。48.帝釈寺、49.道隆寺、50.盛光寺と、この辺は密集しております。

〔日向国諸県郡〕興全寺・竜泉寺・二嚴寺・西明寺・大昌寺。最も重要なのが、65.竜興山大慈廣慧寺、いわゆる大慈寺：志布志大慈寺です。

そこで、分布図を描いて右下の方に結論めいたものをあげておきました。臨済宗の寺は、1.主に湊の所在地に散在する。港はよく知られているが臨済寺院が見えないのは市来と片浦。此処に臨済寺院がないのは不思議。記録の洩れか、何か、判らない。

次に六十を超す臨済宗寺院を眺めて見ると、いくつかのグループに分かれます。まず野田感応寺を中心とする北薩のグループがある。出水郡のグループです。その次が伊集院広濟寺のグループ。伊集院広濟寺が薩摩半島の南の方を押さえています。それから国分正興寺。正興寺の末寺を囲むと、こういう範囲になります。大隅半島は志布

志大慈寺のグループ。本末関係を眺めていくと志布志大慈寺の勢力範囲が判ります。それと、都城二嚴寺のグループ。都合五つのグループに分かれます。そうすると、野田感応寺・伊集院広濟寺・国分正興寺・志布志大慈寺は日明貿易に関与したのではないか、ということが考えられる。伊作多宝寺・山川正龍寺・坊津海印寺・船間島の臨江寺とつながる伊集院広濟寺を支配したのは伊作島津家ですから、伊作島津家が島津の本家を継ぐようになる背景・財力はここに求められる。臨済宗寺院の分布を考えると、そういうものにもつながって来ます。

鹿児島に倒された出水郡はどうかというと、此処は島津家では兄の家になります。弟の家であった鹿児島に滅ぼされてしまったのです。こちらは総州家、鹿児島は奥州家です。その後出水には薩州家というのが出来ますが、薩州家も島津田忠辰の時に島津義弘のいうことを無視したとのことで秀吉に訴えられ、忠辰は切腹。お家断絶になります。

出水麓は特別史蹟になっております。最も重要な麓ですから薩摩・大隅では最も大きな麓集落を構えています。ですから最も鹿児島の息がかかるつては、此処だけは鹿児島の通りに動きますが、高尾野・野田・阿久根は真言宗・曹洞宗という組み合わせを無視しているのです。臨済宗が祈願所であり、菩提所になっているのです。鹿児島のことは聞きませんよとの姿勢を保ったとも言えます。野田感応寺には立派な十一面觀音像がありますが、廢仏毀釈という嵐の中を隠し通した。それが現在、重要文化財になっているわけです。また門前にある仁王像も何一つ壊されていません。そのことがこの地域の特色だと思います。だから新幹線が通ることになると、此処は第3セクターではす

されたわけです（笑い）。歴史というのはそういうところまでつながっているなあと思います。そういう見方をするのは私だけかも知れませんけどね（笑い）。臨済寺院を眺めると、そういうことも言えます。

川内川の上流域に宮之城宗功寺、その他沢山あります。霧島山麓も密集していますが、これらは感應寺・広濟寺・正興寺・大慈寺・二嚴寺などが教勢拡大をはかった結果の二次的伝播地区とみられます。此処にはいろんなのがごたごたと入り混じっています。主として四つのグループに分かれることです（略図で説明）。

この中で伊集院広濟寺は山川正龍寺を窓口にしています。初めは坊津海印寺だったと思うのですが、その辺がはっきりしません。いずれにしても海外貿易に大きく関わったと思います。大隅の方は志布志大慈寺を中心に海外貿易に関わったと思います。

長々としゃべるよりも、率直なご意見・質問を聞いた方がよいと思います。説明は以上で終わります。

#### 〔質疑応答〕

青柳 この地図で川内川流域にある8と8' というのは当てる所が判らないのですが、これは何ですか？

平田 8' ?

青柳 8' というのがあるでしょう。8は坊津にあるから、消すのですか。

平田 28、29、そうですね。これは何の点もないですね。

松田 何か意味があるのですか。

平田 別に意味はない。

池田 28' ?

平田 28' 、あゝ宗功寺のドットが抜け

ている。28' が抜けています。御免なさい。28と同じ場所です。

青柳 それと29の下の8というの？  
小園 8が二つある。

平田 これは何になるのかな。そこら辺りは何もないのだがな。柏原。失礼、川内川の方を見ていた。8は海印寺。これは何だろう。添田だから、これは18です。消えかかっています。18を落としていました。他に見にくい所はありませんか。

小園 再確認ですが、出水のものは東福寺のそれでいいのかな。野田郷のは。

平田 京都東福寺の末寺です。

小園 大きな輪の方は何になるわけですか。薩摩半島の下の方を回っているのは伊集院広濟寺系？

平田 そうです。

小園 そうすると、志布志は大慈寺系？

平田 大隅半島は、そういうことです。そして湾奥は国分正興寺系。

小園 正興寺系な。

平田 そのように分けられる。説明しませんでしたが、天台宗の分布図も作ってあります。

青柳 この地図で川内川流域にある8と8' というのを當てる所が判らないのです  
が、これは何ですか？

天台宗は冠嶽、紫尾山それから霧島。それらを中心として分布しています。それともう一つ、吉松から日向の方につながる分布があります。天台の山伏が島津の隠密として活躍したことがその分布から考えられます。法華宗はほとんどありません。先程も述べたように島津義久夫人吉松から日向の方につながる分布があります。

時宗。島津の初代から5代までは時宗を信じます。それと21代吉貴も時宗を信じますから、

島津家にとっては真言宗・曹洞宗の次に重要なのは時宗だったのです。現在県内にある時宗の寺院は淨光明寺だけです。西郷さんの墓の前に

ある寺です。時宗の寺はほとんど全部藤沢の清淨光寺の末寺で、鹿児島の寺の末寺ではないのです。遊行上人がやって来てはそのお声がかりで寺が建てられるのです。時宗の寺は多かったのですが、薩摩・大隅の場合は金がありそうな所ばかり遊行して回っているのです。そして行った先々に寺を建てさせている。そう言ったのが時宗寺院の分布です。浄土宗はさっき話した義弘関係です。

このように見て来ると、三国名勝団会に出ている記事というのは、鹿児島県の仏教文化を考える場合に一つの根本史料になるのだなということです。それよりも詳しいのは国分諸古記・伊集院由緒記・谷山諸記・高山名勝志など各郷の記録になります。それicamente来るデーターが詳しいのでしょうか、全部はありませんので統計をとるものとしては三国名勝団会あ役に立つ史料だと思います。

われわれの常識からすると、鹿児島ではちょっと歩けば首のない仁王さんがあったり、地蔵さんの首が飛んでいたり、腕が折られたりしています。廃仏毀釈はどちらでは当然と思う歴史現象だったのです。岩波講座『日本歴史』という二十数冊のシリーズがありますけど、その中で廃仏毀釈の記事を見ようとしたのです。すると、項目がないのです。そのことに先ず驚きました。日本の歴史の大勢では廃仏毀釈が無視されていたのです。それに驚いて、山川出版社が出している各県の百年史というシリーズを調べました。現在36冊出ているようですが廃仏毀釈のことが書いてあったのは10県です。あの26県は何も書いていない。と

いうことは、鹿児島では廃仏毀釈は常識だったけど、日本全国の歴史から見ると、ごく一部的な現象だったということです。

廃仏毀釈ですべて仏教文化は無くなつたとの前提に立っていますから、三国名勝団会の寺院を全体的に眺める姿勢は従来なかった。先程説明したように臨済宗の寺、天台宗の寺、浄土宗と拾い上げて、地名研究の方法でドットを落としてみると、それぞれの宗派の特徴が出て来ることが判りました。特に臨済宗の場合は日明貿易と必ず結び付いていたことが理解出来ます。

通訳をするのは臨済宗の坊さんだったのです。

小園 成る程、五山の僧な。

平田 そういう意味で臨済宗寺院のあった所は見直しの必要がある。とくに坊津あたりは一乗院ばかりを言ってますが、海印寺跡というのが重要な意味を持つのじやないかと思います。今日は繁昌君が来ていますから、いい情報を吹き込んでおきます。

小園 最初説明された台明寺。天台宗だったことですが、台明寺文書によると、最初は法相宗だった、と。

平田 もっと古いね。

小園 そして天台宗に変わった。恐らく修行と修験者の段階が法相宗だったと思う。島津家文書の中に出ている。もう一つ、霧島神宮の別当寺：華林寺が出てないのでね。これは古いのですけどね。

平田 気が付かなかったのかな。

小園 出てないな、と思って。

平田 天台？臨済？

小園 これは？

平田 ちょっと待って（ノートを調べる）。

真言かな。

小園 真言かな。あそこも何回も変わって

いるわけですよ。

平田 真言と曹洞は拾い上げませんでし  
た。というのは全部にあるから。

小園 あゝ、なるほど。

平田 各郷ごとに真言宗を祈願所、曹洞

宗を菩提所にしているので、これは拾い上  
げてもしようがないと考えました。こうい  
うやり方は邪道でしょうか。邪道じやない  
と思うのですがね。

小園 結構ですよ。

西田 臨済宗が琉球貿易に関与したとい  
うのは、どんな役割をしたのでしょうか。

平田 通訳をした。

西田 坊さんが通訳をした。臨済宗は  
大体中国とのからみがありますね。

小園 幕府とのつながりもある。

西田 幕府？どういうつながり。

平田 室町幕府：足利尊氏は後醍醐天皇の冥福を祈るために天龍寺を建てま  
す。それと鎌倉時代末の建長寺も臨済宗の  
寺院です。そして臨済宗の寺院に貿易の特  
権を与えるのです。臨済僧は勉強していま  
すから、漢文で意志疎通がはかれる。琉球

から使節が上って来る時も臨済僧が正使で  
来るのです。こちらから行く時も臨済僧が  
正使で行きます。

西田 臨済宗は中国にもあるんじやない  
ですか。

平田 当然ありますよ。

西田 禅宗は臨済だけじやないですね。

平田 そうです。

小園 五山僧というのは現在の大学いや  
大学院以上の存在。

平田 そう、勉強していますからね。

小園 歴史、詩。絵も描くしオールマイ

ティの人たちだから。幕府の外交顧問という立  
場もあった。

平田 戦国時代から江戸時代の初めまでは臨

済宗の坊さんが通訳に当たるわけですが、その

後は直接通訳をする明の商人たちが唐人町に  
やって来ます。その人たちが通訳に当たるので  
す。そして通訳を養成し、商人たちがその通訳  
を連れて出て行きますから臨済宗の坊さんは不  
必要となるわけです。そうなって来ると商人が  
力を発揮するわけです。阿久根の河南源兵衛。

西田 元々は明から来た商人です。浜崎太平次あたり  
になって来ると、もう自分でしゃべるでしょう  
ね。その頃になって来ると島津氏の力は強く

なっていますから、寺に頼らなくてもよくなっ  
ている。思う存分、商人を使ってやったと思う  
のです。

西田 幕府が対外貿易に関与したというのも17世  
紀前半までだと思います。その後は琉球館と  
それを取り仕切る役所が力をもつことになりま  
す。江戸時代を通していつまでも臨済宗の寺院  
がそういう力を持っていたとの考えでは、歴史  
理解がおかしくなります。

小園 政治組織に組み込まれて、やがて反発  
したとの常識で理解するわけですからね。最近  
は金峰町・万之瀬川上流が日宋貿易・中国貿易  
の拠点であったというふうに太鼓・三味線でや  
っているわけですけれども、実際にそうである  
のかなと、いつも水を差しています。というの

は、交易となるとバックグラウンドが必要で、商  
業のギブ・アンド・テイクの需要を必要とする  
集落その他がないといかんわけです。そうした  
ものが平忠景の所に、持株松遺跡に廃棄された  
ような陶磁器があったからと言って、すぐ拠点  
だと新聞その他が取り付けましたけど、僕は  
もっと冷静に考えたらと思う。あのように廃棄

したものが持株松遺跡で認められていると人間のいうことでしょうね。今後は、それから考古学ということは難破船でその陶器が使い物にならなかつた、ということを考えてもいいのじやないかと思うのです。昔は茶碗・皿というのは危ないから下に置くものだったけど、あのように沢山の土器類が捨てられたというのは、私は正式な交易でなくて、たまたま来たものではないかと思う。また平忠景の時には確かに小規模な交易があったかも知れない。平田先生は荘園の交易ということを想定されておられますか、そう言った小規模な取引はあったにしても大がかりな拠点であったという見方は少しきすぎるのではないかと思っております。

平田 臨済寺院以前では、じや一誰が外国との交易に関与したのか。やっぱり島津などの豪族だと思うのです。天台宗の寺院が関与したんじやないか、真言宗はと見てみますが、天台寺院の分布を見てもはつきりしません。真言宗が全体に行きわたったのは島津氏の体制が整つてからであって、これが対外貿易に関わったとは思えない。

小園 小規模な取引、あるいは博多から流れで来る、そう言った一般的な形式の交易というのはあったと思うのです。常に万之瀬川流域に来て販路を拓げていったとは思えない。例えば大隅国分寺・国府所在地辺りに持って来るにしても、錦江湾を行けばいいわけですからね。辿り着くわくですから。ある時期あったにしても大がかりに宣伝するだけの価値があるのかなとも思います。まぁ、いつもの論です。

平田 それは今後の。

小園 今後の検討課題です。

平田 どれだけの遺物が出て来るか、と

とは別に三国名勝団会に見える各宗派の寺院を押さえて行つても、臨済宗が日明貿易に関与したなということは言えるけれども、その他の宗派が対外貿易に関与したという結論は現時点では導き出せない。臨済寺院以前の勢力となると有力な土着豪族が関与したに違いないと思うのだけども、その具体的なものが判らない。これが鹿児島県で知られている実情です。

米原 繁昌さん、今、持株松遺跡の横を掘っているでしょう。その辺の状況はどうなんですか。

繁昌 一応、持株松遺跡を終わつてその隣の芝原という所を今は掘っています。加世田に向かつて左側の方ですが、そんなに目立たない遺跡のようです。畑の跡とか、製鉄遺構が出たように聞いています。さらに上流の上水流という所も掘っているのです。そちらの方でも畑の跡が出ています。陶器類の発見はなかったようです。持株松遺跡の方にある程度集まつたということです。

小園 私は専門家が来ているということを忘れて発言しました（笑い）。間違つたことを言ってるつもりはありません。

繁昌 それぞれいろんな立場があつて、県が掘るにしても市町村の方もタッチしておれますのでいろんな考え方を持っておられるようです。県の見解としては全体的な解明が終わつてないということで正式な発表はしていません。

小園 栗林さんも、そう言った控えめの発言をしておられたようです。

平田 時間がありませんが、もう一つ、神社の系統で眺める見方も成り立つわけです。交易に出で行くとすると航海の安全を祈る神が必要

ですから、何を信じたかが問題です。最初は住吉神が考えられます。これは古代の航海神ですが、住吉神はそんなに拡がつていません。

その次に八幡神が来るわけです。八幡神は国分八幡と言つて、国分寺の鎮守神として勧請されて来ますから、律令体制が整つた時に八幡信仰が拡がります。南九州はどこまで八幡が拡がつてゐるのかな。そんなに南までは行つてない。せいぜいトカラ列島まで。

中世で一番注目しなきやならないのは、栗林氏が目を付けている熊野信仰だと思います。熊野神と臨済宗が結び付いていると思うのです。

その後、平家が崇拜した厳島信仰が拡がります。しかし奄美とか沖縄に厳島神社が建てられるのは明治になってからです。弁財天が厳島神社に名前を変えているわけですから平家の信仰がそのままストレートに來たわけではありません。

江戸時代に拡がつてゐるのは金比羅さんです。しかし金比羅さんも鹿児島県全体に拡がつてゐません。鹿児島県で拡がつてゐるのは熊野権現までだと思います。信仰の面から言っても臨済・熊野というコンビでしか対外貿易は考えられないと思います。それより古く考えることの方が無茶なような気がする。それだけの経済力はなかつたと思います。

小園 この前発表された日高姓もやっぱり海賊の系統。

平田 熊野系統とつながると思います。他に意見は？

坂本 意見じやないけれども、他のこと

でもいいですか。以前少し話したことがあるのですが、谷山に薬師堂という所があるのです。そこは西南戦争の時に激戦地になつたらしいです。永田川のちょっと下の方に煙硝蔵というのがあったので、そういう関係で激戦があつたということです。その時薬師堂は焼けたといわれているのですが、その跡を終戦後に自分の土地にされた方がおられるのです。焼けたけれども石像・仏像とかいろいろなのが現在も残つてゐるのです。

平田 公民館にあづけてあるのですか。この前、話が出ました。

坂本 公民館に置いてあります。寺の跡だと言われる方の話ですが、金糞がいっぱい出たというのです。その金糞はぼろんぼろんじやつたと言います。カマスで何度も捨てた、と。残りはないのかと聞くと、あるかもとのことで見せてもらいました。金糞が一つ出てはきました。私が考えていることは、薬師堂という寺の中で鍛冶屋が仕事していた時期があつたのかということです。

平田 あゝ、なるほど。

坂本 寺でいろんな物を造る時代があつたのかな、と。

平田 工房はあるでしょう。

坂本 場所が場所だけにそう思いました。誰かが鍛冶屋でも興したのではないかと思つたりもするのだけれど、よく判りません。それと二軒ほど鍛冶屋という名字があるのです。これはちょっと違うのじやないかと、年をとつた方に聞いても鍛冶屋はなかつたというのです。それと三輪田という名字がある。三輪田というのはいろんな説があるけれども、この薬師堂を造る時、庭造りの人を大阪から連れて來たと言います。

平田 三輪田でなく、庭田ですか。 んなのがありますからね。

坂本 その子孫が庭田なんだ、という話 坂本 刀関係だったら、波之平と永田川沿い

ですけど。 小園 の堀、坂之上などが知られているようですけど

小園 お寺の近くに？ ね。

坂本 お寺で鍛冶屋の仕事をした時代が 平田 金糞が出て來たのだから何かあるの

あったのかということだけが気になった でしょうね。この前は三輪田と聞いて今日のプリ

ものだから。 ント(会報)には三輪田と打ち込んだ。

平田 東大寺でも鍛冶屋の跡は出て来る 小園 「庭」ですよ。「三輪」じゃない。

のです。それはあり得ることですよ。 坂本 はい、庭田です。

坂本 兎に角、金糞がいっぱい出て来て 平田 判りました。修正しておきます。

農業は出来ない。カマスにいっぱい入れて じゃ一、後かたづけをしましょう。どうも有り

捨てたということです。 難うございました。

平田 あの辺には波之平刀工やら、いろ いろ出でたり。出でたり。金糞を賣る。七十ヶ所の武器の店。十ヶ所のそ  
ぎれ。もう、カマスを賣りやがてやだ。でもね、言ふ  
歩き度がちのときあるよ。30年間も他の刀工と  
、大きまやア出でて一枚産業。カマスハさきア  
ア中の歩き度も差額率。おこうひきアチニヤは  
そり当時の次や高橋類がアア。専ら攻撃用頭  
。十ヶ所二

も2500歩、2000歩、1500歩の 武器  
の武と外側の壁をめぐらすアササ。本拠  
。もう、歩き度  
。も、エリナリモお村工。田平  
難。大きまは思ひテコセテ取引と相手。木更  
ヒタヒ思ひぬがアの大きまがア連絡取引  
相手。人をまじ興ふよ。りで次のさす  
おれ。十ヶのさす。おれも馬鹿だよ  
。おれも馬鹿。おれはおこりそ頭もせえ  
おれ。十ヶのさす。おれも馬鹿だよアハ  
上のさす。田舎三。おれも馬鹿だよアハ  
おれも馬鹿だよアハ。おれも馬鹿だよアハ  
おれも馬鹿だよアハ。

。十ヶのさす。おれも馬鹿だよアハ  
。十ヶのさす。おれも馬鹿だよアハ

『○○県の百年』(山川) 「廃仏毀釈」の有無、

北海道		東京	X	滋賀	○	香川	
青森	X	神奈川	X	京都	○	愛媛	X
岩手	X	新潟	○	大阪	X	高知	X
宮城		福島	○	兵庫	X	福岡	
秋田	X	石川	○	奈良	X	佐賀	X
山形	X	福井		和歌山	○	長崎	
福島	X	山梨		鳥取		熊本	X
茨城	X	長野	X	島根	○	大分	
栃木	X	岐阜	X	岡山	X	宮崎	○
群馬	X	静岡	X	広島	X	鹿児島	
埼玉	X	愛知	○	山口	X	沖縄	
千葉	X	三重	○	徳島	X		

奄美大島・・・廃仏毀釈で寺院が消滅したのは本土と同様である。寺院跡は土地の名を冠した神社になった所が多い。また行盛神社・有盛神社など平家の落人に結び付けた神社が目立つが、この平家伝説がどの時代まで遡るのかよく判らない。厳島神社と称するものが10社ほどあるが、廃仏毀釈後に弁財天が変身したものであり、平家の守護神ということで名付けられたとみられる。

喜界島・・・保食神社と称するものが15社ある。県本土でも馬頭観音が廃仏毀釈後に保食神に変わっているので、それに類するものとみてよいだろう。保食神すなわち宇氣母智神は穀物神（農耕神）・牛馬神として農村で崇拜されて来た。喜界島の場合「ほうしょく神社」と音読みになっているのが本土との違いである。

徳之島・・・本土からの移入神である八幡神社(5)・高千穂神社(4)・菅原神社(2)などは明治以降の勧請であり、現在は衰退の一途を辿っている。一方、在来信仰と結びついて名付けられた阿権神社・明眼神社・ボワンガナシ・ビンヅルガナシ・寺当の神などは根強い崇敬を保っている。

沖永良部島・・鹿児島から派遣された代官の膝元であった和泊町では、金毘羅神社・高千穂神社・菅原神社・嚴島神社など、本土よりの姿勢を示す神社名が多い。代官役所から離れていた知名町では御嶽信仰の名残が濃厚で、拝み神社・宮持神社・世並藏神社・テーガナシ神社・トゥヌチ神社など、神社の名も土着信仰に結びついている。

与論島・・・黒花ウガン・寺崎ウガンなどは御嶽信仰の名残を示す。臨済宗の寺があったと記録にはあるが、明治初めの廃仏毀釈で仏寺は消滅した。代わって高千穂神社・琴平神社などが建てられた。

〔琉球八社と付随する寺〕

末吉宮 ・・・ 遍照寺（真言宗）：臨済宗の万寿寺が改称

波之上宮 ・・・ 護国寺（真言宗）

沖宮 ・・・ 臨海寺（真言宗）

金武宮 ・・・ 観音寺（真言宗）：1622年以降真言宗となる。

天久宮 ・・・ 聖現寺（真言宗）：1671年臨済宗から真言宗となる。

識名宮 ・・・ 神応寺（真言宗）：1671年臨済宗から真言宗となる。

普天間宮 ・・・ 神宮寺（真言宗）

安里八幡宮 ・・・ 神德寺（真言宗）

『沖縄大百科事典』の「寺院」の項に、公寺・脇寺（私寺）の一覧表が掲載してある。真言宗の公寺は上記の八寺である。これは臨済宗寺院との比較に利用出来ると咄嗟に判断出来た。第2表として臨済宗寺院と真言宗寺院の比較表を掲げる。

臨済宗寺院と真言宗寺院（1873年当時の公寺）

※元々は臨済宗寺院

世紀	臨 濟 宗	真 言 宗
13C.	極楽寺 1265年？	
14C.		護国寺 1369年創建？ <small>(南北朝時代 (1350~94))</small>
15C.	安國寺 1450~56年創建 天界寺 1450~56年創建（首里） 天王寺 1470~76年創建（首里） 龍福寺 1475年、極楽寺改称（浦添） 円覚寺 1494年建立	※遍照寺 1450~56年創建 <small>(1456年銘の 梵鐘あり)</small> 臨海寺 1459年銘の梵鐘あり（那覇） 神德寺 1466年創建 ※聖現寺 15C. 後半創建（1671年以降真言宗）
16C.	照泰寺 1527~55年創建 崇元寺 16C. 中頃創建	※金武觀音寺 1522年創建 <small>(開基未詳 (1622年以降真言宗))</small>
17C.	桃林寺 1614年創建 慈眼院 1618年創建 祥雲寺 17C. 前半	神宮寺 開基未詳 <small>(宜野湾市) 1628~44以降、住持の記録あり</small> ※神応寺 開基未詳（1671年以降真言宗）

- ・琉球復古後、日本の神仙信仰を強制。
- ・17C. 後半以降は、念仏信仰（かくし念仏）が広まるとみられる。

第3表 薩隅日の主な臨済宗寺院 (三国名勝図会にもとづく)

本山	寺院名	所在地	末寺数	備考
京都東福寺	鎮國山感應寺	野田郷下名	5	南浦文之開山
	瑞雲山大竜寺	鹿児島城下坂本村		
京都妙心寺	竜興山大慈寺	志布志郷志布志	18	大隅国安国寺
	鶏足山二嚴寺	都城郷宮丸	2	
	万年山童泉寺	都城郷五十市	1	
	太平山安国寺	加治木郷段土		
	万齡山椿窓寺	加治木郷段土		
	大徳山宗功寺	宮之城郷虎居		
	少林山大道寺	宮之城郷宮之城		
京都建仁寺	靈鷲山正興寺	国分郷内村	6	桂庵玄樹開山
京都南禪寺	泰定山広濟寺	伊集院郷郡村	11	
伊集院広濟寺	太平山安国寺	中郷中郷村	薩摩国安国寺	
	臨江寺	水引郷船間島		
	瑞香山蓮華寺	阿久根郷波留		
	海運山正竜寺	山川郷山川		
	菩提山大通寺	穎娃郷郡村		
	東海山海印寺	坊泊郷泊村		
	清月山廣大寺	坊泊郷坊津		
	瑞鳳山清月寺	河辺郡黒島		
	仏母山多宝寺	伊作郷中原		
				伊作島津家菩提寺

## [鹿児島郡]

1. 瑞雲山大竜寺 —— 東福寺末  
慶長16年(1611)  
名: 示現山能淨寺 文三和尚開山  
〔谿谷山郡〕 大慈寺末  
3. 補陀山慈眼寺 —— 福昌寺末  
大裕寺 → 隠崎寺 → 曹洞宗  
〔拾芥郡〕 記述なし
- 〔揖宿郡〕
4. 宝鏡山大円寺 —— 正龍寺末  
5. 海雲山正龍寺 —— 広濟寺末  
明徳元年(1390). 極翁公(7代元久)創建  
6. 德雲庵 教主庵 遊世庵 梅月寺 正護寺  
〔頴娃郡〕 } 正龍寺末
7. 菩提山大通寺 —— 広濟寺末  
文明年間(1469~87)開基. 開山大仲和尚  
〔河辺郡〕
8. 東海山海印寺 —— 広濟寺末  
当色の菩提所. 大岳公(9代忠国). 泊浦で死去(1470年).  
〔坊津郡〕
9. 清月山広大寺 —— 広濟寺末  
〔里島〕
10. 瑞雲山清月寺 —— 広濟寺末  
慶長年間(1596~1615). 欽月和尚開山.  
〔阿多郡〕
11. 宝光山紹聖寺 —— 多宝寺末  
〔伊作郷〕
12. 仙母山多宝寺 —— 広濟寺末  
明徳元年(1390)創建  
〔中原村〕
13. 青峯山天徳寺 —— 多宝寺末  
建保元年(1213)創建?  
〔湯之浦〕
14. 小綠山西福寺  
宝集山興慶寺  
瑞松庵 } 多宝寺末  
〔入木村〕  
〔田尻村〕  
〔今田村〕

## [日置郡]

15. 泰定山広濟寺 —— 南禅寺末  
貞治二年、伊集院忠國開基  
古城山円勝寺 改泰定山広濟寺(南禅景周和尚)  
(郡村)
16. 瑞雲山善福寺 —— 広濟寺末  
(谷山村)
17. 瑞喜山光善寺 —— 大慈寺末  
慶長七年、島津歲久重開基  
(日置村)

## [薩摩郡]

18. 万寿山定永寺 —— 大慈寺末  
(添田村)
19. 大平山安国寺 —— 広濟寺末  
(中郷村)  
暦応二年(1339) 淨明通叟和尚開山。圓印の菩提寺。

## [高城郡]

20. 踏江寺 —— 広濟寺末  
(船問島)

## [出水郡]

21. 瑞金山蓮華寺 —— 広濟寺末  
(阿久根村波留)  
応永五年(1398)創建。高標和尚開山。当邑の菩提所。

22. 妙香山極嚴寺 —— 感応寺末  
(阿久根村山下)  
応永四年(1397)草木氏建立?

23. 中城山大藏庵 —— 感応寺末  
(阿久根村波留)  
嘉慶元年(1807)開基。種那大成院。

24. 長寿寺 —— 感応寺末  
(阿久根村山下)  
貞治四年(1365)定山公(6代師久)創建

25. 鎮國山感応寺 —— 京都東福寺末  
(野田村下名)  
文治二年(1186)、本田貞親建立  
元亨三年(1333)道鏡公(5代貞久)再興

26. 宝樹山極樂寺 —— 感応寺末  
(野田村下名)  
建久五年(1194)創建と云。

27. 東西山永林寺 —— 感応寺末  
(野田村上名)  
応永十二年(1405)創建

28. 長松山竹林寺 —— 大慈寺末  
(鶴山村)  
応永の頃(1394~1428)、鶴田氏創建

29. 大徳山宗功寺 —— 京都妙心寺末  
(虎居村)  
島津忠長(1551~1610)創建  
(忠良)

29. 少林山大道寺 —— 京都妙心寺末  
(宮之城村)  
正保元年(1644)島津久通建立。父久元の菩提寺とす。
30. 霊長山天元寺 —— 正興寺末  
(大村)  
郡谷院延重(1422没)開基。

## [隈曾喙郡]

31. 霊鷲山正興寺 —— 京都建仁寺末  
(内村)  
永仁中(1293~99)創建。
32. 雲龍山興神寺 —— 正興寺末  
(萩山村)  
当邑(財部郷)の菩提所。
33. 宝積山正寺寺 —— 正興寺末  
(下財部村)  
嘉祐三年(1328)開基と云。
34. 雜峯山天香寺 —— 正興寺末  
(下財部村)
35. 聖智山瑞林寺 —— 正興寺末  
(隼山村)

## [姶羅郡]

36. 太平山安国寺 —— 京都妙心寺末  
(段土村)  
暦応二年(1339)足利尊氏開基。
37. 万歳山椿惠寺 —— 京都妙心寺末  
(段土村)
38. 瑞應山法華寺 —— 広濟寺末  
(久徳村)  
明徳元年(1390)開基。浦生氏の菩提寺。

- [鹿児島郡]  
吉田郷は、近世以降薩摩国比属。  
39. 清秀山興化寺 —— 大慈寺末  
(佐多浦村)  
吉田清秀(1317没)の菩提ため建立。

## [菱刈郡]

40. 谷隱山広徳寺 —— 大慈寺末  
(曾木村)  
曾木郷の菩提所。
41. 安養院 —— 広徳寺末  
(長野村)  
琉球僧の住持。五世継承。

42. 万松山長寿寺 —— 正興寺末  
(前田村)

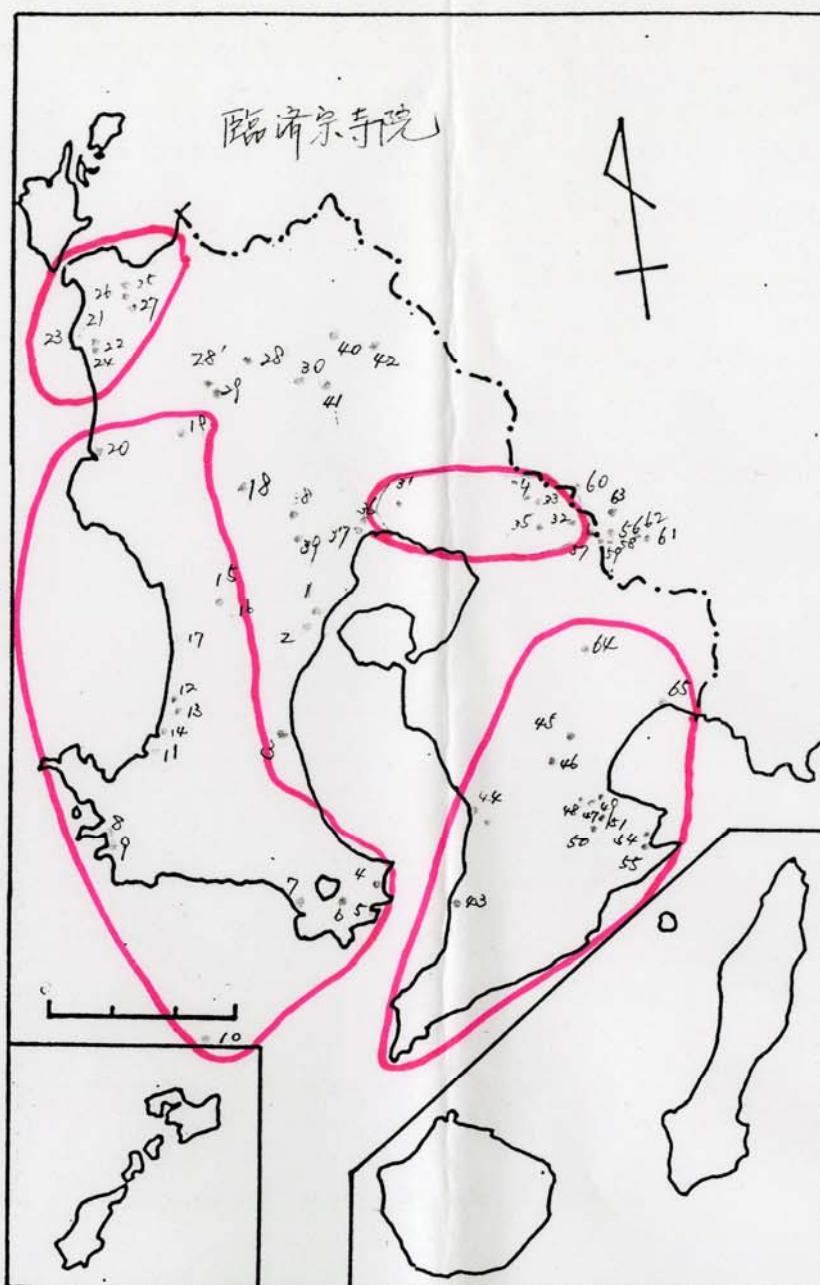
- [大隅郡]  
43. 明光寺 —— 大慈寺末  
(小板崎川村)

- [肝属郡]  
44. 大鷹山蓮台寺 —— 大慈寺末  
(高洲村)  
高洲村の菩提所。

45. 慈雲山弘誓寺 —— 大慈寺末 (岩谷村)  
文和中(1052~56)、齒令公(6代氏久)の開基。
46. 西台山極樂寺 —— 大慈寺末 (有里村)  
47. 神護山昌林寺 —— 大慈寺末 (新留村)  
嘉慶元年(1387)肝属兼氏創建。
48. 妙高山南松寺 —— 昌林寺末 (新留村)  
49. 柏尾山道隆寺 —— 大慈寺末 (新留村)
50. 霊護山靈光寺 —— 昌林寺末 (和泉田村)  
寛元四年(1246)、蘭溪道隆開山。
51. 臨川寺 瑞雲軒 上原庵 游水院 —— 大慈寺末 (塚崎村)  
文永九年(1272)、肝属兼石創建。父兼貞の菩提所。
52. 瑞雲山龍淵寺 —— 大慈寺末 (大船良村)  
53. 光源寺 —— 大慈寺末 (大船良村)  
54. 勝軍山長泉寺 —— 大慈寺末 (南浦村)  
55. 南高山真福寺 —— 大慈寺末 (南浦村)

## [諸景郡]

56. 蟠龍山興金寺 —— 京都妙心寺末 (宮丸村)  
57. 万年山龍泉寺 —— 京都妙心寺末 (五丁目分村)  
北源久秀・忠通の菩提所として建立。(椎山で戦死)
58. 雜足山二嚴寺 —— 京都妙心寺末 (宮丸村)  
59. 大同山西明寺 —— 二嚴寺末 (五丁目分村)  
60. 山久院 —— 二嚴寺末 (安永村)  
北源資忠の菩提所。
61. 四德山大昌寺 —— 龍泉寺末 (石寺村)  
応永元年(1394)戦死。北源久秀・忠通の菩提所として建立。
62. 宝泉寺 —— 二嚴寺末 (河東村)  
63. 摺立寺 —— 二嚴寺末 (野之見谷村)  
64. 觀音寺 —— 大慈寺末 (野方村)
65. 龍興山大慈法慧禪寺 —— 京都妙心寺末 (志布村)  
榆井頼仲(1301~59)開基。



- 主な瀬の所在地に散在する。瀬はよく知られていないが、臨濟寺院の名が見当たるのは、市来と片浦而已。
- 野田感応寺(北薩)、伊集院広濟寺(南薩)、国分正興寺(鹿児島湾奥)、志布志大慈寺(大隅)、都城二嚴寺(都城盆地)。上フルーツに分けられる。
- 野田感応寺、伊集院広濟寺、国分正興寺、志布志大慈寺は日明貿易の関寺?
- 川内川上流或いは霧島山麓の都城盆地。感応寺、広濟寺、正興寺、大慈寺、二嚴寺などが散在する大さなか二次的伝播地区とみられる。
- 出水郡は、總州家・薩州家の跡地。国境警備の外城、出水御守藩。近江守は、野田・河内根は古来の姿勢を守り抜いた。

# 地名研究会報

第70号

平成13年3月4日

鹿児島地名研究会

I. 第70回例会 平成12年9月3日(日) 於教職員互助組合会館和室

(出席者) 青柳俊二・上野堯史・納栄蔵・川野雄一・小山更・永坂芳彦・

西田春人・繁昌正幸・肱岡修一郎・平田信芳・松田誠・松浪由安・

三善喜一郎・米原正晃(計14名)

II. 大日本地名辞書読会 P. 1753~ P. 1755

〔問題となった地名および事項〕 別府・戦乱時の人々・栄之尾・行司知行・万徳・

芋洗・人名地名と中世の開発・字総図・ナメラ・鶴飼・サガリ山・竹原田問題

## 別府のよみ

平田 後から来られた方がおられますので再度説明します。これは宮崎県の20万分1の地図です。明治17年頃の地図です。これが大淀川、宮崎は此処です。その南が太田。加納とか船引とか古城などの地名が出て来ましたが、皆、大淀川の南の方にあります。こちらが飫肥になります(地図を指して説明)。今日読んだところで何か気になることがあつたら出して下さい。

納 ちょっと教えて下さい。この中によく出て来た別府。別府というのは鹿児島では「ビュウ」と読むし、大分県に行けば「ベップ」と読む。どこかでは「ベフ」と読む。どうしてそうなるのですか。

平田 さあ、それは判りませんけど。

納 確か四国では「ベフ」と読んでいますよ。

平田 あゝ、そうですか。

納 宮崎県と大分県の境ではビュウと読みますね。

平田 鹿児島県の読みと同じですね。

納 郵便の番号簿があるでしょう。

あれに振り仮名が振ってあったのですよ。

平田 あゝ、なるほど。  
納 別府に「ビュウ」と。そして、南に来れば何もしてなかつたので、恐らくベップと読むのでしょう。

平田 今まで方言や国語を専門とする人達はすべて方言で片づけているのでしょうか。

11~12世紀、平安時代の終わりから鎌倉時代の初めにかけて有力者が土地を開墾して荘園を造っていますが、その場合に民部省符という特別の官符をもらって開拓の許可を得るわけです。それから別府(別府)という言葉が生まれます。それ以後、地域地域によって少しずつ読み方というか、表現が違つて来るのじやないですかね。それ以上のことは歴史辞典を見ても書いてないのじやないでしょうか。南の方は「ビュウ」と言っている。

納 それと田上に西別府というのがあるのですよ。これを「ニイノブ」と言います。

平田 「ニイノブ」ですか。

納 「ニシノブ」です。西の別府。あゝ「ニッノブ」だ。

平田 「ニシノビュウ」が「ニシノブ」に変わったのでしょうか。

納 そうだと思います。

西田 どこも「ビュウ」ですが、「ニイノブ」ですか。

納 「ニッノブ」。他の所はビュウと読ましている。上別府（カニビュウ）とか。

平田 これは単なる思い付きで語呂合せにすぎませんが、牛もビュウと言いますね。ベブとか。開拓する時にベブとかビュウが働くというのに引っかけた点もあるのかな、と思ったりしますが。

納 東北に行けば、牛はベコ。

平田 ベコ。それは別としても、別府が拓かれる時に牛が相当働いたでしょうね。

納 特別の許可証。そういう意味でしょうね。

平田 大淀川河口というのは、やたらに莊園：別府が多いですね。ちょうどその頃沖積平野が拓かれていくのでしょうね。薩摩国の方はそこまでいかなかった、大隅国も。生産技術が同じような発展であれば、川内川河口とか肝付川河口一帯にこのような別府が出来たに違いないと思いますが、そこまで達していなかったのでしょうね。大隅・薩摩は土地の狭い、生産効率の良くない土地と思われていたのでしょう。せいぜい取れるのは塩と紙ぐらいという感覚だった。

#### 戦乱時の人々

平田 今日読んだ所はやたらに伊東方と島津方の戦闘が出て来ます。南北朝の頃は北朝か南朝かに分かれて争っています。それが判るのは谷山に行って気が付いたのですが、谷山が南北朝の両勢力がぶつかった最前線ですね。永田川を境にして攻め合っています。御所ヶ原という所に懷良親王が来ますが、南朝方の最前線だったことを示

します。親王自らが先頭に立って、北朝側ににらみを利かした所のようです。

関ヶ原の戦いの時も伊東氏と島津氏の対立があったということですが、関ヶ原に集まつただけじゃなくて地方でも両方に分かれて争っています。それから大阪冬の陣・夏の陣の時も、こっちでも豊臣方と徳川方に分かれて争っていたわけです。負けた方が没落する運命になります。

どうしてそんなに争うのか、ということなんでしょうが、勝った方が土地・人民を支配できるわけですから、その頃の武将たちは常に戦さに行くことを考えていなければならなかった。しかし戦さに家の子郎党を連れて行く時期については農繁期を避けています。家来達に農作業を放ったらかして戦争に行けるわけではないですから、刈り入れが済んでから攻め込んで行きます。その辺の状況が判るのは上井覚兼日記だと思います。

戦国時代の武将たちは討ち取るか討ち取られるかという瀬戸際にいつも立たされているわけです。そういうこともあるのでしょうか。暇さえあれば酒ばかり飲んでいます。そして眠っています（笑い）。そうでもしなければ戦さの庭には立てなかっただろうと私は考えるのですが、実によく飲んでいます。

戦後の人たちも七高の先輩などは飲んでばかりいました。よう飲んでばかりいるもんだと思ったら、こういうことなんです。こんなことを調べました。私と同じ学年は9クラスあるのですが、2クラス分は大学に進学していません。それから1クラス半分の60名が不本意ながら地元の鹿児島大学に残りました。全体の4割は戦後の学制改革によって思った通りの進学をしていないのです。だからひね

くれた連中は酒ばかり飲んでいたということになるのでしょうか（笑い）。また2年上の先輩は半分以上大学に行っていないのです。戦後はそんな状態ですが、それ以前の人達は戦死しています。その戦死も大半が文系です。理系は大事がられて行っていないのです。

西田 工場あたりに持つて行かれたのですね。

平田 兵器をつくる上で必要とのことで技術者として大事にされたのです。そのうちに変なことに気付きました。京都大学に進んだ人たちについて七高の名簿では京大法とか京大経とか出ているのですが、京都大学の名簿を見ると載っていないのです。同じ学年の先輩に聞くと、俺達は在籍のまま学徒出陣で出て行った。生き残ったから帰って来て卒業した。戦死した連中はそれを聞けば卒業扱いにならないのだなぁ、と。そういう人たちが聞けわだつみの声の対象になります。学徒出陣で出て行ったが、死んだ後はわだつみの声は聞こえていないのが実態です。名簿がしっかりしている京都大学でそんな状態ですから、全体の名簿がない東京大学はそんなことに気付くはずもない。

日本全国の高等学校の中で、学徒動員で原爆を浴びたのは七高だけです。広島高校は地元ですから犠牲者がいると思いますが七高は長崎原爆で14名が即死の状態です。ところがその人たちは中退扱い：在学中死亡の形になっていないのです。おかしいなと思って調べたら、先生方はその学年が卒業する時に卒業証書番号を与えて卒業扱いにしていたのです。

そんなことを考えると、京都大学から学徒出陣で出て行った人たちが学窓に帰ることはなかったとのページを設定してもよいのではと思ったりします。

それ以前の昭和12年から15年あたりでは、医学部出身がやられています。軍医さんがほとんど死んでいるのです。どうしてかなと考えると、軍艦と共に沈んでいるわけですから軍医の戦死率は高いと理解出来ます。しかし陸軍も多いのです。日本の軍医の戦死率とアメリカ軍の軍医の戦死率のどっちが高いのか、と。大体同じように死んでいるはずだと思うのですが、日本の軍医の死亡率が高ければ軍医はねらわれたということが言える。野戦病院というのは赤十字の旗を掲げているはずですから、ねらわれないはずですけれども先輩を調べていくと陸軍の軍医の戦死率も非常に高い。われわれの世代は痛めつけられた存在ですから、そんなことも考えます。勝ったアメリカ側はどうだったのか。同じように軍医が死んでいたら、戦争だからと言えるでしょうが、日本の軍医だけがそんなに死ぬはずはないと思うのです。余計な話になりました。

この時代も戦乱の時代でしたから、そういうことが載っているのでしょう。

何か質問はありませんか。直接歩き回った土地でないので、ぴんと来ないところも多いようです。質問がなければ休憩にして後半に時間をとりましょう。休憩中、宮崎県の昔の地図を回します。ご覧になって下さい。

# 牧園町の地名

松田 誠

成果というものが全くないわけでご覧のとおりのレジュメになりました。分類をする上でかなりミスがあるようです。叩き台にして頂くつもりで出しました。

私は加治木町に住んでおります。松城小学校のうしろに「ツンボガシタ」という所があったのですが、小さい頃から興味がありました。「ツンボガシタ、ないやろかいね」と思っていました。そしたら今年の夏休み、義弘公四百周年で御里窯の発掘調査がありまして、その説明会を聞いたらそこは御里窯の壺を焼いた所だ、と。それで「ツンボガシタ」というのは壺屋の下だという説明を聞きました。永年の不思議な名前が簡単に解けたのです。そういう意味で地名研究というのは息が長いのだなぁとどこでぼんと判るか分からんなというのを感じています。

横川町の山の中に「港町」という小字があります。あそこは山ヶ野金山があった所で、山ヶ野金山が栄えた時に港町界限そういう雰囲気があったのかなと思います。そういうことで地名にはその町を説明している面があるようです。

現在、牧園高校に勤めていますので、牧園町の地名を取りあげました。レジュメを見て下さい。パソコンで地名を入れてアイウエオ順に並べ直すと面白いのが出て来るのじやないか、目的としては大字に特徴がないのかな、ということで取り組んだわけですけれども結果としてはぱっとしませんでした。最初の方から目を通して頂きたい

と思います。

一番最初の方に、まとめみたいなものを、感じたことを書いております。2枚目は興味を持ったので、今までの地名研究会で発表されたレジュメを一通り目を通してみました。牧園町の地名も今までにすべてあがって来ているような気がします。

「立」という文字が付く地名は、交通に関するとか、信仰的な地名だと言われています。牧園町内に「立」という文字を含んでいる地名がこれだけあります。立山、札立、花立、柴立、登立などです。

「渡」という文字の付く地名を拾いあげてみると、ほぼ20ぐらい出て来ます。これも交通地名だということです。宿窪田には一つしかないのですが、持松は「渡」という小字が多いなぁと気が付きます。

右の方に「街道」というのを拾っておきました。何故か万膳に三つありました。街道らしい所じゃないですが。

「園」という地名をあげると、これは万膳に多いのです。「園」は中世の地名だとか。莊園ということなんでしょうか。「別府」は先程話題になりました。「ベップ」と振り仮名を付けていますけど、ベップと言ったりピュウと言ったりしています。

次のページに行きます。これは以下の資料の集約です。一番左の欄、上から順に、地形地名・城塞地名・信仰地名・人名地名・開発地名・田畠地名・水利地名・交通地名・産業地名・門地名・位置地名・目印地名・気象地名・擬音地名・瑞祥地名・浸食地名・意味不

明など。平田先生からこういうような分類はどうかということで類別してみました。そして上方に宿窪田・万膳・三体堂・上中津川・下中津川・持松・高千穂と牧園町の七つの大字を掲げました。この大字ごとに地形地名・城塞地名・信仰地名などの小字を各所に種類別にはめ込んでみたわけです。そしてそれらのデーターの集計・パーセンテージを出したということです。

一番肝腎なのは、その分析力です。例えば宿窪田は田畠地名に入れました。ある人は交通地名に入るかも知れません。そういうことで分類の仕方に、私の場合問題があります。その辺の限界を今回強く感じました。

青色で印した所がパーセンテージが高いことを示します。いわゆる地形地名と真ん中ほどの位置地名がやっぱりパーセンテージが高い。これもこの会で以前から言われているように、ほとんど地名というは地形地名だということを明らかにしたにすぎません。

下の欄、左の端の縦軸に原・段・平・野それから迫・谷・窪・宇都・牟田・水流に分類したのです。というのは地形地名が一番多いとなると、地形地名の中身は何かということです。地形地名については佐野先生のシラス地形の本でいろいろなデーターを勉強させてもらっています。あのデーターを見まして、地形地名をさらに「原」の付く地名、「段」の付く地名、「平」の付く地名、「野」の付く地名と分けて眺めてみました。これらは大方シラス台地の上の方です。シラス地形の谷に当たる所が、迫・谷・窪・宇都。牟田・水流はシラス地

形の低地だ、と。こういうように大まかに三つ、佐野先生は分けておられます。地形地名をこの三種類に分けたらどうなるのかと分類してみました。その結果を薄い水色で示しました。「原」の分布率が4%、これが多いのですね。そして真ん中ほどの「迫」、これが多いことに気付きます。持松は「原」の付く地名が8%で目立ちます。これも私が新たに出したわけではなくて佐野先生が既にこのデーターを把握しておられます。「迫」という地名が多いのだとも改めて私自身勉強させてもらったというわけです。

それで下の欄、※印の所に牧園町の約4割はシラス地名であると特記しておきました。一番多いのが「迫」、それから原・平・谷・久保(窪)という順番になる、と。これは佐野先生のデーターと参考までに比較してみたら、全く一緒でした。そして牧園町の地名の約4割はシラス地名であり、その中の6割がシラス浸食地名になります。浸食地名というのは真ん中の迫・谷・窪・宇都を指しシラス地名の中ではこれが最も多い。それらを眺めることによって集落の発展状況に踏み込んで行くのかなと思うわけです。そして持松が町内のシラス地名の約3割を占めています。持松は何故か小字の数が非常に多い所でした。持松は、昔は贈於郡(そのこうり)に入っていたそうです。

以下は資料になります。次のページN0.1ですね。これは大字宿窪田を1枚に印刷したものですから、ちょっと文字が小さくなりました。例えば宿窪田の上から3行目のところに地形地名1.Bの方に地形地名2.Cが目印地名、Dが意味不明、以下信仰地名、位置地名、田畠地名、交通地名、産業地名と右の方

にずっと種類別にあげました。結局、左の方の地形地名が多い、ということになります。一番右の方はP門地名。門ノ木としましたが、これは間違いかも知れません。訂正して下さい。Dのところは瑞祥地名、安樂という所。安樂温泉ですね。その手前Nの擬音地名、轟平。こういうのを入れてあります。

次はN0.2、大字三体堂です。三体堂にこれだけ小字があり、こういう感じで分類しました。例えばP門地名に古屋敷を入れましたが、果たして門地名であるのかどうか。そして水利地名に井手ヶ原。

次のページ、N0.3。これは万膳の地名です。万膳というのも吉字：佳い名前を付けるということから来ているのかなあ、すべて善し、と。万膳にはこのような地名があります。

次のページ、N0.4。上中津川。犬飼滝のある方だと思いますが、これはちょっと小字の数が少なくなります。一番右の方、Mのところは歴史地名、万徳というのがあります。そして板小屋、馬場とあります。

次のページはN0.5ですが、これは中津川が上と下の二つに分かれています。ああ下の方に犬飼滝があります。「上」の方は郵便局などがあり、最近新しい道も出来てちょっと開発されて来ています。ここもや人信仰地名などいろいろ出て来ます。

次のページ、N0.6の1。持松は一つの紙に入れ込むと文字が小さくなつたので2枚にしました。何故か持松は小字が多い所です。小字が多い所は昔から栄えた所でしょうか。一番右の方に亀の甲があります。

大字・小字を通してどういう特徴があるかということになるのでしょうかが、結局、野呂カメンクの読み方は最初私なりの読み方で

片づけて、後で郷土史とか参考書などを見て追記しました。Nの所に赤剥（あかはげ）ということがあります。私の頭も禿げの部類に入っているので、すぐ目に付きました。剥（はげ）というのがあったなあ、と思います。それが浸食地名なのか、どうかが問題です。

次のページ。N0.6の2ですが、すべて地形地名になっています。

そして最後のN0.7、高千穂。牧園町の高千穂です。丸尾温泉で有名な所です。高千穂という所は何故だかこれだけしか小字がありません。温泉街ということで温泉に関係ある地名を整理してみました。湯の付く地名が18ありますが、宿窪田という麓の方というか、町場の方ですね、そっちの方が「湯」の付く地名が多かったです。和氣神社の近くにも和氣の湯という小字があります。

普通、こういう小字を通して大字の特徴は何かというのを考えるわけですけれども、私の場合は逆で、まず牧園町の歴史から入り、牧園というのはどういう所なのか、どういう特徴があるのか、郷土史をまず見て、それを説明するために地名を眺めたというような次第で、流れが逆なような気がします。

小字を通して何か新しいものを発見しようというのが本来なんでしょうけれども、なかなかそこまではいきません。温泉街があるとそれじゃ湯とか何か関係がある小字があるはずだと、そういう考え方の順序が逆のスタイルでやっているということに今回気が付きました。一応そういうことでレジュメを一通り説明いたしました。

大字・小字を通してどういう特徴があるかということになるのでしょうかが、結局、野呂温泉とか高千穂温泉とかいろいろな温泉街が

あるのだけれども、それが小字に反映しているか、どうか。大湯や湯之という小字を調べると、他の市町村よりは多いだろうと思いました。だろうということは、栗野とか吉松とか温泉の多い所の小字をこういうように分類して比較しないと正確な把握とは言えないという意味です。

牧園町は霧島山系に立地しています。そういうことで佐野先生の言われる通りのシラス台地のデーターを再確認したことになります。シラス地名でも浸食地名が多く迫・宇都・谷など、そういう地名が多いのが牧園町の特徴だと言えると思います。

以前の研究成果を参考にすると、牧園町は植物地名が多いということを国分の肥後先生が12.5%という数字まであげておられます。すでに調査されて、この会で報告されておられます。そななと思って改めて植物地名をいわゆる目印地名の所に分類したわけです。そういう意味で牧園町の特色というのは、温泉そしてシラス浸食地名、それに加えて植物地名の豊富な所だと言えます。

それから、これはちょっと興味があったのですけど、天降川の上流に甌穴があります。あの川は随所で見られます。文化財指定になっているのは馬込という所です。横川との境になる所です。この甌穴も牧園町の特徴の一つです。これを表す小字があるのかどうか調べたのですが、よくは判りませんでした。「ナメラ」というのがありました、ナメリ・ヌメリじゃないかと思ったりしているのです。そして馬込は地図では「真米」の文字を当てております。

それと牧園町は渓谷が多い所です。地形的に浸食された所で、安樂温泉からすばらしい渓谷が続いています。それに関わる地名・小字は気に付きませんが、隠された俗地名を洗い出していくと、何かあるのではないかと思っています。あそこに熊襲の穴なんかが出て來るので俗地名が豊富にありそうな気がしているわけです。それについてはこれからのことにしておきます。

最初のページに返ります。これは概略まとめてみたものです。説明を落としたものを説明します。

1. 牧園町は中世の地名が少ない。
2. 意味不明の地名は歴史的に古いと見るこ
3. 「堀」という地名がない。「堀」は開拓地名。能勢先生が書いておられます。
4. 卍田とか唐仁というのがない。
5. 牧園だから牧場が多いはずだがと思うの

だが、案外少ない。

次に宿窪田。シュッボタ。以前納先生も方言地名として話されたのですが、こらは平田先生がスクモと説明されています。（本会の例会で下野先生が話されたことに基づく）。スクモという文字がワープロにないのですが

「給・稼・糲」という当て字があります。

10. 豊芦原之仲津国。元々これは神話ですが、こういう所に櫛原とか櫛木というのがあります。櫛木というのが俗地名にあります。小字にはありません。今日配られた資料：自然現象にもとづく地名に青木があります。青木という地名はあちこちにあるようです。この地名の付く所は何か神話が重なっているなど感じているところです。

万膳では竹原田。条里制を史料的に示す地

名ですが、どうなのが。7. 女田というのがあります。これはメダでなく、オナゴダと読みます。実際行って見ましたら、畑でした。聞いてみたら、田園だったけれども休耕田になり畑になったのだそうです。

右の方に行って、持松。1. 近世以前は山間地の山田・迫田、近世以後は沖積平野、江戸時代からシラス台地が開発の対象になったと佐野先生は言っておられます。そして、2. シラス台地は台地・谷・低地と3つに分類されておるので。そして、3. これは持松に多いのですが、例えば「佐敷迫」という小字があります。その下に冷水迫(ひやみずさこ)というのあります。表にした所です。そして拾石迫(じっくさこ)、次は草子谷。何と読むのか判りません。湯ノ迫。次の行に同様に「段」という地名があります。佐敷段・佐敷原・佐敷平。佐敷という小字に迫・段・原・平というのが付いた小字が四つあるわけです。そのうちに冷水があり、拾石があり、草子谷があり、湯ノ迫があります。一番下に湯ノ迫・湯ノ段・湯ノ原・湯ノ崖と続きます。

これを字図で検討していくと、その集落の発展状況がつかめそうな気がします。

9. 乙森上。音森というのが順序よく出で来るのです、パソコンで並べ直すと。乙森・音森、似たようなものだと、すぐ感じます。どちらかが本当だと思うわけです。

高千穂。3. 栄之尾。郷土誌にはエイノオとルビが振ってあります。それと栄良尾、エラオですかね。海老野:エビノ、こういう似たものがあります。すべて「エ」が付きます。

以上とりとめのない話でしたけど、こう

いう地名をパソコンに入れて、それを集計して自分なりに感じた印象・感じを述べてみます。実際行って見ましたら、畠でした。まとまらない説明でしたが、ご指導を頂いた。聞いてみたら、田園だったけれども休耕田になり畑になったのだそうです。

[質疑応答] 平田 パソコンのエクセルで処理する方法です。エクセルはデーターを処理するのに便利な機能だと思います。パソコンを使って整理をすれば、その大字の特徴というのを段々判って来ると思います。ご覧になって気付いたことがありましたら、ご指摘下さい。また疑問に思われた点があったら遠慮なく出して下さい。

**栄之尾** 小山 先程説明された栄之尾。エイノオで出ているわけですか。普通は「エノオ」と言いますね。

平田 「エノオ」でしょうね。

小山 「エイノオ」の出所はどこですか?

松田 呼び名の出所?郷土誌に書いてあり「エイノオ」とルビが振ってある。

小山 どこの郷土誌?

平田 牧園町でしょう。

小山 町史ですか。あれは駄目ですよ。

松田 ああ、そうですか。

小山 昔から「エノオ」と呼んでいます。どうですか、皆さん。「エノオ」でしたよね

平田 牧園も?

小山 はい、エノオでした。エイノオとは言いません。今の霧島ホテル、あの辺です。

平田 串木野にも醉之尾(えのお)があります。醉之尾には上醉之尾とか下醉之尾という人たちがいるのですが、酔うという文字のためかその名字を嫌がっているのです。「エ」というのは海岸の「江」、愛すべきの可愛、

オは岡の意味なんだと説明したら納得されました。エノオという地名はそのような意味合いだと思います。

小山 栄之尾は以前崩れましたね。

平田 霧島の方?

小山 はい、あそこが栄之尾だったですね。

平田 ああ、そうですか。

小山 平田さんはご存知ないかも知れないけど、昔あったのですよ。昭和何年頃だったでしょうか、今の霧島館の裏は全部崩れたのですよ。

平田 崩れたのですか。

小山 はい、それで温泉街が全部駄目になったのですよ。そういう時期がありました。

松田 郷土誌なんか見てみますとね。

小山 郷土誌ではなくても、記憶があるわけです。

平田 昭和の10年代か20年代に崩れたことがあるのでしょうか。

小山 これは記憶にある。郷土誌は記録じゃなくて妙な資料ばっかい集めやつもんですから駄目なんですよ(笑い)、はつきり言って。駄目じやないけれども信憑率は70%でしょうね。

平田 はい、判りました。地名の振り仮名は役場の人たちが常識的に打ってしまうわけですね。それで土地台帳が出来てしまい、そうなって行くわけです。

小山 それではいけないのでね。

平田 「エノオ」という地名は他にもありますから、エノオが正しいとの理解でよいでしょう。そして、それが何かということを考えるべきでしょう。

**行司知行** (けしちご)

西田 N.O.1の宿窪田。Dのところの6段目に行司知行とありますね。それから、I.のところにも行司知行とあるのです。これに興味があるもんですから。一つは意味不明のところに、一つは産業地名のところに出てるのです。行司知行はどういう観点で産業地名に分類されているのですか。

平田 ああ、これですね。それ?

西田 D意味不明の欄の6段目。行司知行(けしちご)に分類されてますね。

平田 ああ、行司知行(ぎょうじちぎょう)ね。

西田 それと産業地名のところ、上から5段目の行司知行。これはどっちでしょう。

松田 分類の仕方ですね。迷ったものですから両方に入れたのです。どっちでしょう。

(笑い)

西田 そのところが私も知りたい。

松田 昔の山番の呼び名ですね。江戸時代の山の管理をする人。

西田 山役人の名ですか、行司(げし)というの。

平田 面白い地名ですね。歴史的に意味があるのでしょうか。それとどこに行司知行?

西田 意味不明のところ。これと産業地名と両方に分かれている。恐らく迷われて両方にしたのでしょう。

平田 判らない時は、そういう分類でいいと思うのです。地名には両方に入るのがあるのです。

西田 これは同じ場所ですか?

平田 同じ場所ですよ。

上野 この「ゲシ」は下司と書くのと同じなんですか。そうすれば、昔の莊園の。

平田 古い莊園の役人。

上野 役人という感じになりますよね。行司はびんと来んけど。

平田 下司ならば古い地名になります。その可能性が強い。下司が知行する分といでのあれば歴史的に古い意味をもった地名になる。

万徳（まんとく）

小山 もう一つ、これは単なる質問ですが、N0.4の万徳。歴史地名とあります

平田 万徳は歴史地名です。これは難しい地名です。

小山 それはどういう意味なんですか。教えて下さい。

平田 鹿児島県には沢山あるのですが、そこから取れるものはすべてその人のものになるという鎌倉時代の表現です。万得と書いてあるものもあります。すべてが得分になるということです。この万徳が判れば大隅・薩摩の鎌倉時代の支配形態が判るという歴史的な難問です。この地名があるということは歴史が古いことを示します。万徳についてそれ以上のことはしりません。

五味先生が相当突っ込んで研究をされています。

小山 佐野先生というのは佐野武則さんですか。

平田 そうです。

肱岡 P.145とかP.155とありますけど、それからもう一つ24号というのがありますが、それは何の番号になるのでしょうか。

平田 プリント1枚目？

肱岡 1枚目の右側、上から6行目に、24号というのがあります。少し下にP.145

松田 24号、これはレジュメの24号。

平田 ああ、地名研究会報24号ですね。

それからP.145は？郷土誌？

松田 これは何だったか思い出せません。図書館にあった本です。牧園町には本格的な図書館がなく、高千穂温泉の方に小さな図書館の出店みたいなのがあります。そこで見た本です。ちょっとはっきりしません。

平田 それでよろしいですか。他にありませんか。いい叩き台が準備されていますのでどんどん出して下さい。これを作る時の参考として「谷山の地名」を彼にも送りました。以前に配った「末吉町の地名」もあります。こういうものを参考にして各市町村の地名を分類して下さい。松田さんはパソコンのエクセルを使ってこういう整理をされたのです。これは地名整理の方法として今後使えると思います。この会にはいろいろな所の出身者がおられますから、ばつばつ取り組まれたら如何でしょう。米原さんはどこをやられますか。現在はどこへ行かれますか。

米原 勤めですか。今は、加世田。

平田 そしたら加世田あたりをやってもらおうかな。

米原 パソコンが出来ない。

西田 平田先生が教材に使った「末吉町の地名」を5部持ってきました。

平田 ああ、ありがとうございます。

芋洗（いもあらい）

西田 1ページの最初のまとめのところに「芋洗」があります。芋洗は産業地名・製鉄地名だと何かに出ていましたけど、これはどういうことですか。

松田 この芋洗は、出水の田頭先生から聞いたのですが、鋳物・鋳物師に関連する地名だそうです。

西田 なるほど、それから来ている。タタ

ラの人たちが今でも言っているのですか。

芋洗という地名はタタラと関係があるかも知れんと言ってるわけですか。

松田 かも知れん。

西田 単なる水洗（みずあらい）とは違います。水洗は意味不明ですね（編集者後記：水洗は文字通りの浸食地名）。

松田 角川の地名辞典、それから郷土誌の地名編、この字総図。三つをくらべると文字が違うところがあります。例えば角川の地名辞典に、由良谷（ゆらだに）というのがありますが、郷土誌の方はコラ谷と書いてあります。照合していったら、二十いくつ合わないので。どっちがどっちやろかいと思うのですが。

平田 そういうのはリスト=アップした方が将来のヒントになると思います。どれが正しいかの。そしてそういう食い違いはどうして起きたかを考えるとよい。その中に正しいのがあるはずですからね。いつか資料として出して下さい。役に立つと思います。

### 人名地名と中世の開発

上野 人名地名は中世の開墾に結び付くと考えた時に、2枚目の青い印がついているところ、これで見ていくと宿窪田・万膳・三体堂・持松は割合豊富に出て来るが、あとはほとんど出て来ない。そうしたら、この四つが中核だったことを意味します。私はこの人名地名と開発地名、そしてもう一つ城につながる地名が一体化しておればそこが中心地と言えるのじやないかと思うのです。地名は判るけど、地図の上で何がどこというのは実際に見て行かんと、それは判らない。

平田 地図の上にドットで落とせばよい。そうしたら何かつかめる。近世の開拓地名は、何兵衛新田などとわり易いので中世の開発に結び付く人名地名の古いのは要注意ということでしょう。

### 字総図

松田 この地図：字総図は、最初、役場に行った時はありませんということでした。それで、あきらめとったのです。そうしたら別な所からひょこっと、俺たちが持っていることで出て来ました。もう一度出直して行くと、役場の林務課に全部を1枚か2枚にまとめたのがありました。それをコピーしてつなぎ合わせたものです。コピーのコピーのコピーみたいなもので、インクがにじみ出で読みにくい代物です。線を書き直して再度、点を落としていこうと考えています。

上野 現在、全県下作り直しているのじゃないですか。

平田 全体の完成は未だだけど、出来的いる市町村はかなりあります。

松田 住民課には小字単位の分厚いのが沢山あります。拡大したのが沢山あるのです。

平田 小字はね。

松田 小字が3つか4つぐらい、拡大したのが沢山あります。町全体のものが揃っています。私たちには1枚の紙にまとめたのが必要なんですけど。

青柳 牧園町にはまとめたのがないですか。

松田 普通は郷土誌に附録として載っているのだけ。

西田 大抵は付いてますね。川内なんかは別冊として作っている。

松田 牧園町は作らなかつたのですね。

平田 付いている所と付いていない所があります。最近出来るのは、ほとんど付いています。そして小字も振り仮名を振ってあるものが多い。一番有り難いのは、大変だったと思うのだけど、松田さんの資料には振り仮名が全部振ってあることです。今後役に立つ資料になると思います。

納 振り仮名といえば、角川の地名辞典、あれにも振り仮名のあるのとないのとがある。

#### ナメラ・ナメリ

西田 1.地形地名のCの中段にナメラ・ナメラ前というのがあります。それから又意味不明のところにもナメラとあります。ナメラというはどういう所ですか。地形地名の中に入っているから、何か意味があるのでしょうか。

松田 ナメリ。

西田 ナメリの原ですか。

平田 ナメリの変化でしょうね。ナメイ・ヌメイなど、鹿児島県には多い。

西田 わりとあるのですか。

平田 多いです。

#### 鶴飼

米原 N0.3 産業地名のところに鶴飼ノロというのがありますが、鶴飼の伝承というのがあるのですか。

平田 鶴飼はあったでしょう。

米原 あるんでしょうね。南九州での鶴飼の問題とからんで興味があります。

松田 教えて下さい。

平田 今後、牧園の古老たちに聞いて下さい。

西田 鶴飼の地名があるわけだから。

青柳 どこの川でやっとったか、といふ

ことですね。

西田 川内川の上流、宮之城あたりにはあったと聞いています。

米原 川内川の上流は小川亥三郎先生が調べておられます。福岡の筑紫の人たちが鶴飼をしていました、と。明治の初めまでやっていたそうです。

西田 それは明治年間ですね。明治以前に名字があるということは、鶴飼があったのだろうと思います。

米原 そうですね。

青柳 私がそれを知っていたのは、何かの史料に鶴飼をやったという記録があるのですよ。

永坂 永吉川でしています。

西田 永吉川ですか。

永坂 上井覚兼日記です。

平田 あゝ、そう。なるほど。

永坂 上井覚兼日記に永吉川で鶴飼をしたとあります。

西田 それならば古いですね。

#### サガリ山

平田 今N0.3を開いていますから、ついでに。N0.3、F信仰地名の上から10番目あたりに佐賀利山とあります。サガリ・アガリという地名は県下に相当数あります。これは密教の修験者たちが山に登って行く時に宗教的行事をする場所がアガリで、降りて来た時の行事の場所がサガリになります。そういう信仰的・宗教的な意味合いの強い地名です。上り立という地名が、あれは高尾野になるのかな、扇状台地に上った所にあります。最初はノボリを立てた所じやないかなと考えていたのですが、アガリでした。谷山にもアガリタテがあります。修験者たちが山に登って

行く時に人々が見送った所。それがアガリです。下って来た時は出迎えて一緒に飲食する所がサガリの場所になります。

皆の智慧を寄せ集めて、こういう分類をしながらこれは何だ何だと智慧を出し合つておれば、相当なものが出て来るだろうと思います。パソコンをお持ちの方は「谷山の地名」「牧園町の地名」などを参考にして取り組んでみて下さい。何か出て来るはずです。

残り10分となりましたから総括的なことで締めくくって行きます。人名地名は中世地名として要注意、とくに牧園町の場合。それから水田が開けて行く場合、山田とか迫田が先ず開けて行くので、山田・迫田がある所は古くから開けていたことになります。浜田とか池田というのは江戸時代になつてからでしょう。

高千穂が小字数が少なくて、持松・万膳などに小字が多いということ。持松・万膳は建久図帳とか鎌倉時代の史料にも地名が出て来ますから、早くから開けていたはずです。したがって小字数が多い所は歴史的に早くから開かれていたと理解すべきです。小字数が少ない所はほとんど開発されていなかった山のままだったということです。それが高千穂で端的に現れていると思います。地名が少なければ未開発だったということです。それから何があるかな。

#### 竹原田問題

松田 それと例の条里遺構、三体堂ですか、条里地名が国分と牧園にある問題。果たして牧園に条里制が実施されたのか。その辺はどうなんでしょう。

平田 何か坪地名が出てきましたか。

松田 竹原というのを・・・桑原田と書く。平田 ああ、竹原田。外御真奈でさへもア 松田 藤井先生が三体堂から始まっているとされた一つの説ですね。国分の郷土誌にも入っているのです。三体堂という所は国分はありませんので、やはり牧園なんですね。古くから開かれた土地と、今、平田先生が言われます。そうであれば、条里制というのはあいつの山の中からも始められるのかなと、半信半疑、プラスとマイナスの材料だと思うのですが。

平田 その問題はこうだと思います。竹原田は桑東郷(くわのとうごう)に属しているわけですね。竹原田という小字が国分にあります。国分にある竹原田が坪付地名だとすると、あそこまで桑原郡に入らなければならないということになります。京セラの工場がある辺りに竹原田という地名があるのですが、あそこまで桑原郡に入れたら地政学的におかしくなるわけで、あそこは贈與郡の境域です。そうすると桑東郷の竹原田は三体堂にある竹原田に落ち着く。条里制は三体堂にもあったことになります。

鹿児島県の郷土史の一般的な解釈では、条里制は川内の宮崎付近と国分市の境域で行われたとみているのですが、県下の坪地名を拾った限りでは県下全域にあります。条里制の実施は大隅国・薩摩国を置いてからでしょうが、薩摩国は西暦800年でも班田をやっていないわけですから、条里の整理どころではなかったはずです。平安時代の末頃まで役人たちは土地を調べて税金を集めいくわけですから、長い間土地の測量・整理をしていたらどう思います。だから各地に条里地名・坪地名があつても当然だと思います。教科書

に書いてある条里制の施行が大化改新直後であったり奈良時代であったりする必要はないわけです。そこに結び付けると話が混乱しますから、薩摩守や大隅守は水田の調査・整理を平安時代末期も行っていたと考えたら加世田や谷山や三体堂に坪地名があっても不思議ではないことになります。竹原田問題は桑東郷の範囲になりますから京セラ辺りにあった竹原田とは考えられないのです。

松田 それと稻積ですね、稻積城。以前から話があるわけですが、牧園という歴史が古くて難解な地名が多い所かなと感じているところです。また先程のビュウ別府。以前のレジュメを見ると、田舎でも別府というのを作らねばいかんた一ろかいと言われた会話が残っています、地名研究会報に。牧園も田舎なんですが、別府があります。別府という開田が必要だったのか、どうか。帖佐の亡くなったシラスを研究した先生が。

平田 ああ、桐野先生。

松田 田舎に別府が。

平田 鹿屋の吉ヶ別府とか谷山の五ヶ別府。特別な官符をもらって開いた開墾地でしょうから、沢山あっていいわけです。そういう別府がある所ほど、開発の歴史が古いと言えます。先程上野さんが指摘したように人名地名を整理する必要があると思います。折角分類したわけですから、

さらに作業を進めて地形図に点を落としてみると、そのような地名がどこに集中して見られるかが判るはずです。そのことによって開発がどの頃から行われたかが判つて来るのじゃないかと思います。

開発の時代を探る手がかりになるもう一つは、堰とか井手でしょうね。これがなければ水を引いて来れないわけだから。それがどういうふうに分布するかということ。水利地名もその集落の開発の歴史を考える上では重要なと思います。

それから稻積城を考える問題では交通地名は見逃せません。古い交通地名が沢山残っているか、ということ。それがなければ道は通っていなかったことになる。稻積城は重要な所になければならないはずだから、大隅国から肥後国とか日向国につながる道筋に近いと思うのです。

肱岡 1ページの右下に肥後先生とあります、名前は判りませんか。田頭先生は？

平田 肥後先生は、肥後芳尚です。田頭さんは、田頭寿雄です。彼はかごしま文庫で「ゴンザ」を書いています。

西田 タノカシタでなくてタガシラですか

平田 鹿児島語で表現すればタノカシタでしょうね。12時になりましたが、他に何かありますか。

青柳 昨日行って来ましたが、名山小学校で今伊能忠敬の日本全図を展示しています。朝日新聞が伊能ウォークをやっていることと関連があるのでしょうが、日本全図を体育館に展示してあります。複製だと思いますが。

平田 ああ持つて来ている。

青柳 名山小学校で今日もやっているみたいですね。興味のある方は。

平田 昔の道が赤線で判るようにしてある地図でしょう。

青柳 はい。それで昨日みたのですけど、例えば島根県辺りでは大山と三瓶山を使って角度を測っています。縮尺はちょっと判らな

かったけれど、面白かったです。

平田 暇のある人は行って下さい。

青柳 名山小は市役所の隣です。

平田 名山小学校の講堂でやってるの？

青柳 体育館でやっています。

平田 あ。

青柳 確か今日もやってると聞いたのですが。

平田 他にありませんか。

三善 1ページのところで、先程出てきました栄之尾。エイノオかエノオかということ。串木野に酔いつぶれたという文字の酔之尾もあるし、名字もあります。私はこれを江之尾とみています。これは大体アイヌ語的なものだと思っているのです。というのは、酔之尾の辺に尾立とか尾畠という所があります。尾というのはアイヌ語で平たいデラの意味。そういうのがあるらしくて、エノオというのはアイヌ語だろうと思います。そういう意味からいうと、横の方に川があるのです。川の横に小高い所があるわけですが、「尾」というのがやはり地形・地物から付けられたアイヌ語だそうです。そういう意味からして、霧島にある栄之尾温泉の辺に川があって、串木野の酔之尾の地形と共通する点があって、栄之尾というのが出ているのじゃないか。私は栄之尾温泉に泊まったことがあるけれども全体的な地形をとらえてはいません。栄之尾と酔之尾とは発音は全部同じです。

平田 はい、まあ。

納 今おっしゃったエノオ。エノオの場合、先ず栄(えい)でしょう。しかし鹿児島方言は、エイとなった場合はイが落ちる傾向があります。エイノオでなくてエノオ

になります。私の名前の場合、栄蔵なんですが、鹿児島の人々に言わせると、エーゾというのです。イがないのです。その方式で、栄之尾のエはどっちでもいいのじゃないですか。というのは、角川の地名辞典を見ても、こいじやねはっじやが、というような仮名が振つてあるのです。共通語で振つてあります。しかし土地の人は鹿児島方言で言いますからね。それでだいぶ食い違がでています。

平田 九州にアイヌ語源の地名が残っていると、いろいろ説く人がいます。鹿児島で戦後まもなく地名の研究を手がけたのは最上宏という種子島のお医者さんですが、アイヌ語と結び付けたものでした。現在鹿児島でアイヌ語源説を主張したら、北海道や東北の人たちに笑われます。すばり言って、見向きもされません。あまり持ち出さない方がいいと思います。

今日はこれで終わります。どうもありがとうございました。

# 鹿児島地名研究会員名簿

平成13年3月4日現在

青柳 俊二	西田 春人
池田 純	能勢 正之
上野 基史	長谷川順一
打越 和郎	花園 正志
小川 秀直	原口 泉
小山田 稔	繁昌 正幸
太田 照夫	肥後 芳尚
納 栄藏	肱岡修一郎
上赤 一豊	平田功美子
唐鑑 祐祥	平田 信芳
川野 雄一	福元 忠良
霧島 一浩	二見 剛史
久米 雅章	本田 碩孝
小園 公雄	松田 誠
小原 親英	松浪 由安
小山 更	三善喜一郎
木場 武則	村山 謙一
坂本 誠	山崎 盛隆
下野 敏見	吉原 林昭
築地 成郎	
永井 啓介	米原 正晃
永坂 芳彦	

## 物故会員

小川亥三郎・片岡八郎・桐野利彦・郡山政雄・永田典男・浜崎盛雄・原口虎雄・鉢之原矢七・  
本田親虎・山田慶晴・

1. 牧園町は中世の地名が明らかでないという。
2. 「意味不明の地名は逆に歴史的に古いと見ることができる」(平田氏)。
3. 「牧園町には「・・・堀」という地名がない。堀とは古い開拓地名。」(能勢氏)。
4. 「堀」・・牧場の堀は土を盛り上げた土手、城の堀もある。(小川氏)
5. 「唐仁」「牟田」のつく地名は町内に見えず。
6. 牧のつく地名は町内の「高千穂・持松・上中津川」に見えず。
7. 「牧園町は植物に因んだ小字が多い。122/979 = 12.5%」(第18回 肥後氏)。
8. 植物名・・榎(ウルシ)、チシャ、門木(ムケゲ)、柊木、榎、奈良木(クス)、櫟、
9. 「○○迫」・・谷の別名、相違点は迫は谷よりやや小さく、谷には谷川があるが、迫には川があつたりなかつたりする。(小川氏)
10. 温泉関係・・万膳(金湯・野ノ湯・大良・銀湯・湯ノ池・手洗) 宿窪田(平落温泉)  
高千穂(みょうばん・硫黄谷・栄良尾・丸尾)  
中津川(栄之尾温泉・殿之湯・栗川・鉢投)
11. 嘉例川・・嘉例とはめでたい例の意味。佳例川も同義。(p291) 「枯れ川」?
12. 「埒」・・馬場の周囲の柵。馬に因む地名(下野氏)。種子島。牧高卒に人名あり。

## ※宿窪田(しゅっぽた、しゅくくぼた)

1. 「宿窪田(スッポタ)」・・すくも田の転化。稲に因んだ地名。(千台12号平田氏)
2. 牧園・・枕崎市にもある。
3. 榎・・城と同義。
4. 間手原・・マテノキは薪になる。
5. 戸草瀬戸・・瀬戸は谷を意味する。(小川氏)
6. 時仏・・阿久根市では一向宗の仏具等の焼却地。徳光との関係。(昭62江之口氏)。
7. 古道・・昔の処刑場跡。別称は「ハタモンダ」。竜馬は古道から犬飼滝へ山を登る。
8. 温泉指導に山伏介入・・安楽温泉に熊野の山伏。温泉神社のご神体の脇に横瀬の野間口某(山伏)の署名あり。
9. 平落(ひおで)・・今は日の出と書く(p262)
10. 豊芦原之仲津国。芦谷川(オト川)の流れるオトの櫛原の台地。(p134) 神話?
11. 芦谷・・昔の墓制の名残?。悪谷で人の入らないような谷。

## ※万膳

1. 「竹原(タバコ)」・・条里制。
2. 「古屋志」・・水田を畑にした所。耕す。越し。肥やし?。高野志(末吉町)。
3. 巡礼塚・・現況は全部田んぼという
4. 花立・・信仰地名もあり(柴立、矢立、馬立)。
5. 錆河(さっご)・・地下は赤い粘土といふ。
6. 鹿屋(万膳)・・社の森から太鼓橋を渡り一の鳥居の辺をいう。
7. 女田(おなだ)・・現況は畑(休耕田)。牟田?。大隅町にあり。
8. 貫河(ぬっこ)・・万膳川の湧水
9. 狩関係・・三体堂(集まり)、高千穂(新床鹿倉)、持松(狩田・狩松迫)  
万膳(鹿倉・横射場・阿歴利鹿倉)、
10. 佐賀利山・・下山(サガリヤマ)で日没?。東は太陽の「阿嘉礼」がある。
11. 丸・・「田の一区」を意味し、セマチ、マチと同義。平安・鎌倉期の人名もあり。
12. 奥の院・・宮室の囲いに道士がいたと伝える。
13. 「塚」・・岡という意味もある。(小川氏)
14. 斗星田(とぼし)・・赤米のこと。
15. 「九日田」・・9月9日の重陽の節句に行われる収穫祭の費用にあてる田。
16. 表木山・・目印に木を立てた。(金木山、柊木山)

17. 金木山・・製鉄関係のタキギをとる山(辞書)。

18. 緩子 ⇔ 緩目。

19. 板小屋・・万膳、上中津川にあり。

※上中津川

- 1.. 「真澄岡」・・「真角岡」とも書く。
2. 「万徳は「名」の名前である。」(24号)。

※下中津川

1. 犬飼(インケ)・・竜馬は蔭見滝と聞いた。 大分県犬飼町
2. 妙見崎・妙見迫(下中津川)・・妙見神社。現在はイザナギ神社(後迫にあり)
3. 大人形(オトガシ)・・地盤の陥没した凹地
4. 「別府」・・古代末の開拓地名。

※三体堂

1. 三体堂(飯富神社の仏像三体)又は(三角堂・観音堂・釈迦堂)
2. 鹿屋(三体堂)・・新納氏は鹿屋から転住。
3. 豆打原(モミジガハイ)、辻の瀬戸(スギノセト)、
4. 音川門は榎にある。菩提寺音川山玄竜寺。
5. 「チシャガ迫」・・知者ヶ迫。知田ヶ迫ともいう。(p145) 「チシャノ木」は落葉樹。
6. 「山ツケ」・・出城のあった所?。(p155)

※持松

1. 「近世以前=山間地の山田、迫田」⇒「近世以降=沖積平野」⇒「江戸期末=シラス台地」(佐野氏)
2. シラス台地の上・・原・段・平・野。  
シラス台地の谷・・谷・迫・窪・宇都(浸食地名)。急崖の所。  
シラス台地の低地・・牟田・水流・池水。
3. 平・原・段はシラス地名として地理学的分析ができる。

. 佐敷迫	佐敷段	佐敷原	佐敷平	
. 冷水迫	冷水段	冷水原	冷水平	
. 拾石迫		拾石原	拾石平	
. 草子谷	草子段	草子原		
. 湯ノ迫	湯ノ段	湯ノ原		湯ノ窪

4. 「甲部(ケペ)」・・牛馬が入らないようにした柵。(p240)

5. 「栗栖(クリス)」・・栗の木の生えている原(p244)。

6. さかむけとは坂迎へ。迎(むかい)=向(むかい)。向山。

7. 桑木畑・・「○○畑」は畑の形状、作物、位置を表す(長畑、桑畑、前畑)。

8. 真方・・くんにやくんにや曲がった道の所

9. 乙森上 ⇔ 音森。

※高千穂

1. 高千穂と呼ばれるようになったのは大正10年からで、以前は龍石とも呼ばれていた。
2. 神社の社領・大社は十二町、中社は十町、小社は8町。八長(高千穂)八丁山(持松)
3. 栄之尾・・栄良尾(万膳)・海老野(万膳)

肥後先生からは地籍簿作成時の不備を念頭に置いて課題に取り組むこと。田頭先生からは「出口は信仰地名では」、「芋洗は製鉄地名かも」、「星ヶ迫のホシには境界の意も」、等々のヒントをいただいてありがたかった。思うに、今回は牧園町の地名分析を始めるための準備となつたようである。後学のためにご指導願いたい。(了)

「立」のつく地名

大字	地名	城塞集落	信仰地名	開発地名	交通地名	地形地名	位置地名	目印植物
三体堂	たてやま 立山		たてやま 立山			立山		
三体堂	ふだた 札立				札立			
宿窪田	はなたて 花立		はなたて 花立					
宿窪田	ふだたて 札健				ふだたて 札健			
万膳	たてやま 立山		たてやま 立山			立山		
万膳	たひら 立平		たひら 立平			立平		
万膳	はなたて 花立		花立					
持松	しばたて 芝立		しばたて 芝立				芝立	
持松	しばたてばい 芝立原		しばたてばい 芝立原			芝立原	しばたてばい 芝立原	
持松	のぼりたて 登立		のぼりたて 登立					

「街道」のつく地名

大字	地名	城塞集落	信仰地名	開発地名	交通地名	地形地名	位置地名	目印植物
万膳	かいどうぐち 街道口				街道口		街道口	
万膳	かんのんかいどう 觀音街道		觀音街道		觀音街道			
万膳	もいちかいどう 茂市街道				茂市街道			

「園」のつく地名

大字	地名	城塞集落	信仰地名	開発地名	交通地名	地形地名	位置地名	目印植物
宿窪田	まきぞの 牧園			牧園				
万膳	きたそとの 北園			北園				
万膳	くろそとの 黒園			黒園				
万膳	くろそこのした 黒園下			黒園下			黒園下	
万膳	こその 小園			小園				
万膳	なかそとの 中園			中園				
万膳	みやそのはい 宮園原		宮園原	宮園原		宮園原		

「別府」のつく地名

大字	地名	城塞集落	信仰地名	開発地名	交通地名	地形地名	位置地名	目印植物
三体堂	いまべつぶ 今別府			今別府				
三体堂	べっぷぶた 別府田			別府田				
下中津川	べっぷぶ 別府			別府				
宿窪田	べっぷぶ 別府			別府				
持松	べっぷぶさこ 別府迫			別府迫		別府迫		

「渡」のつく地名

大字	地名	城塞集落	信仰地名	開発地名	交通地名	地形地名	位置地名	目印植物
三体堂	あかご 赤子渡			赤子渡				
三体堂	かみあかご 上赤子渡			かみあかご 上赤子渡		上赤子渡		
三体堂	まつ 渡瀬			松ヶ渡			松ヶ渡	
三体堂	わたせ 渡瀬口			渡瀬口		渡瀬口		
宿窪田	うめ 梅ヶ渡			梅ヶ渡			梅ヶ渡	
万膳	うめ 梅ヶ渡			梅ヶ渡			梅ヶ渡	
万膳	うめ 梅ヶ渡迫			梅ヶ渡迫	梅ヶ渡迫		梅ヶ渡迫	
万膳	ま 馬渡			馬渡				
万膳	やまわたら 山渡瀬			山渡瀬				
万膳	わたらせ 渡瀬			渡瀬				
持松	おおわたら 大渡			大渡				
持松	おおわたらら 大渡浦			大渡浦				
持松	おおわたらみ 大渡上			大渡上		大渡上		
持松	おおわたらじ 大渡口			大渡口		大渡口		
持松	おおわたらじも 大渡下			大渡下		大渡下		
持松	おおわたらひら 大渡平			大渡平	大渡平			
持松	くれわたり 崩渡			崩渡				
持松	くれわたりかした 崩渡頭			崩渡頭		崩渡頭		
持松	こ 小渡			小渡				
持松	こ 小渡川			小渡川				

種類別・大字別・分布率一覧表（牧園町）

町全体	分布率	宿蓬田	分布率	万膳	分布率	三体堂	分布率	上中津川	分布率	下中津川	分布率	持松	分布率	高千穂	分布率	
地形地名	541	39%	77	35%	91	31%	88	44%	50	45%	70	43%	151	41%	14	41%
城塞集落	18	1%	4	2%	4	1%	3	1%	2	2%			4	1%	1	3%
信仰地名	89	6%	18	8%	23	8%	11	5%	7	6%	10	6%	19	5%	1	
人名地名	29	2%	6	3%	7	2%	6	3%			2	1%	7	2%	1	3%
開発地名	37	3%	8	4%	13	4%	7	3%	3	3%	2	1%	2	1%	2	6%
田畠地名	74	5%	13	6%	13	4%	8	4%	6	5%	10	6%	23	6%	1	3%
水利地名	26	2%	2	1%	8	3%	1	0%	3	3%			12	3%		
交通地名	72	5%	11	5%	12	4%	11	5%	4	4%	13	8%	21	6%		
産業地名	49	4%	9	4%	12	4%	10	5%	1	1%	7	4%	9	2%	1	3%
門地名	9	1%	1	0%	6	2%	1	0%	1	1%						
位置地名	179	13%	15	7%	37	13%	17	8%	17	15%	25	15%	63	17%	5	15%
目印植物	130	9%	32	15%	25	9%	24	12%	9	8%	12	7%	27	7%	1	3%
気象地名	5	0%			2	1%	2	1%							1	3%
擬音地名	5	0%	1	0%	2	1%									2	6%
瑞祥地名	2	0%	1	0%									1	0%		
浸食地名	6	0%											6	2%		
歴史地名	8	1%			2	1%			1		4	2%			1	3%
意味不明	109	8%	20	9%	32	11%	13	6%	7	6%	7	4%	27	7%	3	9%
計	1388	100%	218	100%	289	100%	202	99%	111	99%	162	100%	372	100%	34	97%

地形地名の中で、シラス地名を・大字別の分布率一覧表

小字数511

町全体	分布率	宿蓬田	分布率	万膳	分布率	三体堂	分布率	上中津川	分布率	下中津川	分布率	持松	分布率	高千穂	分布率	
原	109	21%	18	4%	7	1%	14	3%	8	2%	17	3%	42	8%	3	1%
段	22	4%	3	1%	4	1%	0	0%	3	1%	5	1%	7	1%	0	0%
平	51	10%	6	1%	9	2%	4	1%	2	0%	10	2%	17	3%	3	1%
野	14	3%	1	0%	4	1%	3	1%	0	0%	5	1%	0	0%	1	0%
小計	196	38%	28	5%	24	5%	21	4%	13	3%	37	7%	66	13%	7	1%
迫	222	43%	38	7%	34	7%	37	7%	24	5%	31	6%	58	11%	0	0%
谷	56	11%	7	1%	12	2%	6	1%	3	1%	9	2%	15	3%	4	1%
蓬・久保	20	4%	3	1%	3	1%	3	1%	5	1%	1	0%	4	1%	1	0%
宇都	8	2%	0	0%	3	1%	0	0%	2	0%	1	0%	2	0%	0	0%
小計	306	60%	48	9%	52	10%	46	9%	34	7%	42	8%	79	15%	5	1%
牟田	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	0%	0	0%	0	0%
水流・鶴	8	2%	3	1%	0	0%	2	0%	1	0%	1	0%	1	0%	0	0%
小計	9	2%	3	1%	0	0%	2	0%	1	0%	2	0%	1	0%	0	0%
合 計	511	100%	79	15%	76	15%	69	14%	48	9%	81	16%	146	29%	12	2%

※牧園町の約4割はシラス地名であり①迫②原③平④谷⑤段⑥蓬の順に多い(佐野氏のデータ参照)。シラス地名のうち約6割はシラス浸食地名。持松が約3割を示した。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
1 大字宿窪田															
2 地形地名1	地形地名2	目印植物	意味不明	信仰地名	位置地名	田畠地名	交通地名	産業地名	開発地名	人名地名	城臺集落	水利地名	擬音地名	瑞祥地名	門地名
3 芦谷原	芝峯	芦谷原	くち ウケノロ	いちづか 市塚	あしたはい 芦谷原上	あかた 赤田	いしやま 石坂松ヶ迫	さこ 新湯	しんゆ 岩崎	かこい 宿	いまるさこ 井丸迫	とどひき 轟平	あんらく 安楽	かど 門ノ木	
4 芦谷原上	宿窪田	声谷原上	かんづつ 鬼沢津	いなり 稻荷迫	いかした 岩下	あしたはい 芦谷原田神	石坂山	網掛	別府	岩崎迫	じょううしろ 城ヶ後	ぬき 貞ノロ	1	1	1
5 芦谷原田神	宿ノ迫	芦谷原田神	かねさ 金差段	おおごま 大胡麻ヶ迫	うえ 上ノ迫	あしたはい 芦谷原前田	石坂渡	牧園	大丸	じょうおに 城ヶ鬼	2				
6 芦谷原前川原	雀ヶ原	芦谷原前川原	うえぱい 音日方	おんすつ 鬼沢津	うえぱい 上原	いけだ 池田	越付	行司知行	湯ノ上	べつとう 別當	ばば 馬場口				
7 芦谷原前田	雀ヶ原山	芦谷原前田	けしちご 行司知行	いちき 市来迫	けもり 芝峯	おうえさこ 尾上迫	しゅくはた 宿窪田	さるこえ 糠越	なべくら 鍋倉	くぼ 湯ノ迫	まつはち 孫八				
8 入佐ヶ迫	須瀬	毛森	せき 芝良	せき 梅ヶ渡	せき 桜添	さくらさこり 桜ヶ迫尻	たばい 田原	すいか 西瓜越	まきぞの 牧神岡	ゆだん 湯ノ段					
9 石坂松ヶ迫	須ノ迫	梅ヶ渡	せき 芝良	せき 桜添	せき 桜ヶ迫	じょうおに 城ヶ鬼	しもまき 下牧	たばい 田原中山	まきぞの 牧園	ゆばい 湯ノ原					
10 市来迫	瀬ヶ迫	枝ヶ迫	せき 越付	せき 越付	せき 越付	じょうおに 城ヶ鬼	しもまき 下牧	たばい 田原中山	まきぞの 牧園	ゆばい 湯ノ原					
11 稲荷迫	瀬戸	柿ヶ迫	せき 芝良	せき 塩漫	せき 塩漫	どう 堂ノ山	すなこ 砂子	とうよう 豊明田	だいどうな 大道中迫	だいどうな 大道中迫	だいどうな 大道中迫	だいどうな 大道中迫	だいどうな 大道中迫	だいどうな 大道中迫	8
12 井丸迫	外川原	柿木迫	せき 芝良	せき 塩漫	せき 塩漫	とうみょう 豊明田	せとぐち 戸口	なら 奈良木田	とりごえ 鳥越	9					
13 岩崎迫	大追	桑鶴	せき 戸崎	せき 桑鶴平	せき 桑鶴平	とうみょう 豊別	ぬき 遠目塚	ぬき 貞ノ口	まえだ 前田	11					
14 上ノ迫	大追	大追	せき 戸崎	せき 桑鶴平	せき 桑鶴平	とうみょう 豊別	ぬき 遠目塚	ぬき 貞ノ口	まえだ 前田						
15 上原	薄ヶ迫	桜ヶ迫	せき 葉切	せき 葉切	せき 葉切	ときよ 時仙	はば 馬場口	みせ 三軒元				0	0	0	0
16 牛ヶ迫	柳ヶ迫	桜ヶ迫尻	せき 葉切	せき 葉切	せき 葉切	はま 浜ノ場	はなた 花立	はり 針ノ崎							
17 後迫	田原	宿窪田	せき 孫八	せき 宿窪田	せき 宿窪田	まづねら ヒガン田	た ヒガン田	ゆうさ 湯ノ上							
18 枝ヶ迫	田原中山	宿ノ迫	せき 真角	せき 真角	せき 真角	まづねら ヒガン田	ぬし 星ヶ追	ぬし 星ヶ追	まえだ 前田	15					
19 尾上迫	鶴ヶ野	西瓜越	せき 丸羽	せき 丸羽	せき 丸羽	まきみおか 牧神岡									
20 大胡麻ヶ迫	さこ	雀ヶ原	せき 向荒	せき 向荒	せき 向荒	みや 宮ヶ迫									
21 大追	戸草窪戸	雀ヶ原山	せき 弓張木	せき 弓張木	せき 弓張木	20									
22 大追平	轟平	鶴ヶ野	せき 横瀬踏切	せき 横瀬踏切	せき 横瀬踏切										
23 植ヶ迫	唐笠松	唐笠松	せき 七侯平	せき 七侯平	せき 七侯平										
24 植木迫			せき 八窟	せき 八窟	せき 八窟										
25 金差段			せき 八窟	せき 八窟	せき 八窟										
26 川影			せき 原	せき 原	せき 原										
27 川影前畠			せき 平落	せき 平落	せき 平落										
28 川津原			せき 平之山	せき 平之山	せき 平之山										
29 川原後迫			せき 星ヶ迫	せき 星ヶ迫	せき 星ヶ迫										
30 川原前迫			せき 真米	せき 真米	せき 真米										
31 北脇山			せき 松ヶ迫	せき 松ヶ迫	せき 松ヶ迫										
32 齐ヶ迫			せき 間手ヶ迫	せき 間手ヶ迫	せき 間手ヶ迫										
33 桑鶴			せき 間手ヶ原	せき 間手ヶ原	せき 間手ヶ原										
34 桑鶴平			せき 南追	せき 南追	せき 南追										
35 郡ヶ原			せき 宮ヶ迫	せき 宮ヶ迫	せき 宮ヶ迫	32									
36 小瀬戸			せき 湯ノ窪	せき 湯ノ窪	せき 湯ノ窪										
37 小段			せき 湯ノ迫	せき 湯ノ迫	せき 湯ノ迫										
38 胡麻ヶ迫			せき 湯ノ段	せき 湯ノ段	せき 湯ノ段										
39 桜ヶ迫			せき 湯ノ原	せき 湯ノ原	せき 湯ノ原										
40 桜ヶ迫尻			せき コラ谷	せき コラ谷	せき コラ谷										
41			せき コラ谷迫	せき コラ谷迫	せき コラ谷迫										
42															

B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	
1 大字 三体堂															
2 地形地名	目印植物	位置地名	意味不明	信仰地名	交通地名	産業地名	田畠地名	開発地名	人名地名	城塞集落	気象地名	水利地名	門地名		
3 芦谷迫	さこ 芦谷追	あしたなご 芦谷追	いせもと 池元	あかご 赤子	くば 鬼ヶ窟	あかご 赤池	おに 音川田	いわくつぶ 今別府	いわさき 岩崎	うまい 荒平	あらひら 荒平	いへ 井手ヶ原	はら 古屋敷		
4 前平	つるわ 鶴ヶ原	いつば 一本松	いわしな 岩下	あかご 赤子	かんだ 神田	かみあかご 赤子渡	かみあかご 赤池	かんだ 神田	おおのの 大蔵	うまい 大丸	うらひら 大丸	いへ 井手ヶ原	はら 古屋敷		
5 池ノ谷	て さきたびら 手崎谷坂	うめゆ 木山	うえい 上原	うしあじ 牛角	たてやま 立山	かみそつま 上牧原	かみそつま 上牧原	かみそつま 上牧原	よしのた 音牛田	こまら 小丸	うら 鳩山	うら 風呂谷	1	1	
6 游元	どう ひら	かきやな 柿原	うちの 内野々	かみあかご わた	てらの 寺野	くちがけ 倉掛	しかくあ 四角目	そのた 別府田	しのまる 種丸						
7 石ヶ迫	ど やまと	かみそつき 上松木坂	かみあかご わた	くろす 黒葉	どう ひら	りをさか 岩ヶ平	じかくめ 四角目平	たかの 田方	じかくめ 外蘭	じかくめ 新五郎敷					
8 井手ヶ原	ど だん	くすれ 坂ノ段	かみおあさこ 上大迫	こ 二ヒコ	どうら 小庄	りあさがこひら 引坂ヶ迫	たたら 多々羅迫	たたら 長田	ゆ 湯ノ原	しんべえ 新兵衛塙					
9 岩瀬戸	なかむか 中岡	くわき 桑木ヶ谷	かみこ 上小原	かみくめ 四角目	はるやま 春山	ふかで 札立	ふかで 鶴山	べっぷた 別府田	かみかした 湯原頭	6					
10 岩山	なかむか 中川原	くわき 桑木迫	かみまきば 上牧原	たんの 丹波	ほこなき 丹波投	まつ 松ヶ透	まつ 牧原	まつ 官田							
11 上原	なかむか 中野	くわき 桑木前	かみまつき 上松木坂	てあらい 手洗	みや 手打	みや 手打原	みや 手打原	みや 手打原							
12 後迫	なかむか 中迫	くわき 桜ヶ迫	しらかたに 下芦谷迫	さこ チシャケ追	さこ 豆打原	みや 豆打原	みや 豆打原	みや 豆打原							
13 後山	なかむか 中原	くわき 篠丸	しのまる 下大迫	しじゅうはし 七十走り	みょうけんはい 妙見原	わたせ 透瀬口	10								
14 宇瀬戸	なかむか 中福良	しらかたに 下芦谷追	しもなみこ 下中迫	にわ 似尾	11	11									
15 手御口	さと 外松	さとまつ テシャケ追	しも 下ノ段	ひとかわ 入枯木											
16 桜木山	かべやま 桜木山	なら 奈良木	しもな 下原		13										
17 大平	おひら 大平	に 似ヶ追	に 山上												
18 尾谷口	おたにち 尾谷口	にしへい 西原	はぎ 萩ノ段	ゆ 湯原頭											
19 鬼ヶ窟	おに 鬼ヶ窟	のぼり 登り迫	ひとねは 人枯木	わたせ 道ヶ追口											
20 上大迫	かみおおこ 上大迫	はぎ 萩ノ段	ひわ 枇杷ノ首		17										
21 上小原	かみこ 上小原	はなれやま 蘿山	よし 蘿段												
22 上牧原	かみまきば 上牧原	はら 原	ふじどん 蘿段												
23 川床	かわとこ 川床	はるやま 春山	まつ 松ヶ透												
24 川床平	かわとこ 川床平	ひりさか 引坂ヶ追	まつさ 松木坂												
25 川原崎	かわとこ 川原崎	ひりさかさ 引坂追	まつこ 松原												
26 楠木迫	くわ 楠木迫	わらくらかわ 平黒川	みのに 簾荷谷												
27 桑木ヶ谷	くわ 桑木ヶ谷	たに 藤ヶ追		24											
28 桑木迫	くわ 桑木迫	ふんだん 藤段													
29 小回追	こまわりざこ 小回追	あらえ 古江山													
30 舞用ヶ追	こうよう 舞用ヶ追	ふろ 古江													
31 佐木段	さ 佐木段	だん だん	またまほ 前原												
32 稲ヶ迫	さくら 稻ヶ迫	さくら 稻原													
33 四角目平	しかくめ 四角目平	ひら 間追													
34 滅追	じめこ 滅追	ひら 松追													
35 下芦谷追	しらかたに 下芦谷追	豆打原													
36 下大迫	しもおおこ 下大迫	豆打原													
37 下中迫	しもなみこ 下中迫	丸山													
38 下ノ段	しも 下ノ段	まつりざこ 回追													
39 下原	しもはら 下原	みう さこ	道ヶ追												
40 間平	せまわら 間平	みだり たに	裏荷谷												
41 濑ヶ迫	せき 瀬ヶ迫	みや 宮ヶ迫													
42 高野	たかの 高野	みうけんひら 妙見原													
43 多々羅迫	たた 多々羅迫	うら 持山													
44 立山	たてやま 立山	やま 山ツケ													
45 横ヶ迫	たな 横ヶ迫	ゆ 湯ノ原													
46 谷ヶ迫	たに 谷ヶ迫	ゆ 湯原頭													
47	88														

撥音地名	浸食地名	瑞祥地名	歴史地名
0	0	0	0

No.2

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
1 大字 万體																
2 地形地名		位置地名	意味不明	目印植物	信仰地名	開免地名	田畠地名	交通地名	産業地名	水利地名	人名地名	門地名	城塞集落	気象地名	擬音地名	歴史地名
3 渋谷	たけい	竹原	ありのうえ	あらわし	阿壁利底倉	イチゴガ迫	石原	あたみの 北關	おもねた 水田	うめ 石の水	いし 有村	おねいば 大津	うつ 字津湯城	あらひら 荒平	うつ 珍多良	かりや 飯屋下
4 荒平中岡	あらひら かおか	童ヶ原	たつ みね	いで うえ	いたん 伊丹ヶ生	いつばく 一本松	いせ 伊勢櫻	いせ 櫻湯	おなだ 女田	うめ わたりさき 赤泡	いし 有村	おねいば 大津	うつ 字津湯城	あらひら 荒平	うつ 珍多良	かりや 飯屋下
5 毛物追	け	まつこ	たてよ	えび	立山	いのく の	うめ わたりさき	くにの 黒雲	くにの 九日田	かわく 坂小屋	いのく 有村上	かわく 坂下	じょう 井手ノ山	くろきる 山邊道	じょう 馬丸	2 2 2
6 イチゴガ迫	さこ	たに 谷の口	くち	えら 内野々	宋良尾	うらの の	うめ わたりさき	くろくわした 黒雲下	くにの 草田	くわく 櫻音街道	いのく 井手ノ山	くろきる 山邊道	じょう 馬丸	くろきる 山邊道	じょう 馬丸	2 2 2
7 猿ヶ段	いわ だん	たひら 立平	おねいばした	えら 大岩下	宋良尾	うめ き	くにの 木	くにの 小屋	こは	こは 木場田	こは 越ヶ尾	こは 牛小屋	い	くろきる 大岩向	じょう 和田	じょう 城ヶ宇都
8 井の手平	い	て ひら	たわらさこ	えび 猿ヶ迫	街道口	えびの 音無し	えびの 供養塚	こは 木場追	こは 田子	こは 坂の下	こは 坂下	こは 木屋谷	せんすい 涼水	なりまさ 成政	わたせ 渡瀬	
9 今村原	いわむら 原	つづらやま	かこ	ささ	上小管	かんこ	かじ 楓の場	けいん 元慶寺山	木場田	木場田	木場田	木場田	ぬかわ 眞川	よ いち たに	りこい 市ヶ谷	6
10 入ヶ中尾	いり なかむ	で こうぢら	かみの 出功平	かみの 上十石	境忍追	かみの 上小管	佐賀田	佐賀田	武反田	馬渡	馬渡	馬渡	馬渡			7
11 入追	いりさこ	とここ	かみみ 境追	かみの 上水道	縦目	かみの 株木山	ひらく 中園	ひらく 中園	前田	前田	前田	前田	前田			8
12 岩屋平	いわや ひら	なかむか	くろくわした	くろくわ	黒須	くろくわ	果野山	くろくわ	茂田	茂田	茂田	茂田	茂田			
13 内の追	うち さこ	なかの	中段	さか	坂の下	こし 五敷き	猿ヶ迫	善王神	湯助	無物田	山渡瀬	山渡瀬	山渡瀬			
14 手都追	うと さこ	なかの	永野	さか	鹿北	こは 小鉢	猿ヶ迫	湯助	和田	和田	和田	和田	和田			
15 猿ヶ段 追	うめ わたりさき	なの 中之段	さん	もと	三ヶ元	こやし	三ヶ谷に	高翠	湯ノ追	わだ した	和田下	和田下	和田下	12	12	12
16 大鹿ヶ谷	おおの くら	なかむくら	しなのうこ	しなのうこ	中福良	さがり 先福の場	立山	立山	立山	立山	立山	立山	立山	13	13	13
17 風の迫	おおぎ さこ	ながやま	永山	しきくろまる	下黒丸	しきくろまる	椎葉志	竹原	立山	立山	立山	立山	立山			
18 大窟	おおくぼ	ながさこ	下十石	しきくろまる	下黒丸	しきくろまる	下黒丸	黒葛山	通目塚	通目塚	通目塚	通目塚	通目塚			
19 大迫	おおおさこ	にいれい	西原	しきくろこ	下底水	しきくろこ	下十石	董松	斗星田	斗星田	斗星田	斗星田	斗星田			
20 大追	おおさこ	おおさこ	下底水	しもくとり	下底水	しもくとり	下底水	下底水	通追	通追	通追	通追	通追			
21 乙追	おひめこ	せき	登り追	しもくとり	下村松	しもくとり	下底島	葵の平	葵の平	葵の平	葵の平	葵の平	葵の平			
22 金木山	かなき	やまと	はぎ	ひら	萩の平	じょううと	城ヶ宇都	せのの 賤之多尾	平松	妙見追	妙見追	妙見追	妙見追			
23 上水道 追	かみみ 水道	せい	松	ひら	松	せのめ	たの 彦之多尾	彦之多尾	木	まつ さき	木	まつ さき	木			23
24 川窓	かわくわ	おうわ	せと	たか	美黄木ヶ湖戸	月の輪	月の輪	月の輪	公崎	弓射場ヶ谷	弓射場ヶ谷	弓射場ヶ谷	弓射場ヶ谷			
25 川舟	かわふね	おこ	千追	たか	流の上	うえ	出功平	菖蒲谷	菖蒲谷	菖蒲谷	菖蒲谷	菖蒲谷	菖蒲谷			
26 墓忍追	かぶんこ	まとうこ	まとうこ	まとうこ	谷の口	こち	とゆし	菖蒲谷の下	菖蒲谷の下	菖蒲谷の下	菖蒲谷の下	菖蒲谷の下	菖蒲谷の下			
27 木佐ヶ谷	きさ	たに	またひら	前平	禪穴	まつ	まつ	木	木	木	木	木	木			24
28 木登り追	おのほ	さこ	まつ	まつ	月の輪	わ	月の輪	月の輪	月の輪	月の輪	月の輪	月の輪	月の輪			25
29 桧木山	ひいら	さき	まつ	まつ	中風	まつ	まつ	中風	中風	中風	中風	中風	中風			
30 萩野山	くりの	やま	まるやま	まるやま	丸山	七曲	にしわき	西脇	西脇	西脇	西脇	西脇	西脇			
31 越ヶ尾	こ	お	みた	みた	直ヶ追	こ	こ	西脇	浜之場	浜之場	浜之場	浜之場	浜之場			
32 後世宇都良	こ	せう	うと	うと	水道 追	まつ	まつ	丸尾	山	山	山	山	山			
33 木場追	こ	ひら	ひら	ひら	南追	みずう	みずう	水上	水上	水上	水上	水上	水上			
34 小比良	こ	ひら	ひら	ひら	宮園原	みゆかした	みゆかした	水頭	水頭	水頭	水頭	水頭	水頭			
35 木屋谷	こ	や	たに	みょうがに	名荷谷	みょうがに	名荷谷	名荷谷	下	下	下	下	下			32
36 佐賀利山	さがり	やま	みょうがに	みょうがに	佐賀利山	した	山下	山下	山下	山下	山下	山下	山下			
37 猿ヶ追	さくら	さこ	みょうがに	みょうがに	松ヶ迫	よ	よ	余慶松	余慶松	余慶松	余慶松	余慶松	余慶松			
38 鎌河	さくこ	たに	ゆ	ゆ	湯谷	わか	わか	若ノ上	若ノ上	若ノ上	若ノ上	若ノ上	若ノ上			
39 下扇追	しもわ	さき	ゆ	ゆ	湯ノ追	こ	こ	和田下	和田下	和田下	和田下	和田下	和田下			
40 島ヶ段	じょう	だん	ゆみ	ゆみ	月の輪	わ	わ	月の輪	月の輪	月の輪	月の輪	月の輪	月の輪			
41 城ヶ宇都	じょう	うと	よ	よ	与市ヶ谷	いわ	いわ	与市ヶ谷	与市ヶ谷	与市ヶ谷	与市ヶ谷	与市ヶ谷	与市ヶ谷			
42 薙蒲ヶ谷	しょうぶ	たに	よ	よ	吉原	よしわい	よしわい	吉原	吉原	吉原	吉原	吉原	吉原			
43 雄ノ谷	す	たに	よ	よ	吉原前	よしわい	よしわい	吉原前	吉原前	吉原前	吉原前	吉原前	吉原前			
44 清ヶ迫	せい	さこ	ろん	ろん	鶴ヶ迫	さ	さ	鶴ヶ迫	鶴ヶ迫	鶴ヶ迫	鶴ヶ迫	鶴ヶ迫	鶴ヶ迫			
45 潟戸	せと	たに	よしわい	よしわい	吉原前	よしわい	よしわい	吉原前	吉原前	吉原前	吉原前	吉原前	吉原前			
46 潟ヶ迫	たま	さこ	ろん	ろん	鶴ヶ迫	わ	わ	鶴ヶ迫	鶴ヶ迫	鶴ヶ迫	鶴ヶ迫	鶴ヶ迫	鶴ヶ迫			
47 溪ヶ迫	たま	さこ	くわ	くわ	清ヶ迫	くわ	くわ	清ヶ迫	清ヶ迫	清ヶ迫	清ヶ迫	清ヶ迫	清ヶ迫			91
48 溪ヶ窟山	たま	さこ	くわ	くわ	溪ヶ窟山	くわ	くわ	溪ヶ窟山	溪ヶ窟山	溪ヶ窟山	溪ヶ窟山	溪ヶ窟山	溪ヶ窟山			
49 溪の上	たま	さこ	くわ	くわ	溪の上	くわ	くわ	溪の上	溪の上	溪の上	溪の上	溪の上	溪の上			

瑞祥地名  
浸食地名

0 0

No.3

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	大字上中津川												
2	地形地名	位置地名	目印植物	信仰地名	意味不明	田畠地名	交通地名	開発地名	水利地名	城塞集落	産業地名	歴史地名	
3	石峯	せんごくさこ 千石迫	おに せと か 鬼ヶ瀬戸頭 橋迫	いすさこ 油田	あぶら 健崎	あぶら 油田	こやし 越	まんとく 万徳	いで ぱい 井手原	ばば 馬場	いたこや 板小屋	まんとく 万徳	
4	橋迫	そ さこ 添ヶ迫	かみだん 上段	えのまこ 樅迫	おに せと か 鬼ヶ瀬戸頭 健崎前	けんさきまえ 池田	とおり さこ 通ヶ迫	ゆ さこ 湯迫	しおみず 塩水	ばば くち 馬場口	1	1	
5	井手原	たいかど 谷門	かみまえだ 上前田	くぬぎひら 柊木平	おに せと か 鬼ヶ瀬戸頭 塩水	いたみず 井田水	とお やま 通り山	ゆ くぼ 湯の窪	みぞくち 溝口	2			
6	後迫	うしあこ 棚迫	かみむかいた 上向田	くわとりさこ 桑取迫	かみこ くぼ 神小窪	ちら さこ 千羅ヶ迫	かみまえだ 上前田	みちした 道下	3	3			
7	宇都	うと 谷頭	たにかした 迫の口	さこ くち 迫の口	こ まつさこ 小松迫	ほこやま 鉢山	ななかい 七回	かみむかいた 上向田	4				
8	宇都迫	うと 谷迫	たにさこ 地頭	じかした 桜迫	さくあこ 桜迫	みや うえ 宮の上	ひらはや 平早	まえだ 前田					
9	櫻迫	えのまこ 千羅ヶ迫	ち ら さこ 下段	しもだん 梨子木	なじこ き 梨子木	みや まえ 宮ノ前	ほ とし 穂年	6					
10	扇の原	おうぎ ぱい 包迫	つつみさこ 下原	しむまい 福迫	ふくさこ 福迫	7	7						
11	大久保	おおくぼ 鶴	たにかした 谷頭	やなぎこ 柳迫	9								
12	大久保原	おおくぼ 通ヶ迫	とおり さこ 出口	で くち									
13	大目迫	おおめ さこ 通り山	とお やま 通り山	はし くち 橋の口									
14	鬼ヶ瀬戸	おに せと 中紙段	なかみみだん 馬場口	ばば くち 馬場口									
15	神小窪	かみこ 中迫	なかさこ 中迫	ひらと くち 開戸口									
16	上段	かみだん 上段	ひらはや 平早	ふるえ 古江									
17	川路	かわじ 川路	ふくさこ 福迫	みぞくち 溝口									
18	川路山	かわじ やま 川路山	ふね さこ 船ヶ迫	みちした 道下									
19	川原	かわばい 川原	まえばい 前原	みや うえ 宮の上									
20	柊木平	ひいらぎ ひら 柊木平	ま すみさこ 真角迫	17									
21	久保前	くぼ まえ 久保前	ま すみばい 真角原										
22	桑取迫	くわとりさこ 桑取迫	やなぎこ 柳迫										
23	小原	こ はい 小原	ゆ さこ 湯迫										
24	小松迫	こ まつさこ 小松迫	ゆ くぼ 湯の窪										
25	桜迫	さくあこ 桜迫	よこさこ 横迫										
26	迫の口	さこ くち 迫の口	わき さこ 脇の迫										
27	下段	しもだん 下段	50										
28	下原	しもまい 下原											

人名地名	門地名	気象地名	擬音地名	瑞祥地名	浸食地名
0 谷門	0	0	0	0	0

No.4

B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1 大字下中津川											
2 地形地名		位置地名	交通地名	目印植物	田畠地名	信仰地名	意味不明	産業地名	歴史地名	人名地名	開発地名
3 赤迫	たきした 滝下	いわゆる 犬飼	うちこえ 打越	いとう まつ 伊藤松	あらた 荒田	おおねどう 大堂	あかさこ 赤迫	あかさこ 赤迫	まんとく 万徳	いとう まつ 伊藤松	べっぷ 別府
4 犬飼迫	たき うそ 滝ノ上	いわゆるさこ 犬飼迫	うちこえて 打越手	えのきこ 櫻追	かいた くち 改田口	おおひとかた 大人形	おおともし 大伴氏	せんみぎまき 先右牧	よ つば 四ノ坪	さらくじの 幸蕨野	まんとく 万徳
5 今後迫	たき さこ 他ヶ迫	いわした 岩下	ウフコエ	かさまつ 拿松	かどた 門田	かんのんこした 観音迫下	きんばい 勤原	なへさこ 鍋迫	ろん さこ 論ヶ迫		2 2
6 後原	いまうしろばい 原	さこ 上野春	うえの はる 折橋	くわき さこ 折木追	くいた 食田	さんがづん 三月田	さこ タラガ迫	ま せたに 間ノ瀬谷	まけ ゆ 和氣ノ湯		
7 牛ヶ迫	うし さこ 千鳥迫	ちどり さこ 大内迫尻	おおうちさこしり 折橋後追	さくあこ 桜追	さこた 迫田	しもうまつか 下馬塚	ちどり さこ 千鳥迫	みぎまき 右牧			4
8 後迫	うしろさこ 水流	つる 改田口	かいの くち 越ヶ野原	こし のんはい 桜谷	さくあに 三月田	さんがづん 三月田	はやま さこ 早馬迫	ナコチ	やけやま 焼山		
9 櫻追	えのきこ 戸井迫	とい さこ 上タラ木	かみ さ 坂上	さかうえ タラ木越	き こえ 田代	はったんまる ピンヅル房	はねけ 八毛	はねけ 焼山下			
10 エボシダケ	なかさこ 中迫	かんの人さこした 観音迫下	さかした 坂下	なしくば 梨窪	はやま 八反丸	し					
11 大内迫	おおうちさこ 中瀬戸山	なかせと やまと 北住	坂水	はなくさ 花草	むこうた 向田	ほなせばい 星合原					
12 大内迫尻	おおうちさこしり 梨窪	なしくば 稲口	こうぐち 漫坂	したまか 藤ヶ瀬戸	ふじ せと 向田平	むこうた ひら 妙見崎					
13 大口ノ谷	おおくち たに 斜迫	ななめこ 小山口	こ やまくち タラ木越	き こえ 松ヶ迫							
14 大久保	おおくぼ 鍋追	なへさこ 坂上	さかうえ 古道	ふるみち 桃ヶ八重							
15 尾追原	おさこばい 尾ノ原	にし ばい 坂下	さかした 細道	ほそみち							
16 折橋後追	おりはしまし あこ 早馬迫	はやま さこ 地頭原									
17 榛原	かせぎばい 東迫	ひがひこ 東迫	ひがひこ 下木登迫	しも き のぼり							
18 雪ヶ原	かみなせい 東平	ひがひら 東平	しもうまつか 下馬塚								
19 亀松迫	かめまつさこ 火峯原	ひめねばい 火峯原	ひらさこ 下川原	しもかわばい							
20 観音迫下	かんの人さこした 観音迫下	ひらさこ 平迫	しもはい 下原								
21 木登迫	きのぼりこ 篠ヶ迫	ふえ さこ 滝下	たきした 滝下								
22 勤原	きんぱい 深谷	ふかに 深谷	たき うそ 滝ノ上								
23 草木迫	くわき さこ 深谷滝平	ふかににたきひら 深谷滝平	はけつる 化薈								
24 桑木迫	くわき さこ 藤ヶ瀬戸	ふじ せと ビンヅル房									
25 小後迫	こ うしろさこ 船窪	ふねくぼ 船窪	まがりしろしり 曲白尻								
26 越ヶ野原	こし のんはい 星合原	ほなせばい 星合原	やけやました 焼山下								
27 小中迫	こ なかさこ 本迫	ほんさこ 本迫									
28 小山	こ やまと 真角原	ま すみばい 真角原									
29 先祖迫	せんぞ さこ 松ヶ迫	まつ さこ 松ヶ迫									
30 櫻追	さくあこ 間ノ瀬谷	ま せたに 間ノ瀬谷									
31 櫻谷	さくあに 廻追	まわさこ 廻追									
32 追田	さこた 水畠原	みずとめい 水畠原									
33 地頭原	じかしまい 南谷	みなめい 南谷									
34 下木登迫	しも き のぼり 下木登迫	むこうた ひら 向田平									
35 下川原	しもかわばい 下川原	ろん さこ 論ヶ迫									
36 下原	しもひい 下原	わきさこ 脇迫									
37 瀬戸山	せと やまと 瀬戸山	わきさこ 脇迫									
38	70										

城塞集落	水利地名	門地名	気象地名	撥音地名	瑞祥地名	漫食地名
0	0	0	0	0	0	0

No.5

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
1 大字持松																
2 地形地名1	地形地名2	地形地名3	位置地名1	位置地名2	意味不明	目印植物	田畠地名	交通地名	信仰地名	水利地名	産業地名	人名地名	漫食地名	城塞集落	開発地名	瑞祥地名
3 天辰迫	かみみちさこ 上道迫	ところきこ 所迫	あか 赤ハゲ頭	かしら 下原	しもはい 内合	いちご 市後柄	うすさき生えだ 白崎前田	う とりごえ 宇島越	いせ 伊勢谷	いすみ 出水原	あかみず 赤水	あか 植村	かりや 赤ハゲ	かりや でん	べっぷ さこ 別府迫	かめんく 龜甲
4 阿三ノ迫	かりまつさこ 狩松迫	ところひら 所平	あまた 天辰頭	しもむら 下村	うちつねみ 内恒見	いちご 市後柄山	かきはた 柿烟	おおわいたし 大渡	いせ 伊勢谷平	いすみはら 出泉原	かりでん 狩田	うえむら 植村前	あか 赤ハゲ頭	はば さこ 馬場迫	ゆくろ たに 湯黒ヶ谷	1
5 阿三迫尻	かわくば 川久保	なかさこはら 中迫原	あ み さこしり 川手尻	すなましり 走	う とりごえ 宇島越	いちご 市後原	かりでん 狩田	おおわいたまら 大渡浦	いせ 伊勢谷山	いで 井手迫	かりまつさこ 五右工門原	ごう もんはら 崩渡	ばば さこしり 馬場迫尻			2
6 池迫原	かわくば 川久保頭	かしら 中段	いと 井手丸頭	せと 瀬戸上	おどもり 音森	やま イチノキ山	かりや 仮屋田	おおわいたぬみ 大渡上	いと 界子仏	いで 井手丸	くべはら 甲辺原	こまる 小丸	くわわたりかした 崩渡頭	はら 馬場原		
7 池之迫	かわくば 川久保平	なかさこ 中ノ迫	いぬ 犬の迫尻	そうち 総知穴	いぬ 權溜	くわき 桑木烟	おおわいたら 大渡口	じと 芝立	いで 井手丸頭	すみと 炭床	しろう 四郎ヶ迫	さるくい 猿喰			4	
8 出水原	くく 甲辺原	なかさこしり 中ノ迫尻	いわかいた 岩頭	そうち 総知尻	いぬ 權走	いぬ 桑木烟	ごたん 大渡下	いまと 芝立原	いまかわ 今川	すみと 炭床	しろう 四郎ヶ山	すなはしり 砂走				
9 出泉原	くろ 黒ヶ迫	なかはら 中原	うまたけ 上竹	たかお 高尾	さるうち 猿内	いぬ 犬の迫平	ささだん 篠段前田	おおわいたら 大渡平	じめた 次米田	いまと 今水	にた 仁太迫	しんご 新五屋敷			6	
10 伊勢谷	くろ 黒ヶ原	なかみちさこ 中道迫	うと 宇戸原頭	たかお 高尾頭	さるうち 猿内頭	うさぎ 兔ヶ宇都	じめた 次米田	かみみちさこ 上道迫	じめた 次米田頭	こ たに 小井手ヶ谷	たに ませ 間世頭					7
11 伊勢谷平	くわつる 桑樹	なかやま 中山	おうぎこかした 高尾尻	たかお 高尾尻	えのきばい シホラ	えのきばい 櫻頭	じめた 次米田頭	くわわたり 崩渡	てんすいうさき 天水白崎	しもつけ 下池	やきやま 焼山					
12 伊勢谷山	こ いで 小井手ヶ谷	たと ナメラ	おおわいたぬみ 大渡上	た かたかした 田方頭	じゅうふし 重伏	えのきひら 櫻平	しろた 白田	くわわたりかしら 崩渡頭	てんすいめん 天水堂面	くち ヌキノロ		9				
13 市後原	こう もんぱ	ばい 五右工門原	おおわいたち 大渡口	たきした 滝下	そううに 総谷	えのきみずさこ 櫻水迫	た かた 田方	こ わたし 小渡	どう ばい 童ヶ原	ひろい 広池						
14 イチノキ山	やま こ たのわ 小谷川	まえ ナメラ前	おおわいたし 大渡下	たき 滝の上	そうち 総知穴	かきき 柿木迫	た かたかした 田方頭	こ わたしかわ 小渡川	のぼりたて 立	ひろい 広池迫						
15 井手迫	いと さこ 五反田平	にし たに 西ノ谷	おつもりかみ 乙森上	た ぐちさこ 田口迫	ナメラ	かきさこ 柿迫	た ぐちさこ 田口迫	ちやや 茶屋段	はいま ぼう 拝摩坊		12					
16 犬の迫	こ はらさこ 小原迫	にしの たにかした 西之谷頭	おりぐち 折口	たけした 竹下	はら ナメラ原	かりまつさこ 狩松迫	た ぱいさこかした 田原迫頭	ちやや 茶屋原	ひじりはら 聖原							
17 犬の迫尻	こ はらやま 小原山	に た さこ 仁太迫	かしたさこ 頭迫	た ぱいさこかした 田原迫頭	まえ ナメラ前	くわき 桑木頭	つぼこ 坪子田	つじの 辻之原	ひじりはらかしら 聖原頭							門地名
18 犬の迫平	こ まつはら 小松原	はつちようやま 八丁山	かつま 勝間ヶ迫頭	さこかした 床頭	ハナクルス	くわき 桑木烟	しろさけた 白酒田	とりこえ 鳥越	ほし さこ 星ヶ迫		0	0	0	0	0	
19 今水原	こ ろ おか 小路岡	ばば きこ 馬場迫	かみあな 上穴	なか さこしり 中ノ迫尻	ふみきり 踏切	くわつる 桑鶴	しろさけた 白酒田頭	なかしよら 中小路	ほと れえ 仏前							
20 今水平	こ ろ はい 小路原	ばば さこしり 馬場迫尻	かみとこ 上床	にしの たにかした 西之谷頭	まえはる 前春	こ まつはら 小松原	しろさけた 白酒田尻	なかみちさこ 中道迫	みやう さこ 宮内迫							
21 岩原	いわばい ささだん 笹段前田	ばば ばい 馬場原	かみみちさこ 上道迫	くち ヌキノロ	ま かた 真方	ささだん 笹段前田	まえだ 前田	ふみきり 踏切	やまと 山神原							
22 兔ヶ宇都	うきぎうと さ しまさこ 佐敷迫	ひじりばい 聖原	かわくぼ かした 川久保頭	はくしゅだかした 白酒田頭	ませ 間世	しまだて 芝立	むこうた 向田	みち さこ 道ヶ迫		19						
23 後谷	うしろたに さ しまだん 佐敷段	ひじりばい 聖原頭	ひじりばい 下り	くだ 白酒田尻	みずあらい 水洗	しばひでまい 芝立原	むこうた 向田方	みなこえ 皆越								
24 後谷山	うしろたに さ しまはら 佐敷原	ひやぎ さこ 百木迫	くれわたりかした 崩渡頭	ばば さこしり 馬場迫尻	みつま 三又	ふじお 藤尾	むこうた 向田方	21								
25 後迫	さ しまひら 佐敷平	ひやぎ さこひら 百木迫平	くわき かした 桑木頭	ひじりばい 聖原頭	むかいいかれる 向中春	まつ みね 松ヶ峯	やまと 山鳥田									
26 白崎宇都	うすさきう さ めさこ 鮫迫	ひやみすたに 冷水谷	こ うすさき 古白崎	ひやみすおか 冷水岡	もりふし 森伏	まつきた 松北										23
27 内訳山	うちわせま さ めさこ 鮫迫頭	ひやみすたに 冷水段	さめさこかした 鮫迫頭	ひやみすたに 冷水谷	ゆんはえつ 弓張水	まつきたかした 松北頭										
28 宇戸原	う と ばい 芝立原	ひやみすたに 冷水原	さるうちかした 猿内頭	ひやみすだん 冷水段	よどさこ 淀迫	まつやま 松山										
29 戸戸原頭	う と ばい かした 下原	ひやみすたに 冷水原	さるくい 猿喰	ひやみすら 冷水原	わ し さこ 和志迫	やなぎ 柳ヶ迫										
30 横原	えのきばい 櫻原	じゅんくさこ 拾石迫	ひらはら 平原	したみぞ 下溝	ひやみすひら 冷水平											
31 横平	えのきひら 櫻平	じゅんくはら 拾石原	ひらはらまえ 平原前	じめたかした 次米田頭	ひろい 広池迫											
32 横水迫	えのきみすさこ 櫻水迫	じゅんくひら 拾石平	ふかさこ しもいけ	まくち 間口												
33 扇迫	おうぎこえだ 扇迫枝	しろう さこ 四郎ヶ迫	あかさこまえ 深迫前	しもとこ 下床	ま せ かした 間世頭											
34 扇迫枝	ぜんご ばい 善五原	ふかさこ 深谷	ふかたに													
35 扇迫頭	おうぎこかした 扇迫頭	そうち たに 草子谷	べっぷ さこ 別府迫													

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
2	地形地名1	地形地名2	地形地名3	位置地名1	位置地名2	意味不明	目印植物	田畠地名	交通地名	信仰地名	水利地名	産業地名	人名地名	浸食地名	城塞集落	開発地名	瑞祥地名
36	おうぎこはい 扇迫原	そうし だん 草子段	ほし さこ 星ヶ迫														
37	おおめいさこ 大合迫	そうし はら 草子原	まがりやま 曲山														
38	おおさこばい 大迫原	そうたに 総谷	まがりやまお 曲山尾														
39	おおはつあら 大渡平	たき ぱい 滝ヶ原	ま かわくぼ 真川久保														
40	おか 岡	たきした 滝下	ますと やま 舛戸山														
41	おかばい 岡原	たき うえ 滝の上	まつ みね 松ヶ峯														
42	おかいやま 岡山	た ぐちさこ 田口迫	まつやま 松山														
43	お さこ 折迫	たなさこ 柳迫	まわ やまひら 回り山平														
44	ね さこ 尾迫	た ばいさこかした 田原迫頭	みち さこ 道ヶ迫														
45	かれいしばい 界子原	たわあこ 俵迫	みやうたちさこ 宮内迫														
46	かきき さこ 柿木迫	だんとこ 段床	むこう さこ 向ヶ迫														
47	かきさこ 柿迫	ちやや だん 茶屋段	むこう ひら 向ヶ平														
48	かしたさこ 頭迫	ちやや ぱい 茶屋原	むこうた かたひら 向田方平														
49	かせぎばい 稼原	つぎのたより 次八掘	やなぎ さこ 柳ヶ迫														
50	かつお おか 勝尾岡	つじの はら 辻之原	やまかみばい 山神原														
51	かつ さこ 勝ヶ迫	つづれに 葛谷	ゆ くろ たに 湯黒ヶ谷														
52	かつま さこかし 勝間ヶ迫頭	どう ぱい 童ヶ原	よどさこ 淀迫														
53			わ し さこ 和志迫														
54			151														

	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1	大字 高千穂												
2	地形地名	位置地名	意味不明	擬音地名	開発地名	城塞集落	田畠地名	産業地名	目印植物	人名地名	気象地名	歴史地名	信仰地名
3	荒平	岩下	てあらい 手洗	とどろき 轟木	とのゆ 殿湯	やまのじょう 山城	すた 須ヶ田	しんとこしかくら 新床鹿倉	やなぎひら 柳ヶ平	えとうたに 江藤谷	あらひら 荒平	はつちょう 八長	こつけい 小塚原
4	硫黄谷	えいの 栄之尾	はつちょう 八長	とどろき 轟木山	やまとに 湯ノ谷		1	1	1	1	1	1	1
5	内久保	出口	ほかの 母ヶ野		2	2							
6	江藤谷	真頭		3									
7	大瀬戸	山口											
8	栗川		5										
9	小谷												
10	小塚原						水利地名	交通地名	門地名	瑞祥地名	浸食地名		
11	高岡						0	0	0	0	0		
12	手原前												
13	平原												
14	丸尾												
15	柳ヶ平												
16	湯ノ谷												
17		14											

# 地名研究会報

第71号

平成13年3月4日

鹿児島地名研究会

I. 第71回例会 平成12年12月3日(日) 於教職員互助組合会館和室

(出会者) 青柳俊二・上野堯史・小山田稔・太田照夫・納栄藏・川野雄一・

築地成郎・永田典男・永坂芳彦・繁昌正幸・肱岡修一郎・平田功美子・

平田信芳・松浪由安 (計14名)

II. 大日本地名辞書読会 P.1755~P.1757

[問題となった地名および事項] 姥懐、那珂郡、上・中・下の基準、吾平、イヤイ、

神代三山陵、淨光明寺と今和泉屋敷、鹿児島の字地、実方と雀ヶ宮、

稻荷の市、城下町鹿児島、真北の方位、北辰・太極・妙見、

堅野馬場と堅馬場、本丸と二之丸の境

**姥懐** (うばがふところ)

平田 今日の所で問題にしたいことがあれば出して下さい。この辺は1~2回通っただけです。いわゆる名勝の地です。鶴戸神宮あたりが主で、それから青島。青島の説明はあまりないですね。鶴戸神宮とウガヤフキアエズノミコトの説明が中心になっているようです。終りから4~6行目に姥懐というのがあります。気象地名で扱いましたが、姥懐については怖い所:山姥が出そうな所と見る解釈と、日当たりが良くて婆さんの懐ろに入っているようなぬくぬくとした所と見る説があります。最近は日当たりがよい所という解釈が通説になります。女性の研究者でしたが、日本全国の姥懐を拾いあげた人がいます。そういう暖かい所のようです。

**那珂郡**

平田 那珂郡。那賀郡・那賀郷とか中村というのは全国的にあるのですが、上中下の「中」の変化形です。中心的な所に付く地名で那珂郡という郡名は多いようです。

日向国那珂郡・石見国那賀郡・常陸国那珂郡などを今思いつきます。那珂郡は中心的な郡であると判断してよいと思います。ただ那珂郡と宮崎郡の郡界が移動しているのが気になります。郡界の移動というのはそんなにあってはならないのですが、南九州の場合は大隅国も日向国も郡界の移動が歴史的に激しいようです。

**上・中・下の基準**

納 今おっしゃった上・中・下ですね。どこを基準にして上・中・下が付けてあるのですか。

平田 それは、都です。

納 人によっては川の流れに沿って、上から上・中・下だという人もいます。また東西南北で上・中・下を付けてあるというのもあるのですよ。

平田 あゝ、狭い範囲では川の流れに沿って上・中・下でしょうね。全国的な視野で眺めた場合に、都に近い方が上(かみ)で遠い方が下(しも)になるわけですね。中はその国の中心地ということです。中(那珂)が最初で

都に近い方が上、遠い方が下と付けられていくわけです。そう考えていいと思います

納 それで私が思ったのは、伊集院に上伊集院と下伊集院。

平田（功）昔は中伊集院があった。今の伊集院町はそう言っていた。

納 そういうのがありますか。

平田（功）私は伊集院出身ですから。

昔は中伊集院村と上伊集院村と下伊集院村とあった、と。中伊集院村が今の伊集院町になります。そして下神殿あたりは昔は伊集院町じゃなかったのですよ。戦後伊集院町に入りました。

平田 今の話を聞いて思ったけど、伊集院の場合は鹿児島に近い方が「上」になりますね。

平田（功）中伊集院村と言っていた。私たちの知らない村です。私は昭和4年生まれですけど、憶えていないです。中伊集院村は、下伊集院村には苗代川も入っていった。苗代川は、今は東市来町です。そして上伊集院村は松元とか饅頭石、あの辺を言っていた。そう聞いています。

平田 一般的には都が基準になるのではなく、薩摩藩の場合は鹿児島が中心になつて区分された。鹿児島に近い方が「上」になるのでしょう。川の流れの場合もあるでしょうし。

平田（功）川の流れもですが、上方限を「カンギイ」と言います。カンギイをもっと具体的に言ったら、松元なんです。

平田 あゝ、そうか。川の流れから言つたら「上」になるわけですね。

平田（功）私の家は神之川（かんのかわ）べりでした。その上流は下谷口・カンギイ

（上方限）そして松元に行きます。そして、鹿児島です。

平田 なるほど。伊集院の場合は神之川の流れによって上・中・下の可能性が出て来ましたね。鹿児島基準じゃないな。

平田（功）余計な話ですけど、冬になると、鴨が日置の方から飛んで来よったです。

江口・・・

平田 江口浜？

平田（功）江口浜と言ったら、今は東市来町ですけどね。もっと日置に近い・・・

納 そう言えば、そこの吉田。構木川：稻荷川を上って行った所が宮之浦でしょう。ウラとカミ〇〇と同じ解釈をしてもいいわけですね。ウラは川上のずっと上方だ、と

平田 ウラは先端ということでしょう。万葉集にはよく出て来ますけどね。木末と書いて、キノウレ。

納 木末・梢の方をウラと言いますね。

坂本 鹿児島に田上がりますね。そうしたら田上の反対がどこかにありそうなものだけ。

平田 それはないです。

坂本 武を田下（たげ）と解釈した人もあつたけど。

平田 それは無理だと思います。

坂本 何かありそうなものだ、というのが一つ。もう一つはウエと言わずにカミという言葉が正しいんですかね。谷山の南の方に水樽（みつたい）とう所があるのです。そして、それのずっと上方に上水樽（うえみつたい）という場所があります。ところが、その人たちは僕たちは「カミミッタイ」が本当だと言い張った時期があったもんですから。

平田 あゝ、そうですか。出来たのですが。平田吾平山陵との関係ですよ、出て来る

坂本 そしたら、ウエミッタイじやなくカミミッタイというのかなあと思って、ちょっと気になったもんだから。

平田 そうですね。言葉の歴史からいうと、カミ・ナカ・シモが古いわけです。その次は上手投・下手投、上目・下目、上着・下着などウワ・シタという表現が出て来ます。そしてウエ・シタになります。

平田（功）伊集院でも、上神殿（かんじどん）・下神殿（しもじどん）と言います。ウエコドンとは言いません。

平田 それは集落が出来た時期によって違うのじゃないですか。歴史的にはカミ・ナカ・シモと分かれるのが古く、ウワ・シタと付くのが平安時代でしょう。それから少し時代が下がってウエ・シタになる。

以前にも述べたことがあるのですが、上荒田（かみあらた）に対して下荒田（しもあらた）、ウエアラタに対してはシタアラタだろうけれども、ウエアラタ・シモアラタという

のは文法的には少々混乱していると思うのです。シタアラタという言い方はなかなかしないでしょう。

平田（功）シモアラタですよね。

納 シタアラタはない。シモアラタという。

平田 ウエ・シモという混乱が鹿児島では見られるのです。

平田（功）町も上町（かんまち）・下町（しもまち）と言います。

平田 今日はそれを後半で話します。他にありませんか。

吾平（あいら） 本来の始羅郡が名前を変えて、吾平になつたのです。

納 吾平は昔の始良村です。今は吾平になっていますが、その近所に大始良というのがあるのですよ。大始良は昔のままの始良を使っています。

平田 いや、向うの方が本家なんです。そもそも。

永田 大始良は大きいですよ。大始良

村は鹿屋と合併して鹿屋市の大字になります。吾平は、もう僅かな地域です。

平田 あの辺は難しい所ですね。始羅郡・大隅郡・肝属郡と、大隅半島の郡界は

判りません。どこかで片づけなければいけないのでしょうけどね。

小山田 今、鶴戸神宮がある所、山を越えて神宮に行きますよね。その参道の脇に矢印がしてあって、吾平山陵と書いてあります。

神代三山陵

平田 ちゃんと主張してるわけですね。

小山田 吾平山陵と書いてありますよ。平田 それはある。西郷さん達が可愛岳を突破して来る山奥に可愛山陵というのがあったなあと思って見ましたけどね。登っては行かなかつたのですけども。

イヤイ 吾平山陵の所にも何か書いてあったです。

納 これもあるけれども、もう一つです。吾平山陵の所に、地名として面白いのは館屋敷というのがあります。それと後産を埋めた「イヤ前」というバス停もある。

平田 ヘソの緒のことですか。ヘソの緒を後で埋める？

平田（功） 胎盤のこと。あれをイヤイと言います。昔はお産をわがやするものでした。産婆さあがしやいもんでした。

そして、イヤイを取りけ来やつおばさんがおいやったとです。お金を産婆さんからかその産んだ家からか貰って始末をする。

納 飛行場の向うに、な。

平田 はい。宮内庁管轄は、みんな、鹿児

うちの隣のおばさんがそれをしつおいやつたです。山の中にどこか一ヵ所捨てる場所があるってですね、私は行ったことがありません

けど、そこに捨てておいやつたみたいです。

イヤイを始末する場所があったんですね。本当に優しいおばさんで、隣においやつたと

です。

納 そのイヤ前という場所は、何年か前に南日本新聞が地名を紹介していました。文字

は忘れましたが。

平田 何か辞典を引けば判るでしょう。

（編集者後記：胞衣・エナの方言？「以弥ヶ平」という小字が喜入町瀬々串にある）。

小山田 そのおばさんには、どの産婆さあも頼んみやつせえ、始末しておいやつたです。

神代三山陵

川野 可愛山陵も向うにあったのですか。

小山田 吾平山陵と書いてありますよ。平田 それはある。西郷さん達が可愛岳を突破して来る山奥に可愛山陵というのがあった。可愛岳の方と川内の可愛山陵との綱引きがあった。

イヤイ 吾平山陵の所にも何か書いてあったです。

納 これもあるけれども、もう一つです。吾平山陵の所に、地名として面白いのは館屋敷というのがあります。それと後産を埋めた「イヤ前」というバス停もある。

平田 ヘソの緒のことですか。ヘソの緒を後で埋める？

平田（功） 胎盤のこと。あれをイヤイと言います。昔はお産をわがやするものでした。産婆さあがしやいもんでした。

そして、イヤイを取りけ来やつおばさんがおいやつたとです。お金を産婆さんからかその産んだ家からか貰って始末をする。

納 飛行場の向うに、な。

平田 はい。宮内庁管轄は、みんな、鹿児

島県になっています。可愛山陵・高屋山陵・吾平山陵、と鹿児島県に三つともあるのです。宮崎県の方は古くから言っていたのだけど、力がなかったから、みんな否定されたわけです。それでも宮崎県の人たちは根性があって、今でも本家はこっちだと主張しているのです。

平田（功） ちょっと話がそれるかも知れませんが、それとやっぱり前後するのでしょうか。私たちが山登りをしようか。

平田 どこですか？

平田（功） 高千穂峰の宮崎県との境。山頂はどっちの県になっているのですか。

小山田 山頂は宮崎県。

平田 霧島はほとんどみんな宮崎県です

平田（功） 宮崎県でしょう。それとは関係ないですか。

平田 それは鹿児島の方が宮崎側に遠慮したのじゃないですか。

平田（功） それと今の話とは別なんですか。

平田 三山陵は何というかな、薩摩の方がこちらに強引に取ったわけです。高千穂とか霧島の山頂は、古くから言われている

平田 前半はこれで終わります。ちょっと休憩しましょう。

島津氏の町づくりと方位

平田 信芳

今日は4年前に使った「稻荷川流域の歴史」というレジュメをコピーして、それを利用しながら話を進めます。レジュメも私のノートをそのままコピーしたものです。

ノートをコピーすれば、そのままレジュメとして使える世の中となりました。

話を始める前にこれを配ります。これは

ことなので敢えて争わなかったのじゃないでしょうか。

平田（功） 実際の墓というのは。

平田 それは判りません。今の歴史家は神武天皇の存在すら認めませんので、その父・祖父・曾祖父などは考えません。それは神話の世界だと片づけます。

上野 神武天皇が日向から出たとするならば、やっぱり宮崎にあるのが自然じゃないですか。

平田 ところが鹿児島の人たちはこっちから出たと言い張ります。

小山田 東串良から出た、と。

上野 ああ、内之浦ですか。

平田 いや、東串良の柏原から出という。

小山田 紀元二千六百年の時に碑を建てて

いる。

平田 あちらこちらで石碑を建てていますよね。紀元二千六百年ということで。先日も水谷山で見つけましたよ。

小山田 二千六百年記念ということで各地でいろいろやっているようです。

平田 前半はこれで終わります。ちょっと休憩しましょう。

67号の5～6ページで、先日差し替えると約束したものです。今日の話でも若干触れる部分があります。

淨光明寺と今和泉屋敷

余談になりますが、先日初めて城山トンネルを通ってみました。長いですね。700メートルぐらい。歩いているのは私一人で、通って

いるのは車だけでした。くぐり抜けてすぐ左の方に城山団地に入る道がありました。昔の冷水峠あたりでは道が五つ・六つ分かれており判りにくくなっていました。真っ直ぐ下って行ったら紙屋谷という停留所の標識が見えたので、玉里の方に向かっていると気付いてあわてて引き返しました。冷水に降りるのはどっちだと聞いたら、こっちと指さして若者が笑っていました。冷水峠は非常に判りにくくなっています。昔は冷水峠で迷うことなど考えられませんでした。

昔は冷水峠近くに水源地がありました。現在もありますが、その水源地の水は上水道として市民に利用されています。江戸時代は、その水源地を浄光明寺が持っていたと言います。西郷さんの墓の所にある寺です。現在でも浄光明寺は、鹿児島市が上水道として水源地を確保したもんですから浄光明寺の水道代はとらない、と。そういうことになっているのだそうです。私の家に浄光明寺の坊さんが、毎月見えるものですから、そんな話までします。昔の浄光明寺はえらい所で、現在山形屋の社長宅になっている屋敷は、昔は今和泉屋敷という所で・・・。

平田（功） 今和泉屋敷。どこですか、それは。

平田 大竜小学校から西郷さまに登る途中の右側にあります。今はシティビューが止まる停留所があります。停留所の所に大きな石壙の屋敷がありますが、そこに今和泉屋敷があったのです。

平田（功） 私は今和泉どんの屋敷を探しとったもんですから、祖母があすこに

あがつちよつた（今和泉島津家に行儀見習として仕えていた）ということで、どこだろうかと思っていました。

平田 あゝそうですか。現在は山形屋社長宅になっています。天璋院篤姫もあすこに住んでいたのでしょうか。元々は今和泉島津の出ですから。そういう所です。その今和泉屋敷も昔は浄光明寺の水を貰っていたのそうです。浄光明寺というは相当なものを島津家から与えられていたのでしょうか。

### 鹿児島の字地

レジュメ「稻荷川流域の歴史」によりながら説明します。(2)(3)は明治17年刊行の「鹿児島県地誌」に記されているものです。(2)1 下町(しもまち) 2. 上町(かんまち)は今日の本題になりますので、説明は後に回します。3. その他は現在の町名の基礎になったものばかりですで見当が付くと思います。一々説明はしません。(3)の説明から始めます。

内ノ丸(うちのまい:うちのまる)、内城の内ノ丸になります。大竜小学校の北側一帯を言います。上ノ原(うえんはい:うえのはる)、豊野馬場から鹿児島商業に向かう一帯の呼び名です。岩崎は岩崎谷として知られています。豊野は南風病院のあたり。城ヶ谷(じょうがたい:じょうがたに)・冷水(ひやみつ・ひやみず)は現存する地名です。中福良は天文館一帯の地名です。堀之内は堀之内馬場(ほいのうっぽあ)という地名が残っています。岩崎谷から今給黎病院に向うあたり一帯が堀之内馬場という所です。後迫(うしとざこ:うしろざこ)、これは現在の稻荷町。田ノ浦は祇園之洲公園一帯。大門口は現在も大門口というバス停があります。中洲は中洲小学校、甲南高校の裏あたり。次の三角門というは知りません。鶴江崎は春日町。この

鶴江崎に西田橋が移設されて石橋公園になっています。町口は春日町。春日町は町口と呼ばれていたわけで、上町には含まれていません。堂ノ前、これは「ドノマエ」という呼び名が残っています。玉竜高校に入って行く筋の所です。あすこには昔、道路角に風呂屋があり、ドノマエの風呂屋と言っていました。その次の都曇答膳。タンタドウです。難しい字を書きますが、擬音の当て字です。

次は催馬楽(せはい:せはる)。その次は実方

が出て来ますから上ノ原(かんのはい)でしょ  
うね、吉野の。実方(さねかた)川添(かわせ)  
国料(こくりょう)勝浦山(かつらやま)。このカツ  
ラヤマに鹿児島東高校が建っています。

吉野村には菖蒲谷(しょうぶだに) 帯迫(おび  
ぎ)雀ヶ宮、中ノ町(なかのちょう) 七社(なな  
やしろ)。ああ此処が上ノ原(かんのはい)です  
ね、吉野村ですから。催馬樂の所にあった  
のは上ノ原(うえんはい)です。訂正します。  
坂元村のものは上ノ原(うえんはい)、吉野村  
の方が上ノ原(かんのはい)ですね。

それから塩ヶ水。これは竜ヶ水(りゅうがみ  
す)のことです。竜ヶ水に塩屋さんとい  
家が沢山あります。昔は塩を作っていたの  
です。塩ヶ水という地名はそのことに拠り  
ます。平松、花倉(けくら)、磯はご存知の  
通り、国道10号の沿線になります。実方は  
二つにまたがっているようです。

実方と雀ヶ宮(青野里大アソニ様さやまさき)

実方と雀ヶ宮というは結びついていま  
す。此処で話ををしておきましょう。三十六  
歌仙の一人、藤原実方が一条天皇の御前で  
三蹟の一人藤原行成と歌枕のことで論争し  
て、時の関白藤原道長の機嫌を損じます。

「歌枕見て参れ」と言われて陸奥守に左遷さ  
れる有名な出来事があります。夫実方が左遷  
されたので、奥方が後を慕って行くのです。  
しかし陸奥国に辿り着かず、下野国で亡く  
なります。奥方が亡くなった時、沢山の雀が  
亡骸の回りに飛んで来たそうです。既に死ん  
でいた藤原実方の靈が雀になって現われ、奥  
方の死を悔んだのだと人々に同情されます。  
人々は奥方の亡くなった所に雀之宮という  
を建てて藤原実方と奥方を祀ったという話に  
なります。

下野国薬師寺跡・下野国分寺跡・国分尼寺  
跡を訪ねた時、宇都宮の一つ手前に雀之宮と  
いう駅があったもんですから、わざわざ降り  
て調べに行きました。そこで藤原実方と奥方  
を祀ったということを知りました。それで、  
鹿児島の実方と雀ヶ宮もそれと関係があると  
悟ったわけです。鹿児島の実方神社も藤原實  
方を祀っております。島津義久・家久あたり  
が和歌の道に熱中しますから、歌道の神様と  
して実方神社を建てたのだろうと考えられま  
す。そのことから実方という地名が付くわけ  
です。そしてすぐ側に藤原実方にゆかりのあ  
る雀ヶ宮をもって來た。それが吉野の雀ヶ宮  
のはじまりになると思います。

この話は稻荷川の歴史を考える会の時に  
説明しました。鹿児島にはそういうしゃれた  
地名が多いようです。

稻荷の市

(4)稻荷の市、これは三国名勝図会にある  
文章です。まず読みます。  
「毎年十一月、当社祭日より連旬、近地通衢  
数町に亘り、浮舗を出す、是を稻荷の市とい  
ふ、都鄙の男女、日に集り、求るに有らざる  
ものなし、他國に於て此市と豊後國府内の浜

之市と肥後国天草の本戸之市とを以て、九州三の大市と称するとかや、かくて此稻荷の市、最も大なりとぞ」（三国名勝図会、卷之三）。

稻荷神社の前の道で開かれていた市が、九州で三つの賑やかな市と言わたったという記録が三国名勝図会に載っています。稻荷の市が開かれた時期はいつ頃かと考えると清水城があった時代で、清水城の前で稻荷の市が開かれたということにもなります。さらに鹿児島・大分・本渡が賑わった時期

は、南蛮貿易が栄えた頃との見当がつきります。このように定期市が開かれたということは、その頃はまだ町はなかったことを示します。したがって清水城時代までは町はまだ形成されていなかった。それを示すものが稻荷の市という表現です。

**城下町鹿児島**  
そうすると鹿児島の城下町はいつ頃から開かれたか、ということになります。島津氏が鹿児島に乗り込んで来るのは南北朝時代の初め、暦応年間です。矢上氏を倒して東福寺城を占領することから始まります。その年代は1341年、14世紀の中頃です。5代貞久の時代です。

6代氏久の時になって東福寺城は狭いところで、清水城に移ります。清水城に完全に移るのが1387年、7代元久の時代です。それから内城に移るのが1550年、15代貴久からです。

内城はその後は大竜寺になります。これが以前に話をし、今日配った会報に載っている臨済宗の寺になります。鶴丸城が完成するのが1602年、18代家久からです。

このように島津氏の拠点を考えてみると

東福寺城とか清水城の時代には、稻荷の市が清水城の前で行われていたわけですから、まだ町づくりというのは、この頃にはなかったとみてよい。城下町づくりが始まるのは内城と鶴丸城の時代になります。

そこで今日配ったプリントの上町と下町の区別を見ることにします。上町というのは、内城に伴った町になります。内城の城下町として町人たちを集めて作られた町が上町になります、結果的にですね。下町は鶴丸城が出来てから発達した町になります。

このように分けていくと、いろんなことが判って来ます。内城が出来るのが1550年ですから、それ以前に稻荷の市があったことになります。ザビエルがやって来るのは1549年です。ザビエルが来たときには、そんなに町は開けていなかったと思うのです。ザビエルは上陸して鹿児島に滞在しますが、恐らく稻荷川河口一帯の春日町か清水町あたりのどこかに泊まったと思います。

上町の中に面白い信仰地名が出て来ます。恵美須町という地名があります。エビスさんを商売繁昌の神として祀ったことに基づくわけですから、これが出て来たのが内城に伴った城下町ということを考えると、16世紀後半に鹿児島にエビス信仰が入ってきたのだなと見当がつきます。下町の方には大黒町があります。これもやはり商売の神として大黒さんを祀ったことによるわですから、エビスよりもちょっとおくれて大黒信仰が鹿児島に入って来たなという見当がつきます。同じ頃かも知れませんけど。エビス・大黒というの正体が判らない神様ですが、16世紀から17世紀にこちらに入って來た信仰だなということが、町の名前から見当が付くわけです。

町づくりとこう言った信仰地名とは結び付いているとみられます。その他に信仰地名として古そなのは住吉町がありますが、航海の神住吉信仰の年代についてはよく判りません。

また上町の西南隅に琉球館が造られ、下町の西南隅には唐人町の名称は生まれませんでしたが、許二官や許三官の屋敷が造られ、二官橋通り・三官橋通りの地名が残っています。さらに甲突川を越えると、高麗町になります。

#### 真北の方位

今日の本題、方位の話に入ります。何年前ですかね、4~5年前になるのですが、（後記：平成9年2月のこと）清水中学校の裏山で、石垣が三列残っているのを偶然見付けました。これが清水城の本丸ではないかと私は新聞に発表したのです。此処は保安林になっていて、史蹟として観光地として整備するのはちょっと難しい所なんです。藪になっていて、刈り払うと草はすぐ枯れて、火の用心に気を使う危険な所です。今ままにして置いた方が反対で安全だと思います。清水中学校の悪童どもが裏山に登ってタバコを喫ったりすると、山火事になる恐れがある、大変な所です。そのままにして置いた方が完全に保存されるのではないか、と考えたりします。地主さんも年をとった方で、この前亡くなりました。後継ぎはどうなっているのか判りません。凄い藪の中です。

特別に強調はしなかったのですが、その石垣の中軸線を測った時に、N5°Eという方位を確認したのです。磁北から5°東に振っているこの方位は薩摩国府・国分寺

以来ずっとつきあわされて來た方位で、これを真北と言います。北極星を見通した方位で、奈良・平安時代によく用いられました。鹿児島県では磁北から5°ばかりずれております。これが真北の方位です。（改）由平

何故、この方位が用いられているのかと、清水城の石垣の時は疑問に思って、そのままにして置いたのです。今年になって、吉田の本名生まれで、熊本県の枝立に住んでおられる脇田さんという方が、相当なお爺さんですが、時たま、こちらに帰って来ていろんなことを尋ねて來るのです。最初は桐野利秋の住んでいた家はどこにあったのかとか、そういうことを尋ねて來たのです。先日は吉田に板碑があるから見てくれないか、ということで連れて行ってもらったのですが、板碑ではなくて大きな石碑でした。碑本体が1m30を超えていて二重基壇、全体の高さが1m80を超える大きな石碑でした。年号などは刻んでなく上の方に大きな〇が彫ってあるだけでした。〇はいうまでもなく日輪を意味します。これはただものじゃないぞと思って、クリノメーターを当てたのです。いつも七つ道具をリュックサックに入れておりますから、すぐさま方位を測ったのです。すると、N4°Eという方角が出て來たのです。クリノメーターの当て方でN5°EとN4°Eというのは、1°や2°の目盛りはれますから、これはと思ったわけです。

こういう大きなものが吉田の山の中に真北の方向で立てられているのは、ただものではない。しかもその石碑を取り囲むように大きな樹木がモイどんのように残っているわけです。その土地生まれの人ですから、昔なじみの人たちがいて、お茶でん飲みやんせ、と

なって、お茶をもらいながら話を聞きました。あの石を何と呼びますか、と聞くと、オッカどんというのです。オッカどんとかオッカさま、という。

平田（功） オッカさん（お母さん）？  
平田 いや、大塚。大塚どんとか大塚さま。“本名の大塚そのものですよ”と。こんなものが、しかも真北の方位を意識して立てられていて、モイどんみたいな所にあること自体、吉田本名の大塚であること物語っている、と。お茶を飲みながら、そういう話を聞き出せたのです。地元の人たちに大事にして下さいと言ったら喜んでいました。

戦国時代から南北朝時代に遡るのかなと思つたりしました。石材は反田土石に近い地石で、反田土石系統の石とみてよいと思ひます。

吉田の本名に真北が使われていたことを知って、気になっていた清水城石垣の中軸線N 5° Eのこともあったもんですから、上町のめぼしい所を測り始めました。（以下録音ミス。レジュメにもとづいて作成）

まず、正月に五社詣りをする五社を全部回って測りました。するとN 5° Eが出て来ました。若宮神社の向きがN 5° Eだったのです。若宮神社は上之馬場（うえんば）の延長上にあり、内城の周辺にありますから、内城周辺の道路や石垣を測って行くと堅馬場・今和泉屋敷・伊集院屋敷・卸口小路（おろくつち）などにN 5° Eが認められました。内城は真北の方位を基本として、城づくり・町づくりを計画したということが判つて來ました。また、大乗院橋から仁王堂水（にょどみつ）に向う坊中馬場（ぼじゅんば）

も真北に向つていたとみられます。

その他に県下で真北を意識して作られた道路として、出水の箱崎八幡から南下する直線道路があります。西出水小学校と出水工業高校の間を通る道です。西出水小学校一帯の小字は政所（まどころ）という意味ありげな地名です。土師器片・須恵器片の散布も見られ、出水郡家の有力候補地と私は見てています。また、姶良町の小瀬戸遺跡の東側を北上する直線道路とか帖佐城跡（桑原郡家ではないかと見ている所）などに、真北の方位が認められることに最近気付きました。

それはとも角としても、奈良・平安時代によく用いられた真北の方位が、16世紀の内城設営の時代まで、薩摩国に残っていたことを示します。

真北ではありませんが、国分の舞鶴城は面白い方角で築かれています。今日見えていますが、上野さんが春分の頃、通勤の時に気付かれたことです。舞鶴城跡の前の道路：池之馬場を通つて来ると、車の真っ正面から朝日がさして来るといひます。島津義久は舞鶴城を中心とする町づくりに京都風を意図していたようです。碁盤の目状の町を考えていたようですが、その方位を春分の日に測つたと思われるのです。池之馬場の方位はN 125° EすなわちE35° S、真北から30° 振った方位を基本としています。舞鶴城の場合、山麓に立地する自然地形が大きな要素を占めていると見られますが、春分の日の出の方向という要素もあったと思われます。

歴史の古い神社とか城跡とか町並みなどの方位を測つておく必要があると考えます。真北の類例が増えて来ると、そのデーターは無視出来ないものになります。

さて、鶴丸城の方位はとなると、江夏友賢が占地をトして火難の相ありと言つたと伝えられていますが、クリノメーターを当てるN 53° Wで、方位に意味を見出すことは出来ません。鶴丸城は自然地形に基づいた立地と言えます。江戸時代に入る頃は、方位などにこだわらなくなつたとも思われます。

〔質疑応答〕  
**北辰・太極・妙見**

納 N 5° Eがよく判りません。

平田 磁石の針は常に磁北を指します。磁北を指す方向から5°だけ、東に振つてある：ずれている方向になります。

納 日本全国そうなんですか？

平田 鹿児島県の場合が5°です。地域によってそれぞれ異なります。それは北極星を見通した方向になり、昔から真北と呼ばれていました。正確に南北に向いた家を建てる時、今ならば磁石の南北を測つて決めますが、昔は北極星を見通して方角を決めたわけです。その意味で真北の方位をもつ礎石列が発掘調査で出て来ると、古い時代のものと判断出来ることになります。

北極星は太極とか北辰などと呼ばれていました。鹿児島の人ならばほとんどが知つていた「北辰斜めにさすところ」は、偶然ながら的を射ていたわけです。北辰を意識する町だったのです。仏教では妙見菩薩が當てられていました。県下に妙見という地名が数多くありますが、星神信仰・北辰信仰と関係があるとみてよいと思います。

納 妙見温泉も関係がありますか？

平田 具体的に調べていませんが、昔は妙見菩薩を祀つていたのでしょうか。

納 国分の清水に、ホッシンさまという神社がありますね。  
平田 ホッシンさまとは北辰神社のことです。鹿児島の若宮神社も江戸時代の別当寺は妙見寺という日蓮宗の寺ですので、北辰信仰と結び付いていたかも知れません。北極星を崇拜する意味で、それを見通した方角の建物だったということも考えられます。

明治初年の廢仏毀釈後は、北辰神社・妙見神社などは天御中主神社と名前が改められました。天御中主神（あめのみなかぬしおかみ）は高皇產靈神（たかみむすびのかみ）・神皇產靈神（かんみむすびのかみ）よりも古い存在として日本書紀に書かれていますが、古いとされるものほど後世に付け加えられたとみてよいでしょう。タカミムスピとカンミムスピの命令を受けて、イザナギ・イザナミの二神が国造りをするのが、日本神話の骨組みです。イザナギ・イザナミ神話が本来根元的な神話なのでしょうが、それよりも古いとしてタカミムスピ・カンミムスピが架上されたとみられます。それよりも古いとされるのが天御中主神ですが、比較神話学的にみると新しい時代に作られて神だと考えられます。

北極星の周囲を北斗七星を初めとする多くの星が回っているわけですから、天の真ん中にある星、それが天御中主神という概念になるわけです。

納 堅馬場が真北の方位で作られたということでしたが、もう一つ、近くに堅野馬場というのがありますね。

平田 はい、南風病院の前の道。

納 「タテノ：立野」については民俗学の小野先生が言っておられるのを聞いたこと

があります。(以下、録音あり)

昔、家の屋根を葺く茅を刈って、乾燥させるために置くところが「タテノ」だという解釈をしておられました。昔の電車通り、あそこは堅野馬場でしょう。それであの中が堅野じやなかつたかと、私は解釈しておったのです。あの辺は堅野と言つていいのですかね。

平田(功) 堅馬場と言うのでは。

松浪 勘違いしちょいやつとじやななかですか。昔の電車道は館馬場(やかんばあ)でしよう。

納 私がいうのは。

平田 現在地の前を通る道の延長が館馬場です。

納 此處は館馬場ですね。堅馬場を真っ直ぐ行けば西郷さまの墓に行きます。

松浪 はい。あれは堅馬場ですね。

納 もう一つ、冷水に登る所に昔電車が走つておったでしょう。あの道に堅野馬場という名が付いておつたのです。それでタテノに馬場が付いて堅野馬場になつた。タテノにはいっぱい茅が生えていたのだろうと小野さんは言われるのです。

平田 鹿児島県にはノボリ立・幡立・花立・アガリ立など、いろいろな「立」地名があります。タテノ:立野といふのはそういう信仰地名の一つでしょうね。「堅野」という地名はあり得るのです。立野を通る道が立野(堅野)馬場になるわけです。

また、堅馬場に対して横馬場もあるわけです。堅馬場は、内城にとつては中心的な道になります。そして鹿児島には横馬場もあります、春日町に。その名前は、今ではほとんど使いませんけどね。縦・横の馬場

があったのです。

### 本丸と二之丸の境

納 それから、昔の本丸と二之丸というのはどこが境になるのですか。

平田 本丸と二之丸の境は、本丸の南端といふのですかね、あそこに堀があつたのですよ。埋めてしまつたけど、その堀の跡をセメントで枠組みして堀であった位置を示しています。県立図書館の横にその枠組みが作つてあります。あそこに堀があつたのです。堀の南側、今の図書館から二之丸になります。

納 そうすると、上の黎明館がある所とその下の図書館がある所、その境が本丸・二之丸の境ですか。

平田 そうです。そして、その境の延長が溝になって地下に潜っています。

納 はい、あります。市役所の脇を通つて行く。

平田 あれは潜つて行けたと思うのです。明治10年9月4日、あの穴を通つて薩軍の決死隊が米倉に切り込んで行ったと思うのです。

納 そうすると、昔の名山堀と同じくらいの大きさだったわけですか、あそこは。

平田 そんなに大きくはない。しかし本丸と二之丸の境の堀は大きかったです。そして私学校跡の北側にも堀があつたはずです。埋まつてしまつてゐるけど、その堀の延長の突き当たりに薩軍最後の砦があつたわけです。

そこに集まつて桐野利秋らが最後の抵抗をして死ぬわけです。西郷さんもそこに向かう途中撃たれて死にます。そんな堀も埋められています。

今日は録音を20~30分ばかりしくじつていますが、私がしゃべつたことですからレジュメでつなぎ合せます。これで終ります。

# 稻荷川流域の歴史

平成8年8月8日

## (1) 和名抄記載の郷名

1. 鹿島郡 —— 郡方・在次・安薩

谿山郡 —— 谷山・久佐

## 2. 対応する河川の流域

精木川(稻荷川)・神月川(甲突川)・田上川(新川)

永田川・和田川

3. 懸廟 —— 荒田八幡・一条神社(一之宮神社)・諏訪神社(南方神社)・伊佐智佐神社。

## (2) 広島県の区域 —— 明治12年11月制定(廣島県地誌)

1. 下町 —— 山下町(県庁所在地)・易居町・生産町・六日町・築町・汐見町・泉町・金生町・中町・吳服町・大黒町・堀江町・住吉町・舟津町・新町・松原通町

2. 上町 —— 小川町・和泉屋町・恵美須町・車町・菜町・柳町・浜町・向江町

3. その他 —— 新照院通町・薬師馬場町・鷹馬場町・西田町・平馬場町・西千石町・東千石町・加治屋町・山口馬場町・植口町・新屋敷通町・下荒町・高麗町・上園町・冷水町・長田町・下龍尾町・上龍尾町

池上町・鼓川町・稻荷馬場町・清水馬場町・春日小路町。

## (3) 字地(廣島県地誌記載)

1. 广島 —— 内丸(上龍尾町)・上原(下龍尾町)

上町・浦男女1117人・浦38人立・庭82人立・魚連上飯漁師領とれまし  
下町・浦男女2121人・浦38人立・庭106人立・(役戸主) No. 30  
西田町・浦男女186・浦40人立・庭(主)・魚連上飯漁師領とれまし  
南林寺門町・浦男女38人(三郎一寺役=31)・浦35人立・庭90人立・魚連上飯漁師領とれまし  
南林院門町・浦男女36人(三郎一寺役=31)・浦38人立・庭(主)・魚連上飯漁師領とれまし

岩崎(山下町)・豊野(下龍尾町)・城ヶ谷(長田町)・冷水  
(冷水町)・中福良(東千石町)・堀之内(長田町)・後迫  
(稻荷町)・田浦(田之浦町)・大門口(松原町)・中洲  
(上園町)・三角門(上園町)・塚地(向江町・浜町)・  
鶴江崎(春日町)・町口(春日町)・堂前(池上町)  
都曇客臘(鼓川町)。

## 2. 坂元村

佐馬樂・上原・実方・川添・国料・勝浦山

## 3. 吉野村

菖蒲谷・帶迫・准ノ宮・中町・七社・上原・  
塩ヶ水・平松・花倉・磯・実方

## (4) 稲荷の市

「毎年十一月、当社祭日より連旬、近地通衢数町に亘り、  
浮鋪を出す。是を稻荷の市といふ。郡部の男女、日に集り、  
求るに有らざるものなし。他國に於て此市と豊後國府内の  
浜之市と、肥後國天草の本戸之市と以て、九州三の大市と称  
すとかく、かくて此稻荷の市、最も大なり」と」

(三国名勝圖会・卷之三)

## (5) 清水山本立寺(五道院) 本立而道生(論語)

1. 忠久 得仙道阿弥陀仏 瑞宝常照彦命(得仙大禪定門)
2. 忠時 道仙仁阿弥陀仏 金太刀聰心院命(道仙大禪定門)
3. 久經 道忍義阿弥陀仏 真明覆道男命(道忍大禪定門)
4. 忠宗 道義仲阿弥陀仏 傳錦風雅士命(道義大禪定門)
5. 忠久 道鑑道阿弥陀仏 上寿豊福彦命(道鑑大禪定門)

# 地名研究会報

第72号

平成13年6月3日

鹿児島地名研究会

- I. 第72回例会 平成13年3月4日(日) 於教職員互助組合会館和室  
(出会者) 青柳俊二・大田照夫・納栄藏・小山田稔・坂本誠・永坂芳彦・  
西田春人・福元忠良・松田誠・三善喜一郎・村山謙一・米原正晃  
II. 大日本地名辞書読会 P. 1758~P. 1759 (計14名)

〔問題となった地名および事項〕 本町・オビ(飫肥)・朝鮮半島南部と南九州・  
油津・バリアフリー・鹿児島の聲教育・手話での地名表現・谷山の  
合成地名・地名の垂直分布・鶴飼の痕跡・鶴飼という名字・鶴塚・  
桂姫伝承・鶴の呪力・鶴縄・小字未収録の9ヶ町

## 本町(ホンマチ・モトマチ)

平田 「ホンマチ」と呼ぶのは京都・大阪に、「モトマチ」は江戸に由来します。ホンマチと名乗っている所は桃山時代に、モトマチを名乗る所は江戸時代に起源があると見てよいでしょう。本町をホンマチと読むか、モトマチと読むかは丹念に歩いて聞く以外に方法はありません。その区別は一筋縄ではいきません。「本町」と表記は簡単そうに見えますが、読みによって歴史的な差が読みとれる地名です。

## オビ(飫肥)

平田 今日読んだところでは飫肥と油津がどういう地名なのかが問題になると思います。オビという地名はアポック社『日本地名索引』を引くと、二つあります。小尾と書くのが山梨県にあります。それと飫肥です。『日本姓氏大辞典』(角川)で名字を拾うと、小尾・小比・小肥・尾日・帶・意非・飫肥などがあり、オビに近いものとしてコヒ・コビも眺めてみました。コヒ:吳比・小樋・小比・己斐、コビ:古井・子生・小尾・小樋・小榎・小榎・小肥・巨備などの

名字があります。これらの中で普通、地名として知られているのは己斐郡と巨備郡です。これだけの漢字表記を見ると、オビという意味は「小さな樋(小樋)」というのが最も納得出来る表現だなとは思います。しかし漢字だけで解釈出来ることは限りません。判らないとみるのが、本当のところです。

## 朝鮮半島南部と南九州

平田 昨日、黎明館で「蝦夷と隼人」という面白い講演があったのですが、聞かれた方は? 二人だけですか。聞きながら思ったのは北海道・東北の縄文文化と蝦夷とアイヌがつながっている、と。東北地方の地名やマタギが山に入る時の呪文の言葉に、アイヌ語的な表現が多く残っているという面白い説明がありました。南の場合は、南九州方言と琉球方言は明らかに違います。共通性があれば鹿児島の言葉の起源を南の方につなげられるのですが、そこがなかなか難しいところだなとの感じを持ちました。

2月初め、韓国に行きました。朝鮮半

島南部とこちらとは近いのじやないかとの感じを持ちました。というのは、朝鮮語のイントネーションはまるで鹿児島弁なんです。鹿児島弁をべらべらとしゃべっているのかなという感じを受けました。もし古代朝鮮語の中に「オビ」という表現があればそちらに由来を求めるべきじやないかと思ったりします。鹿児島の地名の中で全然意味の判らないのは古代隼人が使っていた言葉だと考えていいと思います。もし古代朝鮮語で解けたら、西の方の影響が強いということになります。

光州の国立博物館でびっくりしたのですが、こちらの成川式土器に伴う手捏土器と全く同じものが飾ってあるのです。手捏土器の後に続くものが、死者の墓に埋める明器として年代的に続いているのです。しかも手捏土器と同時代の遺物の中に丹塗土器があるのです。丹塗土器は隼人独特の土器とみられていますが、全く同じものがあるのです。朝鮮南部とのつながりを見直さなきやいけないのじやないか、と思っています。

それからもう一つ、朝鮮半島南部に行ってびっくりしたのは、墓の形態です。墓域が全部、馬蹄型というか銅鐸型。考古学者ならば前方後円墳の周濠の形だと、すぐ判る。どの村でも何十基とあるのです。応神天皇陵とか仁徳天皇陵の周濠の形は明らかに南朝鮮から入って来たものと言えます。これは日本の考古学者も韓国の考古学者も気付いているはずだと思うのですが、責任を負わされるのを恐れて表面に出せないので思つたりしています。気付いていないのかな。全羅南道を旅行してご覧なさい

すぐ気付きます。そのうち慶州の方にも行って同じものがあるか確かめたいと思っています。

今度初めて知ったのは、日本に論語とか千字文を伝えた王仁の出生地が観光地として整備されていることでした。王仁は日本に来ていましたから、それと同じ頃か、それよりも古い頃に、この形：銅鐸型は持ち込まれた可能性は強いと思いま

昨日の話から考えると、こちらの場合南朝鮮とのつながりを考える必要があるなど、旅行を通して感じました。歴史は歩いて書けと言われますが、あちらこちら歩いて見なければいけないなと思いました。それが飫肥についての感想です。

#### 油津

平田 油はタネアブラかツバキアブラか知りませんが、これは積み出し港に由来すると思います。同じようなものを、アポック社『日本地名索引』から拾いあげてみました。

木津・塩津・柚津・桃津・梅津・油津・海老津・魚津・牛津・稻津・米津・栗津・貝津・亀津など、「津」地名は非常に多いようです。いろんなものがある。そういうものの一つとして考えていいかといいのじやないかと思います。

米原 木・塩・柚・梅・油・海老・魚・牛・・・一応必要なものが全部揃っています。

西田 これは全部、港ですね。  
平田 そうです。日本は海に囲まれていますから、「津」が多い。

## 谷山の地名散策

### バリア=フリー：barrier free

坂本 私の方を先に。

平田 そうですか。奥さんが現在具合が良いので今日説明したいとのことです。坂本さんから先に説明してもらいましょう。

坂本 地名の会での話にはちょっと合わないよな気もしますが、聞いて下さい。障害者の学習会とか老人クラブで話をする折に語る内容です。いろいろ語って来たことをまとめたいと思っていました。

ちょうど昨日が「耳の日」でした。3月3日。三・三をミミと読み、それが「耳の日」になったということです。聴覚障害の方は両方の指それぞれ3本で表すのではなくて、耳の形が「3」だから手で両方の耳を引っ張ります。障害の方が一番尊敬するというか、注目して話題にするのがヘレンケラーですが、ヘンレケラーが初めてサリヴァン先生に教育を受けた日が3月3日だということで、3月3日が耳の日に一番適しているというようなことです。

最近、新聞・テレビでバリアフリーと盛んに言います。これが「壁」（両方の手のひらで眼の前に壁をつくる仕草をする）。

「壁」をパッと開くと、「バリアフリー」の手話になります。今日は皆さんに聴覚障害の方々をもうちょっと知ってもらいたい気持と手話をちょっと憶えてもらいたい気持で話をしています。

バリアフリーを考える場合もう一つ大切なことは、聴覚障害の方々と一緒に進むみんなで一緒に進む。（手のひらを合わせ

### 坂本 誠

前方に進ませる仕草をする）これがノーマライゼーション:Normalizationです。障害者を表す場合はそれを手前にちょっと引きます。ハンディ：handicapを沢山持っているということです。ハンディをただ耳が聞こえないだけ、口がきけないだけ、目が見えないだけ、手足がかなわないだけと、そういう考え方で片づけてもらつては困ります。とくに障害者の方が強い気持を、引け目を感じております。したがってバリアフリー・ノーマライゼーション・ハンディ、そういうのを考えてもらうのであれば1時間ぐらい何でもいいから判らなくともいいから語つて欲しい。そこから始まると思います。目の不自由な方は目が見えないだけで、いつもテレビやラジオの音声を聞いているからいいじゃないかとするのではなくて、やっぱり1時間ぐらいじっくり目の見えない方々とも話し合う。そうすることがバリアフリー・ノーマライゼーションに拡がる。ハンディを本当に考えて一緒に進める社会を作ることにつながつて来るのじやないかと思います。

### 鹿児島の聾教育

昨日が耳の日でしたので、それに関係することを述べておきます。明治11年に京都下京区で聾教育が始まりました。京都下京区には「聾盲教育発祥之地」という記念碑が建っております。こういう教育に携わった場合、それを見に行く時期がありました。現在はそういうこと

をしません。

鹿児島では誰が始めたか、と言いますと佐土原スエという方が明治33年10月3日に開校した。場所はどこか。長田中学校の角地でした。民家を借りて開校しました。佐土原スエ、国分村向花の方です。ご主人が東京で警視庁の警察官でした。ところが結核になって余り命が長くないということで国分に帰ってきました。そしたら生まれていた息子さんも小児結核になっており、息子さんとご主人と一緒に亡くされて悲嘆に暮れていましたが、何か世の中の役に立ちたい。葬式をあげて間もなく鹿児島で耳の聞こえない人々のための教育をやろうと思いついたのだそうです。というのは東京にいた時近くにそういう教育の場所があったのだそうです。見よう見まねで鹿児島で始めたのが、明治33年10月3日だったのです。

佐土原という名字を電話帳でみると、国分に13軒あります。昭和40年頃、国分市教育委員会を尋ねて向花(むけ)の中心地はどこかと尋ねました。ちょうど此処だと説明してくれました。障害者ることはあまり関係がないという気持だったのか、その時はよく応対してくださらなかったのです。向花は此処ですと、それだけで終りました。まだいろいろ聞きたかったけれども、簡単に終りました。

佐土原スエ先生がどのようにして手話を教えられたか。新照院に伊集院藤一郎という先生がおられたそうです。国語・数学を担当する先生でした。伊集院菊という妹さんがおられて、その方は聴覚障害者でした。東京の盲唖学校を卒業された方だそう

です。京都の聾学校にも行かれて、後に東京の盲唖学校でも教育を受けられた。そういう経歴の方です。その方を使って長田町で手話をしながら職業教育をされました。いわゆる手芸が主でした。聾唖者だけでなく、目の不自由な方が二人ぐらいいたそうです。

どんな仕方をされたか、ということになりますが、その当時の開校式の写真が残っております。それと伊集院菊さんの子孫だという方が、城山1丁目に住んでおられました。私が市役所に勤めていた時にその方から詳しく聞きました。佐土原スエ先生と伊集院菊先生が一緒になって手話を考案しました。

日本全国共通の手話があります。今日は手話を一つでも二つでも憶えてもらいたいと思います。手の先を上から下に向けたら「上手」ということ、下から上にあげたら「下手だ」ということです。下に向けるのと上にあげるのを繰り返すと「練習する・稽古をする」ということになります。上手・下手を繰り返せば、「もうちょっと練習しなさい」になります。これが日本手話の基礎になっているのです。NHKのテレビで手話が出て来ますが、あの中のいくつか、とくに上手・下手、判った・判らんは佐土原スエ先生の考案ということになっております。佐土原スエ先生の考案なんだけれども、伊集院菊先生も一緒になって作り上げられたのではないか。それが予想されるのです。

その次、南雲総次郎。目の見えない方です。視覚障害者。南雲という名字から

見て鹿児島の方でなく、山形県米沢の出身です。そしてもう一人、加藤好照という方がおられました。鹿児島市立病院の初代院長をされた方です。この方が鹿児島に伝春病院というのを作つておられたのだそうです。そこにマッサージ師として南雲総次郎という方を呼ばれた。昔は病院にマッサージ師がいたんだそうです。その方は東京の盲唖学校を出た方で点字が判ったのです。ところが鹿児島の目の不自由な方々は点字が判らないので、病院に来ても何もならんじやないかということになったのです。そこで伝春病院に勤める傍ら、加藤好照博士の協力を得て、ある民家で目の不自由な方々を集めて点字を教えられたのだそうです。そしたら加藤好照博士が耳の聞こえない人も、目の見えない人も沢山来るようだね、学校を作つてみたらと言われたんだそうです。それで加藤好照博士の協力を得て学校を設立されました。それが明治36年2月2日。その日が鹿児島の聾学校の始まりと言われているのです。

伊集院菊先生の作られた学校はどうなっているのか。伊集院菊先生が作られて学校は鹿児島聾学院という。「盲」という字が入っていないのです。しかし目の不自由な方が二人か三人おいやつた、と。これは下荒田の迫田という方から聞きました。その学校を卒業された方です。ちょうど勝目市長さんがおられた頃で、その家の真ん前の方でした。その人の話では佐土原スエ先生は伊集院菊先生と一緒に手話を使っていろんなのを教えられたそうです。目の不自由な方もいたという話でした。

加藤好照。確か鹿児島の方だということ

でした。加藤という名字がどのくらい鹿児島にあるのか。電話帳だけでは鹿児島出身だと判らないけれども、鹿児島に189軒あります。加藤という名字はその他に国分に15、加世田に33、川内に15。あんまり他の所にはないけれども鹿児島は案外あるんだなあとみました。(編集者後記: 海浜院碑に加藤好照、京都人である)。

南雲総次郎が明治36年2月2日、山之口町で「鹿児島慈恵聾学院」という校名で出発しました。この時は沢山の方々が援助をされました。とくに伊集院菊先生が引き抜かれ、南雲総次郎が初代校長になります。何故引き抜かれたかというと、目の不自由な者が耳の聞こえない人にどうしていいかせがないか(教えられるか)と、県が許可しなかったんだそうです。それで伊集院藤一郎に相談して佐土原学院: 鹿児島聾学院におられる妹さんをこっちにやってくれんか、と。それで目の不自由な南雲総次郎と伊集院菊先生で聾教育が始まったんだそうです。

加藤好照博士という方は初代鹿児島市立病院長でした。ダイエーから海岸の方に向かうと真砂町に「海浜院設立之地」という記念碑が残っております。障害者の人たちを連れて毎年参ります。加藤好照先生はそこで何をしたのか。真砂町の辺りは海岸地帯だったので、結核療養によかったです。風光明媚で松林があって結核療養所として適地だった。鹿児島の結核療養所のはじまりは海浜院だったといわれております。その後、平川の方に移っ

て日赤の錦江病院に変わっています。結核療養所を造った人が加藤好照博士で、盲聾啞者の教育も必要と主張されました。目の不自由な方で点字が判るのは南雲総次郎一人じやないか。だから責任をもってやりなさいということで始まったのだそうです。

2代目の校長は川畠宗二郎。菱刈出身で軍人でした。その頃は軍人の力を借りないと、いろいろ難しかったと思います。川畠宗二郎校長は大正10年頃から引き受け、昭和4年に県立移管になり県立盲聾啞学校になったのです。

佐土原スエ先生の鹿児島聾啞学院はどうしていたか。4～5人だけ生徒が残っちゃったそうです。昭和4年に県立移管になつたので、あなた方も一緒にやれと言われたと。歳をとった聾啞者から聞いた話ですが昭和4年4月の合併の日に学校の門の所に川畠宗二郎校長をはじめ生徒はみんな並んで迎えてくれた。佐土原スエ先生の学校の子供たちが、みんなが待っている所に歩いて来ました。目の不自由な方を聾啞者の人たちが手を引いて連れて来ました、と。その記録が残っているようです。歳をとった方々は亡くなられまして、80代の方々がその話を繰り返しながら語ってくれます。

その模様をちょっと話します。佐土原スエ先生、その方は顔は綺麗やったかと聞くと、顔はおかしかった、と。背の高い人やったかと聞くと、うんにや小さかった。学校を設立した佐土原スエ先生は頭もよかっただろうと思うのですが、聾啞者の伊集院菊先生に人気があったみたいです。伊集院菊先生は、すらーっとした背の高い人で、顔がとっても綺麗やった、と。

佐土原学院に通学したという人が何人か残っております。佐土原学院：鹿児島聾啞学院は経営がやっぱり苦しかったみたいです。大正13年頃の実権は、石原エイという女の方です。石原エイという人はどこから来やったかと聞くと、石原エイ先生は武から来よった、と。学校はいけんしたとよ、長田町に行きよったのかと聞くと、いや行かなかった。長田町の民家を引き揚げて、西郷さん屋敷に移った。西郷さんの屋敷に行きますと、ちょうど此処やったと言うのです。どうしどうのかと聞くと、民家を借りていた、と。それは記録にもあります。民家を借りて武で学校を始めました、と。何故かと聞くと、石原エイという方が武か田上なのか此処がはっきりしないのです。石原エイさんはあすこの人かと聞くと、その人は家を借りておいやったけれども、あすこの人ではなかったという。ご主人は？と聞くとご主人はお医者さんやった、と。こんな話をするのです。石原さんは武の人か田上の人かとなつたのですが、川内という話もあったので川内も調べてみました。石原というのは川内66、加世田42、出水23、阿久根50、鹿児島 144が電話帳に載っております。

西田 坂本さん、まだ本題に入らんですが、この会場は12時までしかないのです。早く切りあげんと次の話も相当なボリュームがあるようです。その辺の時間を考えて下さい。

#### 手話での地名表現

坂本 はい、手話の話に移ります。世界各国や日本各県の手話があります。

こういうのを東京と言います。お日様が上がる。親指と人差し指で輪を作つて他方の手の下から上方に上げる。これが東京ということです。日が昇るということ。手話はいつから始まつたかというと、昭和4年頃から本格的に始まつたようです。その前はなかつたかというと、あつたのです。あつたのだけれども地方・場所・各県によってばらばらだったみたいです。

親指と人差し指で輪を作ると、日の丸・太陽。これが上がると東京、この丸を下にもつて來ると西・京都になる。新潟になると、こうなります（両手を合わせて左右に動かす）。新潟は昔から地震があつた所。これだけでは地震なんです。それに「県」を加える（どのようにされたか記憶なし。デジタル＝カメラかビデオで記録するのでなければ手話を文字で表現するのは難かしい）。鹿児島というのはこうします。（両手の指3本ずつを鹿の角状に示す）。これは鹿の角なんです。最近の若い人们は桜島の煙で表現します。

例えばブラジルになつたらコーヒー（コーヒー豆を引く格好をする）。これに国を加える。これは「国」という手話です（国の手話、記憶なし）。インドになりますと眉間に印を付けた人が多い。眉間に印をつけるとインド。ドイツはこうします（尖った帽子を表現）。ビスマルク時代の尖った帽子から来ていると思います。イギリスは頭紐を示します。バッキンガム宮殿の衛視です。アメリカは旗：星条旗を表します。オランダには風車がある。これは風車の形になります。

鹿児島県内の地名を二・三示します。親

指を唇の前に立てたら、指宿です。鰹節削りの格好をしたら、枕崎です。串木野・鴨池はこうです（記憶なし）。遮断機が上がつたり下つたりすると、騎射場です。昔は騎射場に遮断機があつて上がり下りたりしていた。まだ沢山あります、これくらいにします。

#### 谷山の地名

私もそうなんですが、谷山の人たちはてげてげで、大ざっぱ、融通がきかん。こんな人間が多かつたと言われております。『谷山市誌』にもそのように書いてあります。中村に鶴ヶ原(ウズラカハラ)・麦打田(ムキウツダ)という所があります。役人が調査に来て案内してくれた人たちに聞いた時に鶴が飛び立つたので鶴ヶ原でええがということになった。また田圃で麦を打っていたので此處は「麦打田」と名前を付けた、と。この話は土地の古い人たちもよく知つていて、よく聞かされます。

水喰(ミックレ)、あの辺は湿地帯です。ミックレというのも「道が崩れる」、そういう意味からきたのじやないか。大男の足跡とか大男が水を飲んだ場所だとか、いろんな説があります。そこを通り越すと歩き易くなります。だからバス停も「極楽」と書いてあります。そんなふうにして地名・小字を名付けたという話をよく聞かされます。とくに五ヶ別府・中山など山手の方で聞かれます。

他の所もそうだろうと思うのですが、山手それから海岸、私たちの小さい頃はこんなふうに言つていました。山手衆(ヤマテンシ)とか浜衆(ハマンシ)、こんな言葉が

使われました。

札下(ワタシタ)という所、元々は「フダンシタ」なんだけれども、いつの間にかフダモトになっていました。これはないやったか、ないやったた一ろかいな、と聞くと、土地の人たちはよく知っておりました。江戸時代の末から高札が立てられていた場所だと、そんな話をされました。今でも山田の方に札下(ワタシタ)という地名が残っております。

学校跡。明治2年谷山に15、あっちこっちに学校を造ったんだそうです。学校があった所を今でも歳をとった人たちは全部「学校跡」と言っています。

灰山(ハヤマ)というのはどこかと言いますと、現在の谷山駅の後の方になります。昔はそこに貝殻を集めて、碎いてそれを肥料として田圃に撒いていたそうです。貝殻を碎いて田圃にやる時代が長く続いて80代の方々の話では貝殻の大きな山が出来ておったけどそれが売れずに廃業してしまった。そこを灰山(ハヤマ)と言った、と。

灰山の次が、サンダラ。波之平刀鍛冶の所から桜川の方へ川が流れて来ます。桜之平から入来の近くを通って川が流れて来るので川口の方をサンダラと言います。今でも波之平の人たちは、サンダラと言います。例えば正夫という人がいると、サンダラの正夫伯父と呼びます。前回私は休んだのでよく判らなかったのだけど、この資料の中に「三体堂」と書いてあります。これと関係があるのではないか。三体堂の曼陀羅、仏像か何かあったんじやないか。

私の家は和田中学校のちょっと上にありました。下の方まで行かなければ水が汲め

なかったのです。男の子は毎日水汲みをするものでした。朝早くと学校から帰つて来ると、いつも水汲みでした。水を汲まんと風呂も入れないので。親衆(オヤジ)は皆、畑・田圃・山に行きますから、水汲みは子供たちの仕事でした。水汲みに下る所をアンダ坂(阿弥陀坂)と言います。アンダ坂をへとへとになって毎日上がったり下ったりでした。昔はバケツもありなかった。バケツもあったこちやあったなんだけれども、私の家はタンゴでした。タンゴで上がったり下りたりしました。そういうアンダ坂を今でも思い出します。

#### 谷山の合成地名

土地の人たちやら木原三郎先生からも聞かれたと思います。中山(チュウサン)は中村と山田。福平は福元と平川。宮川は宮(または宮前)と川口。谷山というのも合成地名だと一説に書いてあります。中郡も中村と郡元と合併したんだというようなことです。

ところが地名というのは新しく出来たり、それから消えて行くのがあるんじやないか。新しく出来るの合併・合成地名です。消えて行くのは何かと言ったら、鹿児島の古い言葉。「東男に京女」という表現があります。それは良い意味で使われています。こちらでは「川内男に加世田女(オカコ)」と言います。加世田の女はふっくらとして色の白い人たちだと。川内の男は昔の武士を思わせる細長のヨカニセが多いと、そんなことです。

谷山では「山田男に中村女(オカコ)」と言います。

ところが、まだあるのです。「玉利男に野頭女」と。この場合の女(オカコ)はやっせん女の意味になります。

谷山駅から新入(シンユウ)、入来と続きますが、その近くに家を借りたことがありました。大きな家で相当な学歴のあられる方でした。谷山の方だったら名前を言ったら判ってしまいます。その長男が山田から嫁を貰われました。次男は中村から嫁を貰われました。最近まで山田の衆は良かでやなぁとか、中村女と昔から言いよったがなぁと語られるものでした。

谷山の入来、現在はそうですが、もとは中(カ)だったのです。「何故、中か」と、区域変更の時にもの凄い喧嘩があつたんじやないか。入来衆(イリキンシ)は中村のあげなやっせん衆と一緒になるのは嫌だと言って中(カ)を消せと反対したそうです。上福元が良かった、新入の辺の人たちと一緒に良かった、と。そんな形で消えて言った地名もだいぶあるのじやないかと思います。

#### 地名の垂直分布

海岸の地名。まず和田干拓。海岸にはいわゆる浜があります。その次に浜平(ハマヒラ)があります。その次は浜平を含めて久津輪(クツラ)というのです。久津輪も崖が沢山あります。あの辺を知っておられる方は多いと思いますが、崖が時々崩れることがあります。久津輪というのは喜入に名字があつたりしますが「崩れる場所」ではないかなと思います。

赤岩。そして掛之下。今はカケンシタと言いますが「崖之下」が本当じやないか。崖の下にあるのが掛之下です。

和田名。宮崎は近くに伊佐智佐神社が

あります。それから坂之下、坂口、本坂そして私の郷里の坂之上になります。私の名字は坂本ですが、昔は本坂に住んでいたと聞いております。

七ツ島の方からみると、賀呂(ガロ)があってその隣が水川。ミッカワと言います。その次が水樽(ミツケ)。その先に水樽宇都(ミツケイガウト)、そして上水樽(カミミツケ)・エミツケ)。こんなふうになっています。

地形的に飛び出した所を鼻坊(ナガウ)と言います。私たちも「ハナボウへ行たっくいが」と言います。鼻坊を越したら光山(ヒキヤマ)です。

鼻坊からこっちに出て来ると、田登(タノボイ)と言います。田圃は全然ないので谷になっていて、自然と台地に上がって行きます。谷登を田登という文字で当てたのじやないか。そして田登をあがり込んだあたりを堀(ホイ)というのです。その手前を今堀(イマボイ)と言います。堀・今堀という名字も沢山残っています。

三、その他のところで、一つだけ。天保山と小松原。天保山は天保年間に甲突川を川浚えして出来た場所だ、と。そうだったと思いますが、天保山というのは大阪にもありますし、京都に行った人たちが大阪を通って船で帰つて来る。大阪の地名と結び付けて定着したのではないか。小松原もそうです。決してコマツバイとは言いません。コマツバルとも言いません。コマツバラと昔からきちんとと言います。京都や大阪から帰つて来た人たちがコマツバラと言うて、それが定着したのじやなかろうか、と考えます。

もう一つ谷山の山手の方に網屋という

所があります。竹籠を編む人たちがおったから言うんだろうと思います。しかし網屋という所で竹を編んだという話は聞きません。その人たちが私たちの家の辺りまで来て道路端に坐ってショケとかいろいろなものをその場で編んで商売をしました。後になると家を借りてということもあったのでしょうか、人々を回って仕事をするのを見ていきました。そして網屋という名字の同級生もいました。

もう一つは笹貫という地名。波之平の刀鍛冶が刀を造りあげる時に奥さんに見んなどと言うたんだけど、いけんしょいかと窓を開けて見たんだそうです。刀はほぼ出来上がっておった。それに気付いて見んなと言ったときに見たと怒って刀を竹藪に投げ捨てた。そしたら笹がきれいに切れておったので笹貫と呼ぶようになった、と。しかし

地名の付け方としては違うのじやなかろうか。何故か、五ヶ別府の方にも笹貫という地名があるのです。だから笹貫というのはそのまま受け取っていいのかなと考えたりします。

最後に、私たちが住んでいた所の隣を「ジンコ」というのです。文字は「軸」と書きます。老人クラブとかゲートボールの時にいつも話すのです。誰か思い出さんか、ジンコとはどう書くのかと聞くと「陣光」と書くのです。しかし土地台帳には「軸」と書いてある。あれはいきんしたもんかなといつも話してはおります。長くしゃべりました。これで終ります。

平田 ありがとうございます。質問意見は後でまとめて聞くことにします。

今から「鶴」を説明してもらいます。

## 鶴

### 鶴の痕跡

現在、勤務地が加世田の万世ですので、毎日帰りがけに海浜公園のサンセット=ブリッジに散歩に行きますが、沢山の鶴が編隊を組んで飛んでいます。川鶴ですが、鶴の近くに隼がいます。サンセット=ブリッジに行くと、柱のてっぺんに鶴がよく止まっています。そして糞をそのあたりにします。高橋の南薩少年自然の家に渡る所に神之山橋(カノヤマハシ)というのがありますが、その橋のすぐ上の所に鶴のねぐらがあって、その森一帯がもの凄い川鶴の糞で真っ白なんです。またその辺にはいろんな

## 米原正晃

鷹が沢山あります。そういうことで「鶴の目鷹の目」ということにびつたしんどです。そういうことで、鶴のことを調べてみようと思いついたわけです。

今日配られた資料の中に「鳶ヶ峯」がありますが、ワシ・タカ類の中で鳶だけは別の扱いみたいです。他のすべての鷹はそれぞれ違うのに、大体鷹という形をしている。鳶だけが別な形、それは何なんだろうと思っているのです。鷹はいろいろ利用するのだけども、鳶だけは形も独特な形をしてますし、餌も死んだ動物生きている動物すべてをたべます

ので、鳶を下に見たのかな思ったりしています。

2. 南九州の鶴飼。大林先生が『隼人と海人文化』の中で「南九州に鶴飼はないでしょう。中国・東南アジアをみると、鶴飼は大体水稻耕作地帯に拡がっている。隼人は水稻耕作をやっていない。隼人が鶴飼をやっていたとは考えにくい。畿内に移された隼人、そこの阿田ではヤナを使って今でも鶴飼をしている。これは近畿に行ってから職業として割り当てられたのか、その辺はよく分からぬけれど、どうも不思議ですね」というような理解をされています。

中村明蔵先生の書物なども、鶴飼の痕跡らしいのはウガヤフキアエズの存在だけのことで、とくにないわけです。あたかも知れない、あたたとすれば南の方につながっているという程度のことが書かれているのです。そのあたりのところが一体どうなんだろう。畿内移住後の事だけでなく、南九州の鶴飼の問題というのはどうなんだろうと調べてみる気にはなったのですが、まだ十分ではありません。

今まで調べたのでは、小川亥三郎先生の『南九州の地名』の中に、大口の鶴飼の話があるわけです。これは聞き書きをされたもので、明治の初めでしょうかね、筑後の人たちが天秤棒を担いで来て、鶴を川下から川上に向けて並べて魚の群を包囲するような形で追わせていました、と。大口あたりの人というのは無塩(フエン)に縁がなかっただけに人気があった。そのために土地の漁師の妨害に遭って鶴が殺されてしまった、と。土地の漁師の妨害というのは、他所の鶴飼でも大体がそういう形のようです。

そのために鶴飼が減びて行くという形になっているようです。

大口の鶴飼では、どういう形で漁をしたのかというのがちょっと判らんわけです。舟を使うという形でなくて十数羽の鶴に紐を付けているのだと思うのです。鶴を追い立て、鮎を追い込む。鶴に喰ませることもしたかも知れません。あるいは鶴で追い込んで上方で網で捕ったのか、そのあたりのことがこれではちょっと判りません。

その他の所のやり方はどうなのか。昨日も東北は水稻耕作: 稲作民でなくてソバ・ヒエの畑作民だという話を赤坂さんはされたわけですが東北の方でも鶴飼をやっております。古いかどうかはちょっと判りませんが、鶴飼をしておりました。北海道はそう言ったものはないにしても、鹿児島だけ鶴飼の痕跡というのがほとんどない。一体これは何なのか、ということなんです。

熊本は人吉周辺に鶴川という地名があります。明らかに鶴飼をしたという痕跡があります。熊本市の南側に緑川というのがありますが、その上流の矢部川でも鶴飼をしているというのは、はっきりしているのです。つまり熊本県までは鶴飼の痕跡は確実にあった。ところが鹿児島県に入ると、今のところ全くない。本当になかったのか、というのが一つの問題なんです。もしあったとすれば何らかの痕跡があるだろうとは思うわけです。だから地名を拾い出してみたりしたわけです。

小川先生の論考や『新日本地名索引』の中に鶴飼を探してみました。鹿児島市岡之原町と坂元町、それから開聞町上野に鶴飼という地名があります。まだ場所を特定できません。この岡之原と坂元の鶴飼はどういう

ことになるのか。稻荷川の辺りのことなのか。どうしてこういう地名が此處に残っているのか。それから前回松田先生がされた牧園町万膳に「鶴飼の口」があります。鶴飼という地名があることから鹿児島に本当に鶴飼というのがなかったのかどうかが一つ問題としてあるだろうと思います。

もう一つは『上井覚兼日記』に鶴飼の記事があります。2枚目の一番最初の所を見て下さい。1行目の一一番下の所です。

「鶴之事、是者長吉常波と申川、桂川・大井川など様ニ爰元之鮎之名河にて候間、幼少より五羽も十羽も所持候て、逍遙のミに候つれハ、不及申候、漁獵之事、是又年少年比者慰かてらに蓑笠の翁ならぬ共、寒江之雪ニ釣を垂・・」と。こういうのがあるわけです。この長吉川というのは吹上町の永吉川であろう。そうしか考えられない。中には長良川の間違いじやにのかといいう人もいました。しかし、はっきりと長吉と書かれています。そして常波というのがトコナミと読むのかどうかがあるのだけども、私はやっぱり永吉川で鶴飼をしたと考えたい。これが天正13年でしたかね。

1580年ぐらいでしょうか（1585年）。文献史料の面でも鶴飼はあったと見てもいいのじやないかと思います。

### 鶴飼という名字

もう一つ、鶴に関する痕跡として名字があります。先程、坂本さんも触れられました。私も一応電話帳で鶴に関する名字を拾いあげてみました。

そうすると鶴瀬というのが鹿屋に非常に多いのです。それと鶴狩です。この中には鶴と関係のないものがあるかも知れません。

鶴川、鶴池、鶴殿。これはウドノと読むのかウドと読むのか判りませんでした。その中に鶴飼というのがあるわけです。垂水2・阿久根2・鹿児島1・都城1・宮崎市4・水俣1・砥用1。砥用というのは熊本県の矢部川の流域にあります。熊本市4・桜島1。電話をしてみました。鶴飼に関係がないか、言い伝えがないのか、と電話で尋ねました。

そうしたら垂水の方は、老齢の方でしたけど、先祖は谷山出身だ、谷山で鶴飼をしていた、と言われるのです。どこですかと聞くと、谷山の永田川で鶴飼をしていた、と。江戸時代に島津家の保護がなくなって鶴飼を止めて魚屋を始めた、と言われるのです。誰からお聞きになりましたかと聞くと、曾祖父からそういう形で聞いている。昔は谷山で鶴飼をしていたと言われるのです。そこで熊本市に4軒あるのも不思議ですね、熊本に電話をしたのです。そしたら鹿児島の谷山出身だ、4軒とも元々は谷山の鶴飼なんだ、と。もう一度垂水へ電話してみたら、それは遠い親戚に当たる、鹿児島の方も遠い親戚になるとおっしゃるのです。

水俣の方は久留米出身だということでしたが、先祖は京都府宇治の鶴飼村の出身だったということでした。宮崎市に4軒ありますがそのうちの2軒に電話したら、愛知の鶴飼で鶴飼姓の集落出身だとおっしゃるのです。

谷山からという人と宮崎の方は、先祖は鶴飼をしていたのだが、鶴飼という姓を貰ったのは源頼朝を助けたからだ、と。これは鶴飼という姓あるいは鶴飼という村に残っている伝承なんです。中には徳川家康に結び付くのもあります。源頼朝に結びつくというのは、つまり自分の出自をこう言った形にすること

によって鶴飼が滅びて行く時にその出自を正統化していくものとみられます。源頼朝とかへついで行く、そういう出自を持っているようです。しかし、これはその家に残っている伝承ということですので、本当に鶴飼をしたのかどうかはというのは、はっきりと判らんわけです。鶴飼をしたというのであれば、もう少しまわりとか島津家の文書とか、あるいは何らかの形で残つていいはずだけだと思います。

### 鶴塚

阿多に鶴塚というのがあります。しかし鶴に関する伝承というのが、ほとんどないのです。鶴塚というのが2ヶ所、万之瀬川を挟んで両側にあります。写真は両方とも加世田市益山のものです。こう言った小高い丘になっていまして、地元の方に聞くと昔はもう少し高かったのだけど、段々周辺を削られてしまったということです。此処に内神さまが祀られています。この方はこの辺を鶴塚山と呼んでおられるのですがこれが鶴塚だろうと思います。

このすぐ近くに双子池遺跡と看板がありますが、これは遺跡ではなく史蹟のことなんでしょうね。ウガヤフキアエズノミコトが生れた、という内容の看板があります。あの辺りにはいくつかそう言った場所というのがあります。つまり、そう言った内容の伝承が嘗ては広くあったのだろうなと思います。

### 桂姫

桂姫に関する問題ですが、これなどは全く関係のないことかも知れません。国分の上之段に桂姫の話があります。三国名勝団会の記事をちょっと読んでみます。「上

之段村の地、長野谷山・平尾山の間にあり、長野谷・平尾両山を桂之尾と呼ぶ。上古、桂姫居城なりしといふ・・・山間、稍平なる所・・・是を城跡とす・・・神功皇后、三韓國を御征伐ありし時、桂姫從軍して武功あり、皇后因て桂姫を賞して名を勝浦姫と賜ひけり・・・」。この桂姫というのが一体何なのか。神功皇后と桂姫という形で出て来るわけですね。いわゆる「かつらの木」があった。そして桂姫と勝浦姫、そういうことがセットになっているわけです。元々は此處にかつらの木があった。そのことから、そういう呼び名が出たんだろう、それが桂姫の伝承と結び付いて来ているのだろうと思うのです。

網野善彦さんの『日本中世の非農耕民と天皇』の中に「桂女と鶴飼」という項目があります。その中で桂女というのは京都の桂川に住み、天皇に鮎を貢献していた鶴飼集団の女性との説明があります。ところが天皇家への貢献という役割が段々落ちていく。その他の人たち、例えば貴族や豪族とか一般の金持に売ったりするようになって行くのです。そして婚礼とか出産とか家督相続などの際に祝い言を述べる女性になっていく。それがいわゆる桂女なんです。

平安後期から鎌倉時代になると、鮎を入れた桶を頭上に載せて売る鮎売りの行商人になっていく。室町時代には鮎鮓とか勝栗などを売り歩く遊女となっていく。そして広くいろんな所を遍歴して勝栗を献ずるというようなことから勝浦姫と呼ばれるようになる。縁起の良い女性として戦国大名に付いて回る。豊臣秀吉とか徳川家康の軍陣などにはべっていく。そして祝事などに祝詞をあげていく者となり、後には鮎売りになっていく、という

ようなことが書かれています。

この桂姫伝説はいろんな要素がくつついで来たのでしょうか、桂姫のことが出来来るということは何らかのそう言った関係として見てよいのではないかと思います。しかしそれが鶴飼と結び付くとの証拠にはならないわけで、誰がこの桂姫の伝承を上之段の地に伝えたのかとなると、とんと判りません。鶴と無理矢理結び付けるとすると、そういうことかの程度です。

### 鶴の呪力

このことで有名なのはウガヤフキアエズノミコトの産屋ですが、鶴というのは三内丸山遺跡でも鶴の骨が出土しています。最初は食物としてあったと思うのです。その鶴が段々女の人人が子を孕むとか安産によいということになって行つただろうと思うのです。

鶴の羽根を用いた屋根が出来上がらないうちにという意味、それについてはいろんな方が書いておられます。鶴の民俗を考えるときに必ずそれが出て来ます。沖縄あたりでは妊婦がおる所では屋根の最後を必ず一つ残すそうです。これは何も南の方と結び付けるだけでなく、高知県でも屋根の最後は必ず一つ残す風習があるとのことです。出産を控えた家とか、あるいは建築儀礼においても年末になつたら屋根を一つ残して年を越せるとか、あるいはその家に不幸があった時には屋根を葺くのを一つ残して年を越して葺く風習があるのです。

もう一つ完全にあかすというのにこんなのがあります。妊娠している家では味噌樽の蓋などは全部開けてしまう。そうすることによって産道が開くというわけです。

それに類することで呪いをしていくのです。ウガヤフキアエズノミコトの話もそういうようなこととしてあるのだろうなと思つたりします。

ウガヤ：鶴の羽根で屋根を葺く。沢山の羽根がいると思うのですが、そんなに取れたかなと思うわけです。屋根を葺くだけの羽根が取れたかどうかは判りませんが、そう言った信仰があったのは間違いないと思うのです。

### 鶴縄

鶴縄というのをそこに書いておきました。万之瀬川に鶴縄という漁法があります。今というオドシの「ぶり」ですね。今では木の葉を付けたり、木とかになっています。万之瀬川ではこの鶴縄でボラ・ヅクラを捕ります。川内川だったら鶴縄で鮎などを捕ります。写真を入れておきました。鶴の羽根をずーっと付けるのです。資料としてあげたのが『肥前州産物図考』の中にある絵です。縄に鶴の羽を付けて、下の方から鶴で追いかける漁法です。上方にも棒を持っている人がいます。おれを鶴竿を言います。鶴竿にも鶴の羽根を付けています。何故鶴なのか。鶴が効き目があるということじやなくて、一つの呪術なんだろうと思っています。今でも畑などに行くと鳥の羽根を吊り下げている所があります。これなどは鳥の力でおどす、そう言ったものがあるのだろうなと思っています。

まだ他に鶴に関するものは、いろいろあるかも知れません。証明は出来なくとも、鶴に関するものということで拾い出してみただけのことです。一応これで終ります。

### 〔質疑応答〕

平田 鶴飼に関しては会報70号の終りの方にも「永吉川の鶴飼」を打ち込んでおきました

た。その続きと思って聞きました。資料の2枚目に鶴飼の分布図がありますね。日本全国に拡がっているもんだな思つて見ているのですが。それから3枚目の右上には鶴飼サミットというのがありますね。こんなに残っているのですか。

米原 そうです。いずれも観光業としてやつてゐるわけです。

納 資料の右側の4人名。鶴木、川内4、その次の「火のや」。

平田 「鹿屋」でしょう。ワープロで「かのや」と打つたら「火のや」と出て來ました。

米原 あゝ、これは鹿屋です。直つていませんね。

平田 ワープロでは、こういうミス、いたずらがよくあります。

青柳 うろ憶えですけど、入来文書の中に川内川で、場所的に川内川ですから川内川だと思うけど、鶴飼を催した時の役割分担を記した文書があるのですけど、入来文書をずーっと見て頂けたら判ると思うのですが。そういうデータベース的なものは出来ていないのですか。例えば「向江」を引いたら、旧記録の向江がずらーっと出て来るとか。

平田 それは、まだでしょう。そこまでやつてない。鶴飼に関しては華南地方から伝わって来て、こちらで育った鶴飼が隼人の畿内移住によって各地に広まつて行ったという考え方はあるわけです。大林さんが隼人は鶴飼をやつてない、南九州に鶴飼はない、という分析は結論がちょっと早いのじやないか。むしろこちらが本家で近畿地方とか岐阜の方に技法が移つて

行ったと見るべきではないだろうか。上井覚兼日記に記録があつたり、今青柳さんから指摘があつた入来文書にて來たりで、そういう痕跡がありますから、こっちに古くからあつたと考えさせられます。また鶴飼とか鶴狩という地名は動かないのじやないか。

三善 1ページに串木野市羽島の「鶴瀬」というのがありますね。これは人名ですか、地名ですか。

米原 これは地名です。

三善 鶴瀬という場所はですね。

米原 荒川あたりじやないですか。

三善 いや、川内川の方にあるのです。

平田 川内川だったら東郷じやないですか。

三善 いや、沖にあるのです。沖の島というのがあるのです。此處は潮が満ちたら消えるぐらいの瀬があるのです。よくエソが捕れる所で私は行つたことがあるのですが、大体川内川口です。鶴が集まつた瀬じやないかと思います。

納 鹿児島でも「鶴」に関係のある地名とかいろいろな漁法があつたと聞いたのですが、鹿児島に鶴が今もいるのですか。

米原 鶴ですか。沢山います。甲突川の河口あたりにも多くはないですけども、鶴はいます。錦江湾にも入つてますし、池田湖・大隅湖にも入つて来ます。

納 あゝ、居るわけですか。

米原 はい、ただこっちに来るのは川鶴です。

納 向こうの方には海鶴もいるわけです。

米原 はい、海鶴は大体海岸の岩場に居ります。

松田 川の鶴ですよね。カワウソは?

米原 これは鳥ではない。ご免なさい。

(笑い)。これは鶴と同じように、という意味であげました。

平田 カワウソを利用する漁法があるのですか?

松田 宮崎の鶴戸神宮の「ウ」は何ですか?

米原 あれは洞穴のウトラということだとおもってるのでありますけど。

平田 海鶴も棲んでいたかも知れませんね。

米原 勿論棲んでいたでしょうけど。そのウトを入れると沢山になりますから全部オミットしました。

#### 小字未収録の9ヶ町

平田 他にありませんか。今回はお二人に話をして頂きました。坂本さんは奥様の具合が今のところ良いということで6月に予定していたのを今回に引き寄せました。6月の発表者がいないのですが、どなたか希望者はありませんか。

今考えているのは角川日本地名大辞典の末尾に小字一覧が付いておりますが、の中に小字を収録していないのが9ヶ町あるのです。手分けして前回松田さんがやったような、また以前私が末吉の地名とか谷山の地名を分析したようなことをやったら、後々の資料になると考えております。此処ならやれると名乗りをあげて下さい。

繁昌 野田なられます。

平田 あなたは野田出身?

繁昌 来週から野田の調査に行きますので、入手出来るのではと思って。

平田 野田をやって下さい。以前野田の役場にコピーを貰いに行ったのがあります

から、あなた宛に送ります。

繁昌 この前もらったあのような表を作りますか?

平田 あれは膨大な分量になるので、あのようなものでなくても結構です。私が分析した谷山の地名とか末吉の地名とか、あの程度でよいのです。野田を6月にばたばたとやってくれない?忙しい?

繁昌 小字名を調べるだけなら出来るがなと思って。そういう分析をする意味じゃないのですか?

平田 理解出来たように分析してもらえばよいのだけど。

繁昌 ちょっと無理かも。

平田 地名だけをリストアップして読みだけを知ることが一番大事だから、「よみ」だけで結構です。屋久町は屋久町郷土誌の中に収録されています。内之浦・高山・東串良は郷土誌に収録されていません。喜界と瀬戸内は山下文武という方が奄美の小字を全部拾い上げておられます。米原さんに坊津を頼もうかな。桜島は字絵図から私が拾い出しましょう。問題は内之浦・高山・東串良。機動力のある人が出かけて行って貰ってください。分析をしなくてもよいから、地名の読み方だけをデーターとして引っ張り出せるようにしておけば、そのうち役に立つこともあるでしょう。

米原 いつ頃までという一応の時期の目標がありますか。

平田 いつでも結構です。

米原 夏ぐらいまででよければ、高山を。

平田 坊津もお願いしてよいですか。

米原 集めるのが先決でしようから。

(以下、省略)

# 私の地名散歩

坂本 誠

私の日常生活からの地名散策。

## 一. 聴覚障害者の地名手話表現（手話には標準手話と地方の手話がある）

### （一）世界各国や日本各県都市の手話表現

1. 気象……東京(東・日の上研)・京都(西・日の沈没)・新潟・旭川
2. 地形……日本・北海道・大分・イタリア
3. 特産……秋田・山形・福岡・岐阜・山梨・ブラジル・ニュージーランド
4. 歴史……仙台・佐賀・熊本・茨城・大阪・水戸・フランス・ドイツ
5. 信仰……奈良・広島・宮崎
6. 観光……鹿児島・滋賀・沖縄・イギリス・スペイン・タイ・フィリピン
7. 風俗……インド・ソ連・ロシア・タイワン・ハワイ・オランダ
8. 地名……山口・神奈川・鳥取・香川・静岡・徳島・三重・群馬・櫛山
9. 帽子……韓国・ベトナム・メキシコ 10. 国旗……アメリカ・スイス
11. 植物……栃木 12. その他……愛知・愛媛・札幌・中国・北朝鮮

### （二）鹿児島県内の各市町村地名の手話表現

指宿・伊集院・伊敷・加世田・枕崎・串木野・出水・川内・大島・屋久島・種子島・鹿屋・垂水・志布志・佐多・知覧・川辺・谷山・脇田・騎射場・鴨池・天文館・高見馬場・西鹿児島駅・武岡・武之橋・城山・紫原・松元・町

## 二. 鹿児島市谷山地方の地名散策

### （一）谷山の地名特に山手は「ええかげんなもんじゃった」について

#### 1. 谷山市誌の7. 地名の起こりの話。より抜粋

中村には鶴ヶ原、麦打場の小字名があるが、昔村役人が村々の小字を決める時、あちこち歩き回って適當な名がつけられないで困っていると、急に足元から鶴が飛び立ったので鶴ヶ原、そこを通り抜けて間もなく、ちょうど麦を打つ人がいたので、その辺を麦打場と決めたそうです。さてあちこち歩きましたが、一番最後の所は、大変ぬかった田んぼで、ようやくそこを通り抜け、歩きやすい田んぼにたどりついたので、この付近は今までの田んぼと比べて極楽のようだというので、極楽という小字をツケたということです。今でも中町に残っている地名です。

中村の人たちは、入来原を足形原といい、昔この付近に大男がやって来て、この足形原と隣の登上平に、またがって水を飲んだということです。それ

からこの付近を水喰（ミックレ）と呼ぶようになったそうです。

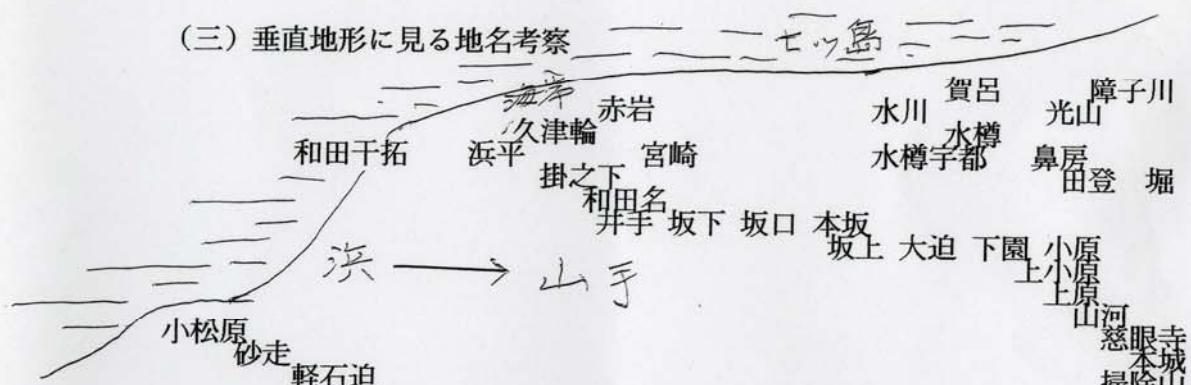
#### 2. 中山・五ヶ別府・下福元・上福元の山手の地名より抜粋

登り上り・軽石迫・砂走・鬼藪・鬼ヶ谷・蜂の巣・段・大蛸山・骨五郎・串毛・炭床迫・灰床・蟹渡・登り・下り・横枕・芋掘河内・鳩宿・孝行迫・鼻房・田登・山河・札下・ガッコンアト・ヘヤマ・サンダラ・アンダ坂

### （二）谷山の合成地名

中山……中村と山田 福平……福元と平川 宮川……宮前と川口  
谷山……谷上と山田（一説による） 中郡……中村と郡元

### （三）垂直地形に見る地名考察



### （四）地形から見ての地名考察

掛之下……崖の下？ 久津輪……轡の字の変形と聞いたが、よく崩れる場所と昔話との変形では？ 水川……井川？ 水樽……水の流れる谷？ 田登……谷を登って行く所？ その証拠に谷を登って行くと今堀に着く 鼻房……飛び出た山？ 影原……雨が降ると川が出来て田畑がかける所？ 掃除山と障子川……谷山の発音からして同意語？ 山河……山はあるが泉、井川、など無い？ 鬼ヶ谷……山奥の谷？ 山角……ヤマズミは山の端のこと？

### 三. その他

- 天保山・小松原などの地名は江戸時代末期に殿様または士族が京都への行き帰りの大坂の地名を利用したのでは？他にも多いのでは無かろうか。
- 網屋=籠やバラなどの竹細工を職業とする人達の住んでいる地域？
- 笹貫は波之平伝説とは関係ないのでは？
- 軸=ジンコと云うところの地名だが昔は車の軸をジンコと云っていた？
- 鼻房=ハナッポウがハナボウとなりやがてハナボと変わって行った？
- 多々良=昔の製鉄所らしいが金屎は全然出ないが？多良姓はある。

## 1、鳥利用の漁・獵

ア、タカ（オオタカ）・・・ツル・ガン・シギ・カモなどの大型の鳥に用いる。  
 （ハヤブサ）・・・同じ  
 （ハイタカ）・・・脅し・コガモ・クイナ・ヒバリなどの小型の鳥に使う。

そこで、鳶ノ巣、鷹ノ巣のこと

イ、アピー「アビの群れが小魚を改定に追い立てると、その小魚をねらってタイやスズキが集つまつてくる。そこでこの鳥を目指して船を寄せ、人間が魚を捕るもので、鳥持網代と呼ばれている。」  
 不破茂「魚心漁心」1994・4・9南日本新聞

ウ、カワウソー鶴と同じように利用する漁・・・中国南西部・バングラデシュ

## エ、鶴飼

## 2、南九州の鶴飼

ア、「南九州に鶴飼はないでしょう。中国・東南アジアを見ると、鶴飼は大体水稻耕作地域に広がっている。隼人は水稻をやっていない。隼人が鶴飼をやっていたとは考えにくい。畿内・・・に移住させられた隼人。そこの『阿多』ではヤナを使って今でも鶴飼している。これは近畿に行ってから職業として割り当てられたのか、そのへんはよく分からぬけど、どうも不思議ですね。」（大林太良「座談会『隼人と海人文化』海と列島文化月報2）

## イ、大口の鶴飼

明治年間、筑後の人

「鶴匠達は川内市から大きな竹籠に鶴を一羽ずつ入れて天秤棒をかついてきた。十数羽の鶴を川下から川上にむけて並べ、魚群を包囲するような形で追わせ・・・。」「鶴飼で取れた生魚は人気。土地の漁師の妨害にあい鶴が死ぬ。」

（小川亥三郎「南九州の地名」）

## ウ、熊本の鶴飼・東北の鶴飼

「かつて鶴飼が行われたことのある土地は、全国で150かにも及ぶ。」

可兒弘明「鶴飼」

矢部川の逐鶴

球磨川水系の鶴川

## 3、地名

ア、鶴の木（菱刈町南浦・菱刈町下手・姶良町重富）、鶴瀬（山川港の入口）、  
 鶴ノ島（坊津港入口）、うのとりはえ（日南海岸）、鶴ノ島瀬（屋久島安房港入口）  
 鶴泊（菱刈町）  
 （小川・前掲書）

イ、鶴島（うのしま）（都城市）、鶴崎（十島村平島）、鶴ノ瀬鼻（鹿屋市、阿久根市黒之瀬戸）、鶴の木谷（田代町、東郷町）、鶴瀬（うのせ）（笠沙町、東町、三島村竹島）  
 （新日本地名索引）

ウ、鶴飼（鹿児島市岡之原町・坂元町・開聞町上野）、鶴飼の口（牧園町万膳）、鶴ノ瀬（串木野市羽島）、鶴木原（蒲生町上久徳）、鶴狩（喜入町中名）  
 （角川日本地名大辞典・鹿児島）

## 4、人名

鶴木（川内4、火のや2、大口12、菱刈6、財部1、出水1、阿久根1、川辺1、鹿児島市12、郡山1、都城6、熊本市3、串間3、小林5、えびの1）

鶴の瀬（宮之城1、串良2、鹿屋33、鹿児島市2）

鶴狩（東串良1、鹿児島市11、伊集院町5、日吉町26、吹上1、鶴島（財部1、都城24）、鶴山（開聞1）、鶴家（鹿児島市2）、鶴川（鹿児島市1）、鶴池（鹿児島市2）、鶴殿（天草町1、宇土1、熊本市5）、鶴飼（垂水2、阿久根2、鹿児島市1、都城1、宮崎市4、水俣1、砥用1、熊本市4桜島1）

・伝承・・・谷山から、源頼朝を助けた、鶴飼村から

## 5、鶴の塚（金峰町宮崎・加世田市益山）

## 6、桂姫（国分市上之段）・桂女

「鶴飼と桂女」（網野善彦）『日本中世の非農業民と天皇』

## 7、鶴の呪力

・産屋とウガヤフキアエズ・・・条件充足の忌避

・鶴縄

鵜木島（下総相模）、鵜渡根島（伊豆）、鵜来島（土佐）、鵜島（常陸、甲斐、石川）、鵜瀬島（長崎）

鵜ノ小島（五島列島）、鵜川（秋田、新潟、石川、加賀、常陸）、鵜川原（三重）、鵜方（三重）、鵜坂

（富山）、鵜鷺（島根）、鵜峠（島根）、鵜路（京都）、鵜渡路（新潟）、鵜倉（三重）、鵜城（確太）、鵜

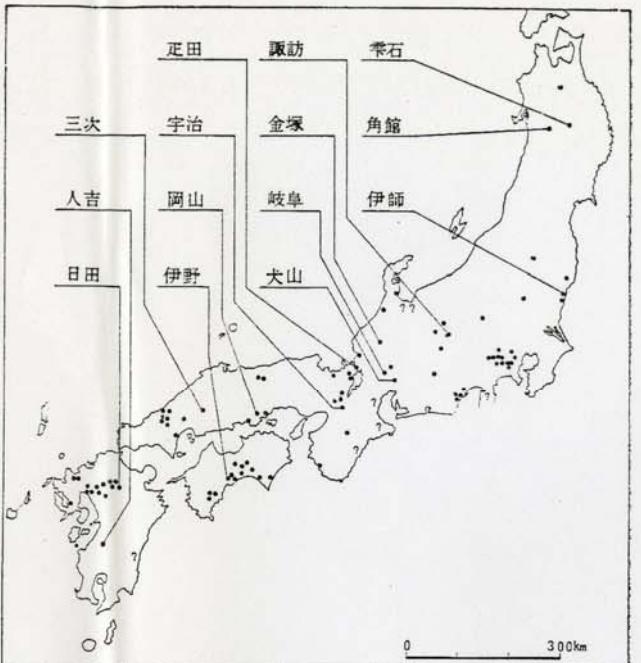
鶴足津（宮城）、鵜足（宮城）、鵜殿川原（山形）、鵜殿（浜津、三重、大隅）、鵜苦（北海道）、鵜

江）、鵜江（備中）、鵜崎（陸前）、鵜田（遠江、駿河）、鵜津（遠江）、鵜取（陸奥）、鵜沼（岐阜）、鵜山岬

（山口）、鵜ノ瀬（対馬）、鵜飼（岐阜、広島、甲斐、岡山、長門、遠江）、鵜浦（岩代）、鵜ノ鼻（石見）、鵜ノ森（千葉）、鵜ノ山（愛知）、鵜住居（岩手）、鵜沼（岐阜）、鵜山岬

（山口）、鵜ノ瀬（対馬）、鵜飼（岐阜、広島、甲斐、岡山、長門、遠江）、鵜取（陸奥）、鵜沼（岐阜）、鵜山岬

（山口）、鵜ノ瀬（対馬）、鵜飼（岐阜、広島、甲斐、岡山、長門、遠江）、鵜取（陸奥）、鵜沼（岐阜）、鵜山岬



可兒弘明「鵜飼」



ウの地名分布図

大田眞也「熊本の野鳥探訪」



鵜飼を示す埴輪（群馬県群馬町八幡塚古墳出土）  
かみつけの里博物館蔵

かみつけの里博物館蔵

桂姫城地頭第一里半、上之段村の地、長野谷山、平尾山の間にあり長野谷、平尾、兩山を桂之尾と呼ぶ、上古桂姫居城なりしといふ、山下より溪谷に傍ひ、林木の間を登降曲折すること數町にして、山間稍平なる所を得是を城跡とす、其平所に一奇樹あり、かつら木といふ、高二丈四尺、其土根より百千の枝を生ず、因て千本木とも呼ぶとなり、土人云此木他所何の地にも更にあることなく只一樹のみなりといへり又靈樹なりとて、伐取ることを禁ず、古ヘ神功皇后三韓國を御征伐ありし時、桂姫從軍して武功あり、皇后因て桂姫を賞しして、當國にも前代勝浦姫の妹一人召され、敷根へ宅地を賜ひ、居住せしめられたりといふ、此所其舊址なるべし、又城後の筆を桂のみねといふ、

### 三国名勝圖会

鵜飼

庭ニ四本ノ木を植、若侍達暮々蹴鞠共候へハ、大方法様ハ承置候、かたはらいたく覺候、鵜

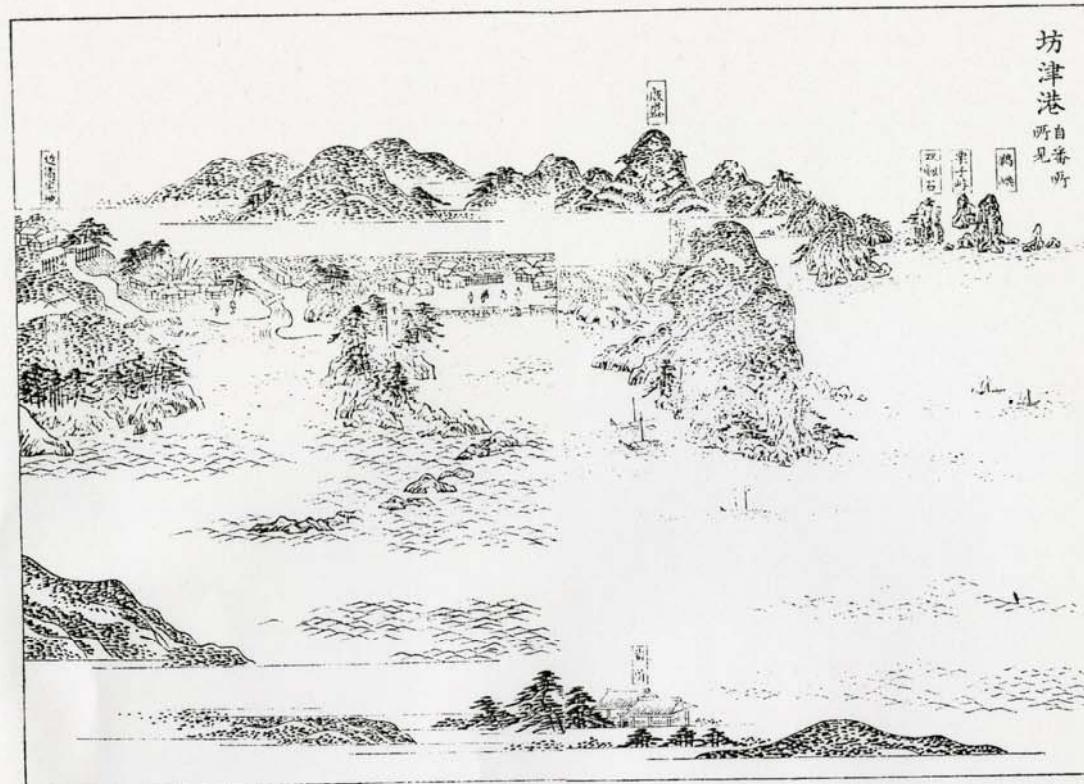
之事、是者長吉常波と申川、桂川・大井川など様ニ爰元之鮎之名河にて候間、幼少より五羽

も十羽も所持候て、逍遙のミに候つれハ、不及申候、漁獵之事、是又年少之比者慰かてらに、

(5ウ) 裹笠の翁ならぬ共寒江之雪ニ釣を垂、五湖ならぬ遠嶋に獨心を樂しみ候事とてハ、魚を得て筌を忘したるまでにて候、獵之事、一入愚身今及も數寄至極なれハ、先犬一兩疋、中絶

狩生最モ之

上井覚兼曰き



三国名勝圖会

813 肥前州產物圖考

表1 高津川水域を中心とする放し鵜飼

水 域	手 法	捕 獲 魚 (多い)
下流域 高津川 (河口域より上流13km神田橋) 益田川 (河口域より大谷) 三隅川 (河口域より上古和) 鳴瀬湖	舟鵜・捕鵜・逐鵜 (投網)・静水面	フナ/ウグイ/イナ/ボラ
	舟鵜・捕鵜・逐鵜 (投網)・静水面	イナ/ウグイ/フナ/コイ
	舟鵜・捕鵜・逐鵜 (投網)・静水面	フナ/コイ/ウグイ
	舟鵜・捕鵜・逐鵜 (投網)・静水面	フナ (多)
中流域 高津川 (吉賀川) (日原より六日市) 益田川 (堀川橋より美都町) 支流 津和野川 (日原より津和野町) 支流 四見川 (横田口より道川)	徒歩鵜・捕鵜 (などり)・逐鵜 (えこ網/鵜せき網=投網/舟+まき網)・静水面 (瀬+瀬)	ウグイ(多)/カワムツ
	徒歩鵜・捕鵜・逐鵜 (投網)・静水面 (瀬)	フナ/ウグイ/カワムツ
	徒歩鵜・捕鵜・逐鵜 (投網)・静水面 (瀬)	フナ(多)/ウグイ/コイ
	徒歩鵜・捕鵜・逐鵜 (投網/刺し網)・静水面 (瀬)	ウグイ(多)/オイカワ

表2 舟鵜飼 (三次) と放し鵜飼 (益田) の比較

	舟 鵜 飼	放 し 鵜 飼
場 所	中 流 域	下流・中流より上流・溪流・湖
時 期	夏 (6月15日より9月15日)	冬 (10月1日より3月31日まで)
操 業 時 間	夜	朝から夕方
使 用 物	舟 手 綱 (6.75メートル)	川岸に舟をつけ鵜を放す (下流から中流) / 溪流では舟を使わず 手綱使わず 投 綱
操 業 時 使用 数	6 羽	2 羽
対 象 魚	ア ユ	ウグイ・フナ・コイ
小 量	広い空間からペアリングし 狭い空間に移す	年間を通して狭い空間に1羽とする (下流域) 年間を通して狭い空間に2羽とする (中流域・溪流域)
ペアリング	ペアリング必要	ペアリング必要でない
トレーニング	小星の中の池で水浴びする	1日1回川に連れていき水浴びさせる
計	1日に夕方1回	1日に夕方1回

\* 三次の大舟鵜飼については、藤原徹氏の「鵜のこころ・鵜匠のこころ」『列島の文化史6』の中より引用

全国鵜飼サミット交流大会会員市町村

(十四市町村)  
山梨県石和町  
愛知県犬山市  
岐阜県岐阜市  
京都府京都市  
岐阜県関市  
島根県益田市  
和歌山県有田市  
広島県三次市  
大分県日田市  
福岡県杷木町  
愛媛県大洲市  
茨城県土浦市  
山口県岩国市



全国鵜飼サミット

鵜飼サミット・シンボルマーク

民衆研究 86. H2.  
宍野幸徳 「高津川の放し鵜飼」



第六冊・図

(1)

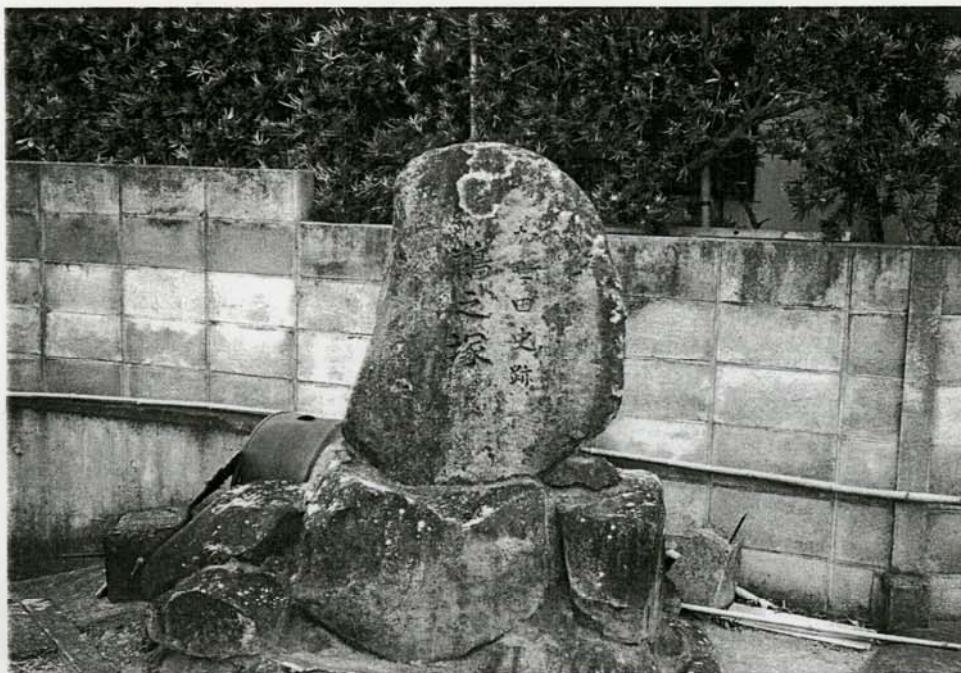
日本庶民生活史料集成 卷10



鵜縄 (

東郷町南瀬

(薩摩地区有形民俗調査報告書)



鶴之塚 (加世田市 益山)



双子池 (金峰町 宮崎)



鶴之塚 (加世田市 益山)